(財)八尾市文化財調査研究会報告22

八尾市埋蔵文化財発掘調査概要

平成元年度

Ⅰ 矢作(やはぎ)遺跡(第1次調査)
Ⅱ 矢作遺跡(第2次調査)
Ⅲ 花岡山遺跡(第1次調査)

1989年

(財)八尾市文化財調査研究会

八尾市埋蔵文化財発掘調査概要

平成元年度

Ⅰ 矢作(やはぎ)遺跡(第1次調査)

Ⅱ 矢作遺跡(第2次調査)

Ⅲ 花岡山遺跡(第1次調査)

1989年

(財)八尾市文化財調査研究会

はしがき

八尾市は生駒山地によって奈良県と接し、茅渟海にそそぐ大阪府の東部にひろがる衛星都市です。地形的に古大和川が貫流する流域に形成された沖積平野であっただけに、縄文・弥生の時代から人びとが定住した、埋蔵文化のきわめて豊かに包蔵する地域です。それだけに現在の都市の再開発のなかで、これらの文化財を破壊から守り、後世の市民のために保存し伝達することは、今日にある私共の英知であらねばなりません。すでに本市におきましても、そのため昭和39年に市民憲章を制定し、その中で「文化財を大切にしましょう」を掲げ、市民と共に文化財保護の重要性を訴えたところです。

さて、このたびは昭和61年度～昭和62年度に実施しました矢作遺跡（第１次・第２次調査）及び、昭和61年度に実施しました花岡山遺跡（第１次調査）の調査が完了しましたので、その発掘成果を関係各位に供覧することで、文化財の記録保存による地域史研究に一そうの活用を希望する次第です。

最後になりましたが、これらの発掘調査に際し深いご理解と協力を給わりました関係各位の皆さまに対して心からお礼申し上げます。

平成元年９月

財団法人　八尾市文化財調査研究会

理事長　福　島　　孝

序

1．本書は財団法人八尾市文化財調査研究会が昭和61年・62年度に実施した発掘調査成果の概要報告を集録したもので、内業整理および本書作成業務は各現地調査終了後に着手し、平成元年７月30日をもって終了した。

1．本書に収録した概要報告は、下記の目次のとおりである。

1．本書の構成・編集は原田昌則・成海佳子が行い、文書等は各例言に明示した。

1．本書の掲載の地図は、大阪府八尾市市役所発行の2500分の１（昭和61年８月発行）を使用した。

1．本書で用いた高さの基準は東京湾の平均海水面である。

1．本書で用いた方位は、磁北を示している。

1．遺構は下記の略号で表わした。

溝……ＳＤ　井戸……ＳＥ　土坑……ＳＫ　小穴……ＳＰ

1．実測図の縮尺は、遺構は20分の１・40分の１・80分の１を基調とし、遺物は４分の１に統一した。

1．遺物実測図は、断面の表示によって以下のように分類した。

弥生土器・土師器・瓦器……白　須恵器・陶器・磁器……黒　木製品・瓦・石製品……斜線

1．生産地が明確な遺物については、生産地遺跡で呼称されている遺物名を使用した。

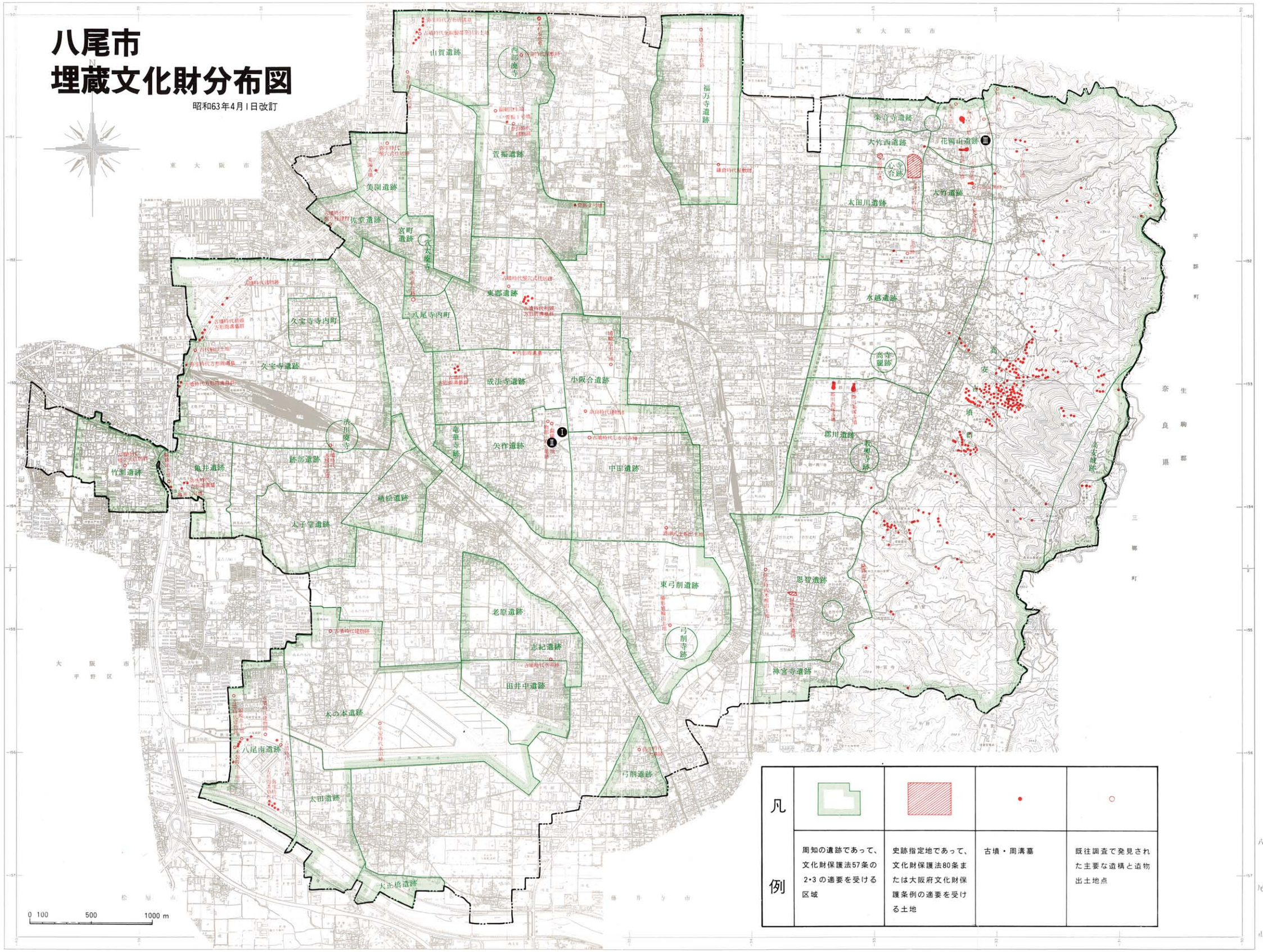
1．各調査に際しては、写真・実測図の他にカラースライドも多数作成している。市民の方々が広く利用されることを希望する。

目　　次

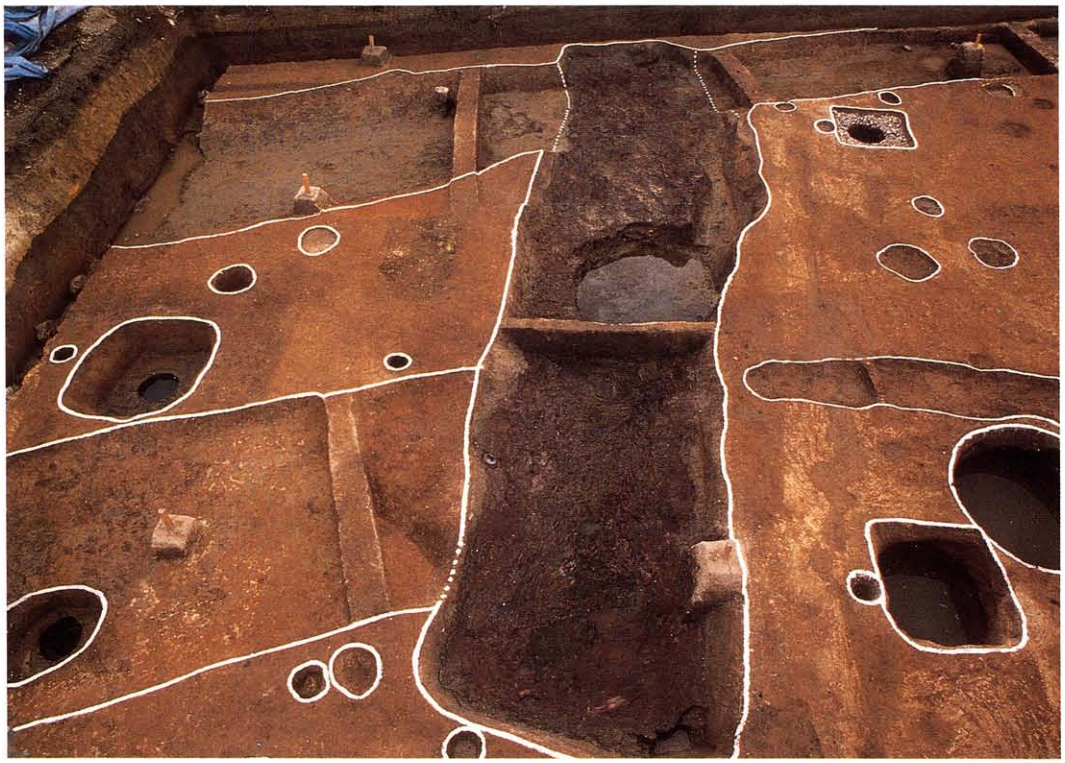
はしがき
序
八尾市埋蔵文化財分布図
Ⅰ　矢作遺跡（第１次調査）……1
Ⅱ　矢作遺跡（第２次調査）……103
Ⅲ　花岡山遺跡（第１次調査）……133

八尾市
埋蔵文化財分布図

昭和63年4月1日改訂



凡例				
	周知の遺跡であって、文化財保護法57条の2・3の適要を受ける区域	史跡指定地であって、文化財保護法80条または大阪府文化財保護条例の適要を受ける土地	古墳・周溝墓	既往調査で発見された主要な遺構と遺物出土地点



上段　池状遺構（北から）　下段同上断面（南から）

Ⅰ 矢作遺跡(第1次調査)発掘調査概要報告

例　　言

1．本書は、八尾市高美町３丁目46－１で実施した八尾税務署建設に伴う発堀調査の概要報告である。

1．本書で報告する矢作遺跡（第１次調査）の発堀調査業務は、財団法人八尾市文化財調査研究会が近畿地方建設局から委託を受けて実施したものである。

1．現地調査は昭和61年12月20日から昭和62年３月20日にかけて、原田昌則を担当者として実施した。調査面積は1000㎡を測る。なお、調査においては上辻よしえ・岡田清一・小林幸子・田中明美・西森忠幸・森本啓二郎・横山妙子・和田敦子が参加した。

1．内業整理は、現地調査終了後実施し平成元年７月30日に完了した。

1．本書作成に関わる業務は、遺物実測・遺物復元－浅井絹江・麻田優・柏本幸寿・田中秀行・中切孝彦・中西隆子・八元聡志　図面レイアウト－原田　図面トレース－中西、遺物写真撮影－原田　浄書－中西が行った。

1．本書の執筆は主に原田が担当したが、第４章出土遺物観察表の一部を八元が担当した。

1．全体の編集は原田が行った。

本　文　目　次

巻頭図版　池状遺構

第１章　調査に至る経過……1

第２章　地理・歴史的環境……2

第３章　調査概要……6
　第１節　調査方法と経過……6
　第２節　基本層序……7
　第３節　検出遺構・出土遺物……7

第４章　出土遺物観察表……63

第５章　まとめ……101

挿　図　目　次

第１図　調査地周辺図……1
第２図　調査区設定図および地区割図……6
第３図　基本層序模式図……7
第４図　検出遺構平面図……8
第５図　ＳＢ－１・ＳＢ－２平断面図……9
第６図　ＳＢ－３平断面図……10
第７図　ＳＥ－１平断面図……11
第８図　ＳＥ－１出土遺物実測図……12
第９図　ＳＥ－２平断面図……13
第10図　ＳＥ－３平断面図……13
第11図　ＳＥ－２出土遺物実測図……14
第12図　ＳＥ－３出土遺物実測図……15

第13図　ＳＥ－４平断面図……16
第14図　ＳＥ－４出土遺物実測図……16
第15図　ＳＥ－５平断面図……17
第16図　ＳＥ－６平断面図……17
第17図　ＳＥ－７平断面図……18
第18図　ＳＥ－７出土遺物実測図……19
第19図　ＳＥ－８平断面図……21
第20図　ＳＥ－８出土遺物実測図……22
第21図　ＳＥ－９平断面図……23
第22図　ＳＥ－９出土遺物実測図……23
第23図　ＳＥ－10平断面図……24
第24図　ＳＥ－10出土遺物実測図……24
第25図　ＳＥ－11平断面図……26
第26図　ＳＥ－11出土遺物実測図……27
第27図　ＳＥ－12出土遺物実測図……27
第28図　ＳＥ－13平断面図……29
第29図　ＳＥ－13出土遺物実測図……30
第30図　ＳＫ－２平断面図……31
第31図　ＳＫ－３平断面図……32
第32図　ＳＫ－４平断面図……32
第33図　ＳＫ－２・ＳＫ－４出土遺物実測図……33
第34図　ＳＫ－５平断面図……33
第35図　ＳＫ－５出土遺物実測図……34
第36図　ＳＫ－６平断面図……35
第37図　ＳＫ－７平断面図……36
第38図　ＳＫ－７出土遺物実測図……37
第39図　池状遺構平断面図……38
第40図　池状遺構出土遺物実測図……39
第41図　ＳＤ－１・ＳＤ－２平断面図……41
第42図　ＳＤ－１出土遺物実測図……42
第43図　ＳＤ－２・ＳＤ－３出土遺物実測図……43
第44図　ＳＤ－８出土銭貨拓影……44

第45図　ＳＤ－14平断面図……47・48
第46図　ＳＤ－14出土遺物実測図１……49
第47図　ＳＤ－14出土遺物実測図２……50
第48図　ＳＤ－14出土遺物実測図３……51
第49図　ＳＤ－14出土遺物実測図４……52
第50図　ＳＤ－14出土遺物実測図５……53
第51図　ＳＤ－14出土遺物実測図６……54
第52図　ＳＤ－14出土遺物実測図７……55
第53図　ＳＰ－16出土遺物実測図……56
第54図　包含層出土遺物実測図１……59
第55図　包含層出土遺物実測図２……60
第56図　包含層出土遺物実測図３……61
第57図　包含層出土遺物実測図４……62

表　目　次

第１表　瓦器椀法量表……46

図　版　目　次

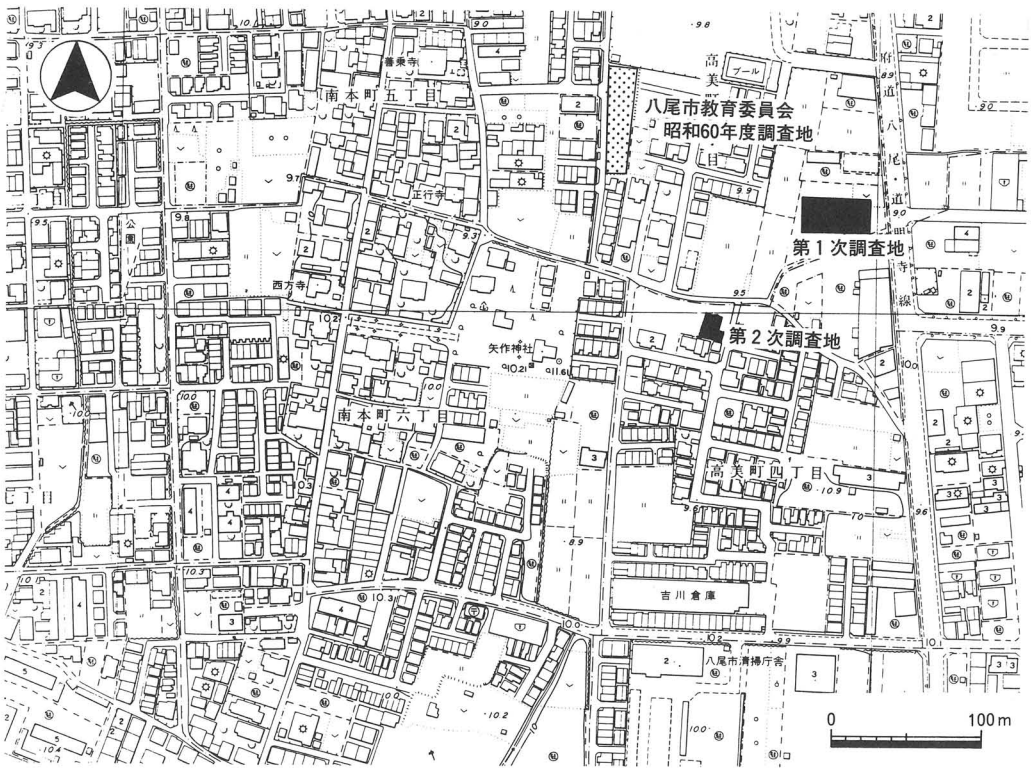
図版　一　調査区全景
図版　二　ＳＢ－１・ＳＢ－２
　　ＳＢ－１
図版　三　ＳＢ－２
　　ＳＢ－３
図版　四　ＳＥ－２
　　同　　上　断面
図版　五　ＳＥ－３
　　同　　上　断面

図版　六　ＳＥ－４
ＳＥ－５
図版　七　ＳＥ－６
ＳＥ－７
図版　八　ＳＥ－７
同　　上　下駄・毬出土状況
図版　九　ＳＥ－８　上面
同　　上　完掘
図版一〇　ＳＥ－９
同　　上　断面
図版一一　ＳＥ－10
同　　上　断面
図版一二　ＳＥ－11
同　　上　断面
図版一三　ＳＥ－13
同上　井戸側内上部
図版一四　ＳＫ－４
ＳＫ－６
図版一五　ＳＫ－５
同　　上　断面
図版一六　池状遺構
同　　上　断面
図版一七　池状遺構南部
同　　上北部
図版一八　池状遺構遺物出土状況
ＳＤ－１・ＳＤ－２
図版一九　ＳＤ－14
図版二〇　ＳＤ－14南部遺物出土状況
同　　上北部遺物出土状況
図版二一　ＳＥ－１・ＳＥ－２・ＳＥ－３出土遺物
図版二二　ＳＥ－７出土遺物
図版二三　ＳＥ－８出土遺物

図版二四　ＳＥ－９・ＳＥ－11・ＳＥ－13出土遺物
図版二五　ＳＥ－13・ＳＫ－２・ＳＫ－４出土遺物
図版二六　ＳＫ－５出土遺物１
図版二七　ＳＫ－５出土遺物２
図版二八　ＳＫ－７出土遺物
図版二九　池状遺構・ＳＤ－１出土遺物
図版三〇　ＳＤ－２・ＳＤ－３・ＳＰ－16出土遺物
図版三一　ＳＤ－14出土遺物１
図版三二　ＳＤ－14出土遺物２
図版三三　ＳＤ－14出土遺物３
図版三四　ＳＤ－14出土遺物４
図版三五　ＳＤ－14出土遺物５
図版三六　ＳＤ－14出土遺物６
図版三七　ＳＤ－14出土遺物７
図版三八　ＳＤ－14出土遺物８
図版三九　ＳＤ－14出土遺物９
図版四〇　ＳＤ－14出土遺物10
図版四一　包含層出土遺物１
図版四二　包含層出土遺物２
図版四三　包含層出土遺物３
図版四四　包含層出土遺物４

第１章　調査に至る経過

矢作遺跡は、八尾市域のほぼ中央に位置する遺跡で、現在の行政区画では八尾市南本町５～７丁目・高美町３～４丁目に当る。矢作遺跡では、昭和56年11月に八尾市教育委員会が高美町４丁目で実施した試掘調査で鎌倉時代末期に比定される井戸を検出した他、昭和61年３月～４月には高美町３－64で古墳時代前期の溝、古墳時代後期の大型掘立柱建物３棟および溝が検出されている。このような情勢下、高美町３丁目46－１において、八尾税務署を建設する旨の申請書が近畿地方建設局から、八尾市教育委員会文化財室に提出された。教育委員会文化財室では、過去の調査結果から当工事予定地内においても、埋蔵文化財が存在する可能性が高いものと判断し、試掘調査を実施して、埋蔵文化財の存在有無を確認することが必要である旨を申請者へ通告した。昭和61年12月１日に工事予定地内で１×２ｍの調査区を２ケ所設定し、試掘調査を実施した結果、弥生時代後期から中世に至る遺物を包含する土層を確認した。この試掘結果から、教育委員会文化財室では、八尾市文化財保存に係る事務取扱い要綱に基づき発掘調査が必要であると判断した。その結果、工事掘削により遺構が破壊される部分を対象に記録保存



第１図　調査地周辺図

に心要な資料を作成する目的で発掘調査を実施することが２者間で合意された。調査は財団法人八尾市文化財調査研究会が主体となって実施することが､教育委員会文化財室･近畿地方建設局･財団法人八尾市文化財調査研究会の３者間で決定され､契約締結後現地調査に着手した｡現地発掘調査期間は昭和61年12月20日～昭和62年３月20日までで、調査面積は1000㎡を測った。

第２章　地理・歴史的環境

矢作遺跡は、大阪府八尾市のほぼ中央部に位置しており、現在の行政区画では八尾市南本町５～７丁目．高美町３～４丁目に当る。八尾市の位置する大阪府の中河内地区の地形は、東側は生駒山地とその西麗に形成された谷口扇状地から成り、さらに緩傾斜地をへて、西側には沖積平野である河内平野が広がっている。平野部には江戸時代中期の宝永元年（1704）に大和川の付替が実施されるまでは、大和盆地・河南山地の水を集めて流下する旧大和川が存在していた。旧大和川は八尾市二俣付近で長瀬川と玉串川に分流して河内平野を北流していた。このため、長瀬川と玉串川に狭まれた地域はデルタ状の低位沖積地を南北方向に形成していた。この沖積地は旧大和川によって運ばれた肥沃な土壌と豊富な水量を背景に、いち早く水稲耕作の適地として利用されていたようで、遺跡の密度が高く考古学的な資料の蓄積も多い。沖積地の南部より遺跡をあげれば東弓削・中田・矢作・小阪合・成法寺・東郷・萱振・山賀・西岩田を列挙することができる。今回の調査地である矢作遺跡はこの沖積地の標高９ｍ前後に位置する遺跡である。当遺跡周辺では、東側に小阪合遺跡・南東側に中田遺跡、北側に成法寺遺跡が近接している。

矢作遺跡周辺での考古学的な知見は、昭和30年に若草町で実施された大阪府住宅供給公社山本団地建設工事の際、弥生時代～鎌倉時代に比定される土器[註1]が発見されたことに端緒が求められる。その後、昭和47～49年に中田地区[註2]、昭和50～51年に東弓削地区で発堀調査[註3]が実施され、この沖積地における各時期の遺構の存在と、沖積地の形成に関連した旧大和川の流路の変遷の一部が明らかとなった。ただ、これらの調査は前者が区画整理・電話線埋設、後者は送水管布設に伴なうもので、線的な調査の連続であったため、調査の成果もおのずと微視的に限定されざるを得なかった。昭和54年以降になると近鉄八尾駅の移動に関連した調査が東郷遺跡内（東本町・北本町・光町・桜ケ丘）で実施され、これまでに市教育委員会・当調査研究会により31次に及ぶ発掘調査が行なわれてきた（平成元年８月現在)。その結果、特に古墳時代前期〔庄内式期古相～布留式期古相〕の集落の様相が明確となった。また、昭和56年には光南町１丁目で市教育委員会が実施した調査で、古墳時代前期〔庄内式期古相〕の墓域・古墳時代後期の居住域が検出され、新たに成法寺遺跡として認識されるようになった。一方、小阪合遺跡内（青

山町２～５丁目・南小阪合４丁目）では、昭和57年度以降、当調査研究会が区画整理事業に伴う発掘調査を昭和63年度まで実施した結果、弥生時代後期～鎌倉時代に至る遺構・遺物が多数検出されている。矢作遺跡は、昭和56年に高美町３丁目で市教育委員会が実施した発掘調査[註5]で、古墳時代に比定される遺物と鎌倉時代の遺構が検出され、遺跡の存在が明らかになった。さらに、昭和61年に高美町３丁目－64で実施した発掘調査[註6]では、古墳時代前期〔庄内式期〕と古墳時代後期に比定される遺構が検出されている。萱振遺跡内では、昭和57・58年に緑ケ丘１～３丁目一帯で府営住宅立て替え工事に伴う発掘調査[註7]が大阪府教育委員会により実施されており、弥生時代中期の墓域・古墳時代前期〔布留式期古相〕の土器棺墓群が検出されている。なお、昭和60年に緑ケ丘１丁目17で当調査研究会が実施した調査[註8]では、古墳時代後期の方墳が一基検出されており、この時期の平野部に存在する古墳を考えるうえで、一石を投じる結果となった。

以上が矢作遺跡周辺での発掘調査の経緯である。これらの調査結果を総合的に考えれば、矢作遺跡周辺で集落が出現するのは弥生時代中期〔畿内第Ⅱ様式〕以降であったようで、沖積地内の微高地および自然堤防上に集落が連綿と営まれてきたことが窺われる。以下、各時期ごとに周辺遺跡の推移を概観してみる。

弥生時代中期　この時期の遺構・遺物は、東弓削遺跡・中田遺跡・成法寺遺跡・東郷遺跡で検出されているが、成法寺遺跡[註9]・萱振遺跡[註10]で方形周溝墓・東郷遺跡[註11]で土坑が検出されている以外は遺物が少量出土した程度で、遺跡の広がりは明確でない。

弥生時代後期　弥生時代中期に比して、集落の拡大傾向が顕著で、上記の遺跡からの遺物の出土量も増加する傾向にある。この時期新たに成法寺遺跡・矢作遺跡が出現している。

古墳時代前期（庄内式期・布留式期）　古墳時代前期（庄内式期）になると集落規模の拡大と分散が顕著で、各遺跡内で活発な開発が実施されている。東郷遺跡では庄内式期古相の居住域・生産域・墓域[註12]が確認さている他、庄内式期新相～布留式期古相の居住域・墓域[註13]が検出されており古墳時代前期の集落の在り方を探るうえで貴重な資料を提供している。南に位置する成法寺遺跡では、遺跡の東郷で庄内式期古相の居住域と墓域[註14]および布留式期古相の居住域[註15]が確認されている他、西部では庄内式期古相の墓域[註16]が検出されている。萱振遺跡では布留式期古相の土器棺墓を主体とする墓域が検出されている[註17]。矢作遺跡では溝内から布留式に比定される土器と共伴して変形四獣鏡が出土している[註18]。中田遺跡・小阪合遺跡では、庄内式期古相～布留式期新相にかけての遺構が多く検出されている。遺構は、居住地に関連したものが大半をしめており、生産域や墓域の位置が不明瞭である。なお、中田遺跡の東南部の刑部地区では庄内式期古相と併行関係の土器が多量に検出された溝状遺構の他[註19]、中田遺跡では庄内式期新相に比定される庄内甕とともに吉備・山陰・讃岐・紀伊・摂津係の土器の搬入が認められており、当時の交流を知る資料として重要である。

古墳時代中期　東弓削遺跡・中田遺跡・小阪合遺跡でこの時期に比定される遺構・遺物が検出されている。また、小阪合遺跡・中田遺跡で埴輪円筒棺が検出されている他、東弓削遺跡・小阪合遺跡・中田遺跡・矢作遺跡・東郷遺跡の包含層からも埴輪片の出土が認められており、付近に古墳の存在した可能性が強い。なお、矢作神社には三角縁獣文帯三神三獣鏡１面が神宝として伝承さており、境内から出土したものとされている。一方、萱振遺跡の南部では過去に子持ち勾玉が出土したことが報告されており[註20]、この時期の集落の存在が想起される。

古墳時代後期　後期の前葉～中葉においては掘立柱建物が成法寺遺跡で８棟、後葉においては矢作遺跡で３棟検出されているが、中葉以降は遺構の検出例は減少する傾向が顕著である。なお、萱振遺跡では後期後葉に比定される方墳が１基検出されており[註21]、同時期に存在した生駒西麓の古墳群と比較するうえで貴重な資料を提供している。

奈良時代　中田遺跡・小阪合遺跡・成法寺遺跡でこの時期に比定される遺構・遺物が検出されている他、東郷遺跡では工事の際、墨書人面土器が出土したことが報告されている。なお、東弓削遺跡一帯は、『続日本紀』神護景雲三年（769）十月三十日の条「詔以、由義宮為西京」に記されている由義宮・西の京の他、弓削寺の推定地とされている地域で、調査においてもこの時期に比定される屋瓦片が出土しており、これらに関連した遺物として注目できる。

平安時代　東郷遺跡で前期の井戸が検出されている以外は、大半が後期から末期に比定されるもので[註22]、この時期この付近一帯で活発な開発が実施されたことが窺われる。調査においても小阪合遺跡・中田遺跡・東弓削遺跡等で大規模な整地に伴って整備された居住域・生産域が確認されている。一方、平安時代前期に書かれた延喜式によれば、当遺跡周辺は若江郡に属しており、郡内に神社が９社存在していたようである。このうち、当遺跡周辺に限れば矢作神社・坂合神社・長柄神社の３社があげられる。特に調査地の南西約200ｍに存在する矢作神社は11世紀の初め頃には八幡宮が勧請され、石清水八幡宮の荘園となっていたようで、この時期この地域における八幡信仰の中心であったことが窺われる。なお、矢作神社の南東250ｍの地点には矢作神社の神宮寺と考えられる金性寺跡と推定されている地点がある他、当調査区の東方150ｍ地点（小字善坊寺）で実施された発掘調査では多量の屋瓦の出土が確認されており[註23]、中田地区に現存する善坊寺の旧跡ではないかと推定されている。

鎌倉時代　中田遺跡・小阪合遺跡・矢作遺跡・東郷遺跡でこの時期に比定される遺構・遺物が検出されている。ただ、当調査地を除けば調査面積が狭く集落構造等の詳細は明確でないが、出土遺物からみれば、平安時代末期から継続して営なまれている集落が多いことが指摘できよう。

室町時代以降　中田遺跡・小阪合遺跡で遺構・遺物がわずかに検出されている程度で、以後は固定化する近世集落に重復して推移したものと考えられよう。

註記

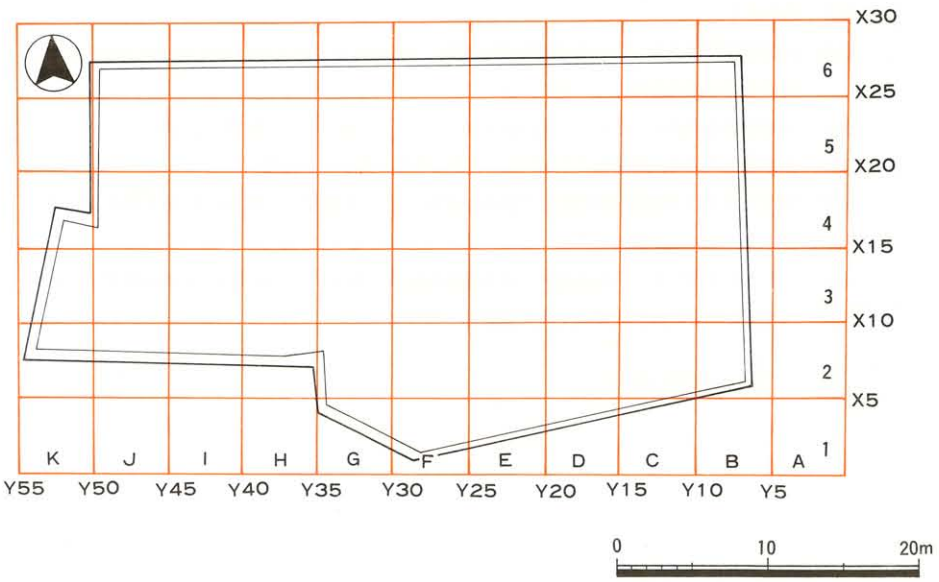
註１　八尾市役所市史編纂室『八尾市史』1958．11
註２　八尾市教育委員会『中田遺跡』1975
註３　八尾市教育委員会『東弓削遺跡』1976
註４　(財)八尾市文化財調査研究会『成法寺遺跡』1983
註５　(財)八尾市文化財調査研究会『八尾市埋蔵文化財発掘調査概報　1980・1981年度』(財)八尾市文化財調査研究会報告２　1983．３
註６　八尾市教育委員会「矢作遺跡発掘調査概要」『八尾市内遺跡昭和61年度発掘調査報告書Ⅱ』八尾市文化財調査報告15　1987．３
註７　大阪府教育委員会『萱振遺跡発掘調査概要Ⅰ』1983
註８　(財)八尾市文化財調査研究会「萱振Ｂ遺跡（第２次調査)」『昭和60年度事業概要報告』(財)八尾市文化財調査研究会報告９　1986
註９　大阪府教育委員会『成法寺遺跡発掘調査概要Ⅳ』1989
註10　大阪府教育委員会『萱振遺跡現地説明会資料』1983
註11　(財)八尾市文化財調査研究会「東郷遺跡第15次調査」『昭和58年度事業概要報告』(財)八尾市文化財調査研究会報告５　1984
註12　(財)八尾市文化財調査研究会「Ⅰ東郷遺跡発掘調査概要報告」『八尾市埋蔵文化財発掘調査概要昭和59年度』(財)八尾市文化財調査研究会報告６　1985
註13　(財)八尾市文化財調査研究会「Ⅲ東郷遺跡（第20次調査)」『八尾市埋蔵文化財発掘調査概要昭和61年度』(財)八尾市文化財調査研究会報告13　1987
註14　大阪府教育委員会『成法寺遺跡発掘調査概要　Ⅰ』1986．３
註15　前掲註９
註16　前掲註４
註17　前掲註７
註18　八尾市教育委員会「矢作遺跡発掘調査概要」『八尾市内遺跡昭和61年度発掘調査報告書Ⅱ』八尾市文化財調査報告15　1987．３
註19　八尾市教育委員会「中田１丁目39番地出土土器」『八尾市文化財紀要２』1986．12
註20　金谷克己「河内八尾発見の子持勾玉」『若木考古』第６巻　1962
註21　(財)八尾市文化財調査研究会「萱振Ｂ遺跡（第３次調査)」『昭和61年度事業概要報告』(財)八尾市文化財調査研究会　1987　12
註22　八尾市教育委員会『八尾南遺跡・東郷遺跡発掘調査概要』：八尾市文化財調査報告６　1981
註23　大阪府教育委員会が昭和46年度発掘調査　未報告

第３章　調査概要

第１節　調査方法と経過

調査にあたっては、八尾市教育委員会文化財室の試掘調査の結果に基づいて、現地表下 1.1ｍ前後までの土層を機械掘削によって排除した。以下の土層については、層理に従って人力掘削を実施し、試掘調査で確認された弥生時代後期～中世の遺物包含層と遺構の関係を追求した。人力掘削を0.25ｍ実施した結果、弥生時代後期～鎌倉時代末期に比定される遺物を含む土層（第Ⅲ層茶灰色砂質土）を確認した。さらに、0.25ｍ前後掘り下げた結果、標高 8.9ｍ前後に広がる第Ⅴ層黄褐～灰黄色シルト上面で、弥生時代後期・古墳時代後期・平安時代後期～鎌倉時代末期に比定される遺構を検出した。

なお、調査地の地区割は、南北軸を磁北に合わせて基準とし、それに東西軸を直交させる形を取り、東西55ｍ・南北30ｍに亘って設定した。設定した一区割の単位は５ｍ四方で南東隅を基準点とし、東西方向はアルファベット（東からＡ～Ｋ）・南北方向は算用数字（南から１～６）で示した。地区別の表示は、一区割の南東隅に交差する東西線・南北線を用い、１Ａ区～６Ｋ区と呼称した。



第２図　調査区設定図および地区割図

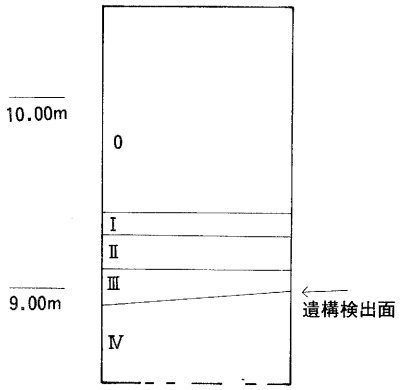
第２節　基本層序

第０層：盛土。層厚 1.1～ 1.3ｍ。現地表面の標高は10.5～10.8ｍを測る。

第Ⅰ層：暗灰色砂質土。旧耕土。層厚 0.1～ 0.2ｍ。西側へ行くに従って層厚が漸増している。

第Ⅱ層：黄灰～淡灰茶色。砂質。床土。層厚 0.1～0.2ｍ。調査区南東部で一部欠損する部分が認められる。層中より中世～近世に比定される土器・陶磁器等の小破片が少量出土している。

第Ⅲ層：茶灰～茶褐色。砂質土。層厚 0.2～ 0.3ｍ。層中より弥生時代後期から鎌倉時代末期に比定される遺物が出土している。鎌倉時代末期の整地層と考えられる。



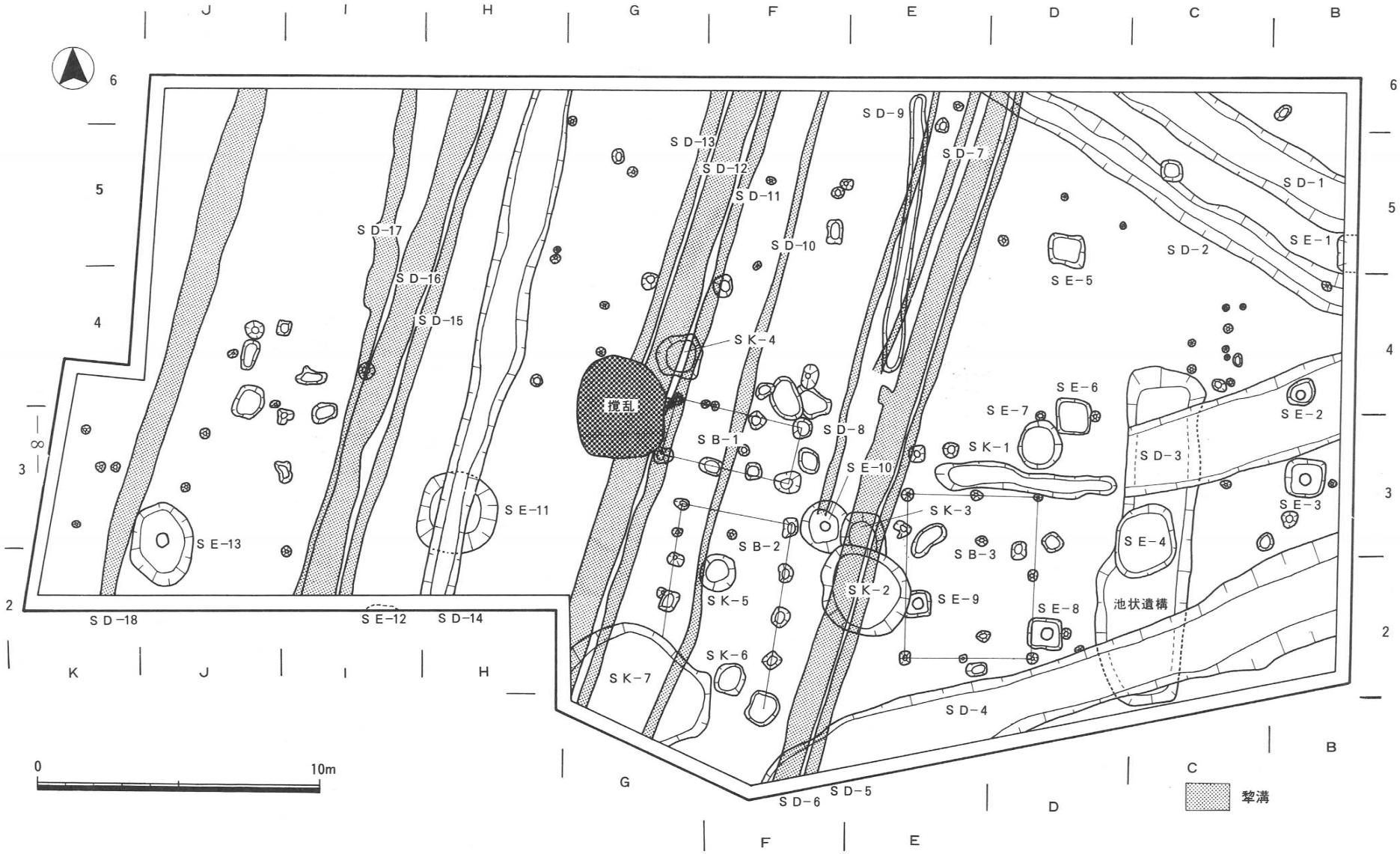
第３図　基本層序模式図

第Ⅳ層：黄褐～灰黄色の色調で土質は大半がシルトであるが、調査区の西部では南北方向に走る埋没河川の痕跡が認められ、この部分の土層は砂礫を主体としている。調査区の西部一帯からは弥生時代後期に比定される土器が出土している。この層上面が遺構検出面である。層厚 0.4ｍ以上。

第３節　検出遺構・出土遺物

調査の結果、現地表下 1.7ｍ（標高 8.9ｍ）前後に広がる第Ⅳ層黄褐～灰黄色シルト上面で弥生時代後期から鎌倉時代末期に至る遺構・遺物を検出した。遺構の時期別の内訳は、弥生時代後期－溝１条（ＳＤ－１）、古墳時代後期－溝１条（ＳＤ－２）、平安時代後期～鎌倉時代末期－井戸13基（ＳＥ－１～ＳＥ－13）・土坑７基（ＳＫ－１～ＳＫ－７）・掘立柱建物３棟（ＳＢ－１～ＳＢ－３）・池状遺構１基・溝16条（ＳＤ－３～ＳＤ－18）である。出土遺物は、各遺構および第Ⅱ層黄灰色砂質、第Ⅲ層茶灰色砂質土・第Ⅳ層黄褐～灰黄色シルト層を中心にコンテナ箱で約30箱分が出土した。各包含層の出土遺物の時期は、第Ⅱ層－鎌倉時代末期～近世、第Ⅲ層－弥生時代後期～鎌倉時代末期、第Ⅳ層－弥生時代後期である。量的には、各遺構内が３割、第Ⅲ層の出土遺物が５割で、第Ⅱ層が２割、第Ⅳ層が１割を占める。

以下、検出した遺構および出土遺物について概要を記す。なお、出土遺物の形態については一部本文でふれるが、個々の法量・調整等の詳細については、第４章出土遺物観察表を参照されたい。


J
I
H
G
F
E
D
C
B
6
5
4
3
2
K
SD-1
SD-2
SD-3
SD-4
SD-5
SD-6
SD-7
SD-8
SD-9
SD-10
SD-11
SD-12
SD-13
SD-15
SD-16
SD-17
SD-18
SE-1
SE-2
SE-3
SE-4
SE-5
SE-6
SE-7
SE-8
SE-9
SE-10
SE-11
SE-12
SE-13
SK-1
SK-2
SK-3
SK-4
SK-5
SK-6
SK-7
SB-1
SB-2
SB-3
攪乱
池状遺構
0
10m
掘溝

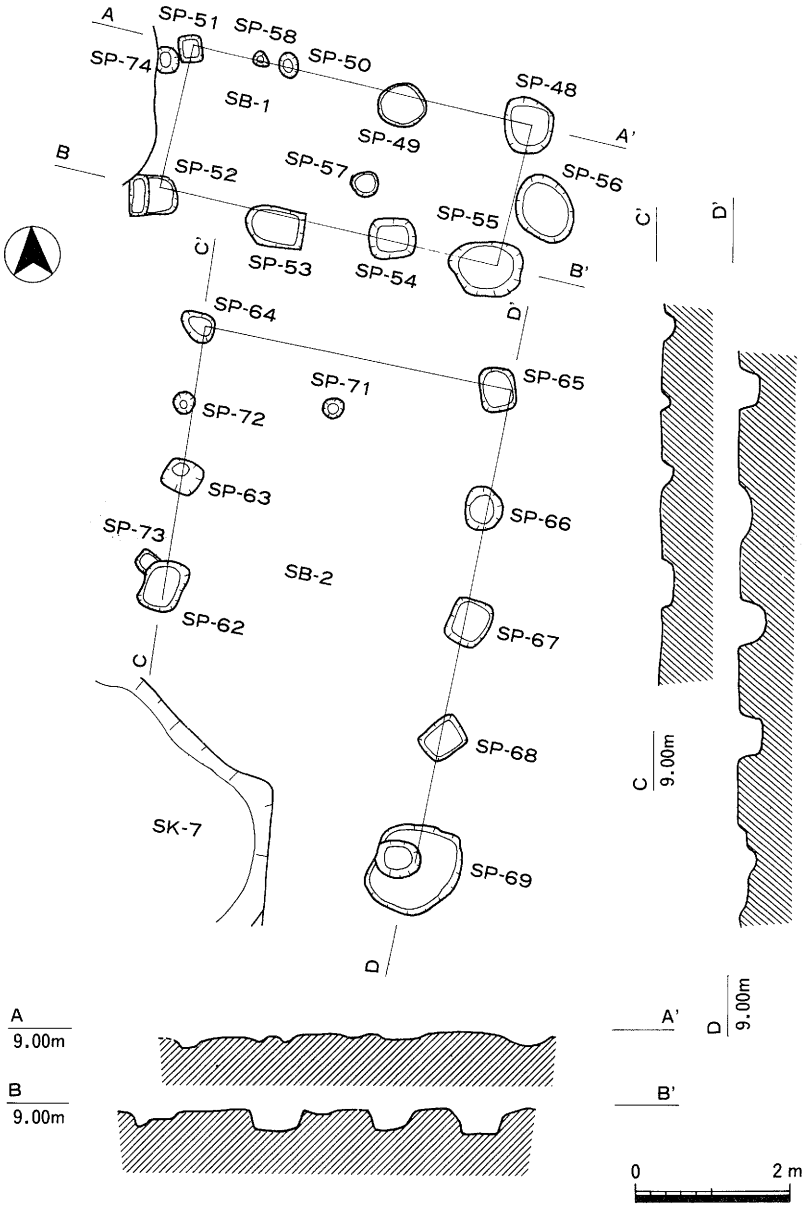
第4図　検出遺構平面図

1)検出遺構・出土遺物

掘立柱建物（ＳＢ）

ＳＢ－１

調査区のほぼ中央部で検出した。ＳＰ－48～55で構成されている。東西３間（4.6m）×南北１間（２m）の規模を測る。主軸方向はＮ－12°－Ｅで、床面積は 9.2m²を測る。掘立柱建物を構成する柱穴は、上面の形状が隅丸方形を呈するものが大半で、一辺 0.3～ 0.8m・深さ



第５図　SB－１・SB－２平断面図

0.06～0.34ｍを測る。内部堆積土層は黒灰色粘質土である。遺物はＳＰ－48から土師器中皿、瓦器椀の小砂片が極少量出土した。

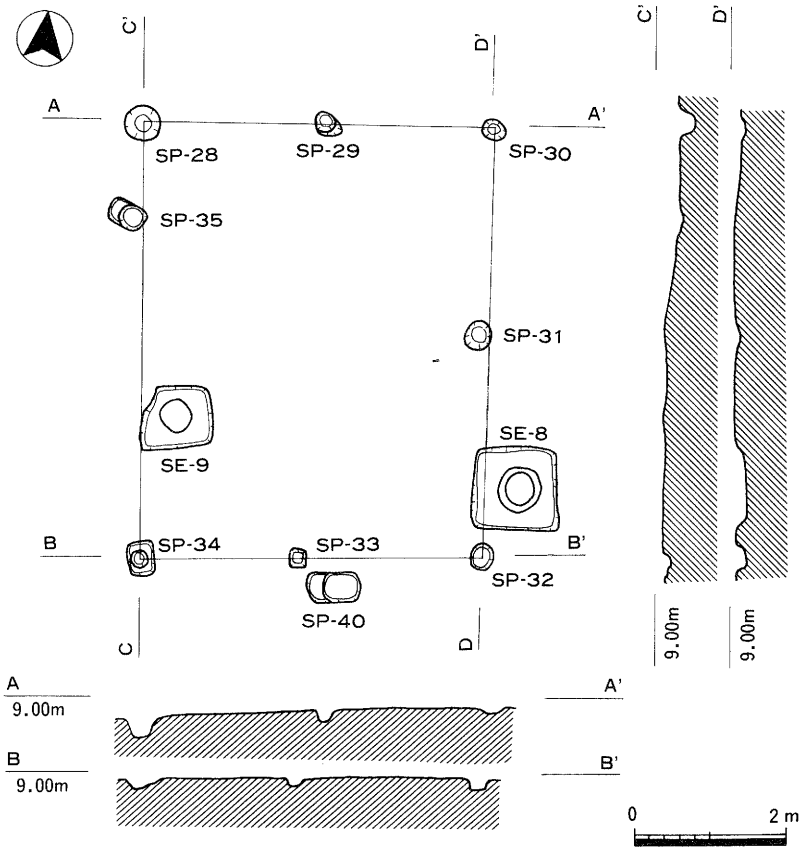
ＳＢ－2

ＳＢ－1の南側で検出した。ＳＰ－62～69で構成されている。南西部はＳＫ－7により切られており全容は不明であるが、検出部で東西1間（4ｍ）×南北4間（6.5ｍ）を測る。主軸方向はＮ－8°－Ｅで、床面積は26㎡を測る。柱穴の上面形状は隅丸方形を呈し、一辺 0.4～1.1ｍ・深さ 0.1～0.34ｍを測る。内部の堆積土層は黒色粘質土である。

遺物は、ＳＰ－65（土師器土釜・瓦器椀）・ＳＰ－68（土師器土釜）・ＳＰ－69（須恵器甕）から出土したが、いずれも小破片で図化できるものはなかった。

ＳＢ－3

ＳＢ－2の東側で検出した。ＳＰ－28～34で構成されている。東西2間（4.5ｍ）×南北2間（5.5ｍ）を測る。主軸方向はＮ－2°－Ｅで、床面積は24.75㎡を測る。柱穴の上面形状は、円形ないしは隅丸方形で幅0.3ｍ前後・深さ0.06～0.22ｍを測る。内部堆積土層は黒色粘質土である。



第6図　SB－3平断面図

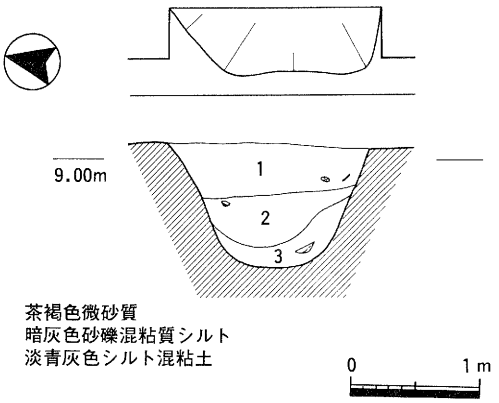
井戸（ＳＥ）

井戸は、総数13基を検出した。型式別の内訳は、素掘り井戸６基・曲物積上げ井戸６基・土釜＋曲物積上げ井戸１基である。掘形の上面形状は、円形２基（ＳＥ－７・10）・楕円形２基（ＳＥ－２・13）・方形および隅丸方形７基（ＳＥ－３～６・８・９・11）・不明２基（ＳＥ－１・12）である。井戸の深度は、素掘り井戸はＳＥ－１を除けば、0.65～0.75ｍと平均しているのに対して、曲物積上げ井戸は、ＳＥ－９以外は 1.0～ 1.5ｍとやや深い。時期的には、12世紀前葉～13世紀中葉に位置付けられる。

ＳＥ－１

５Ｂ区で検出した。平面的には西側の一部を検出したのみで、大半が調査区外に至るため上面の形状・数値は明確でないが、断面の観察では南北幅 1.6ｍ・深さ 1.1ｍを測る。内部堆積土層は３層で、上層から第１層茶褐色微砂・第２層暗灰色砂礫混粘質シルト・第３層淡青灰色シルト混粘土が堆積していた。

遺物は、主に第１層および第２層から、コンテナ１箱分程度が出土した。



第７図　SE－１平断面図

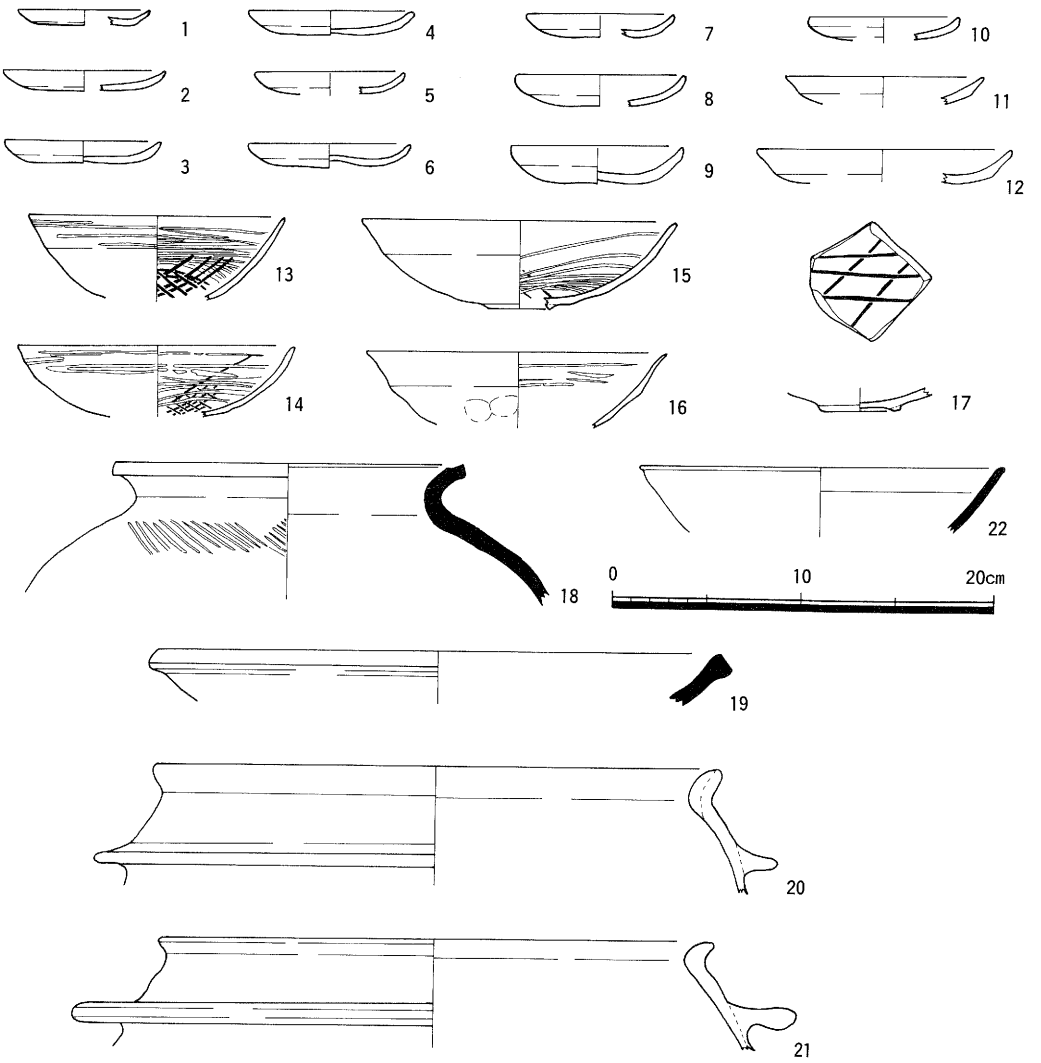
出土遺物の内訳は、土師器小皿64・中皿２・土釜19・須恵器甕６・鉢１・瓦器椀96・常滑焼甕１・白磁碗１であるが、大半が小破片であった。そのうち図示できたものは22点（１～22）である。

土師器小皿（１～11）には、平坦な底部から体部が斜上方に立ち上がるもの（１～５）、内湾気味に立ち上がるもの（８）、上方へ突出する底部から内湾気味に体部が立ち上がるもの（６・７・９）、丸味のある底部から体部が上方へ立ち上がるもの（10）、強いヨコナデのため口縁部と底部に明瞭な段を有する（11）がある。このうち（10）に灯心油痕が認められた。土師器中皿（12）は、ほぼ平坦な底部から口縁部が斜上方へ立ち上がるものである。

瓦器椀（13～17）はすべて和泉型である。口縁部外面周辺に数条のヘラミガキを施すもの（13・14）と外面にヘラミガキをまったく施さないもの（15・16）に区別できる。前者は八尾市域編年のⅡ－４期、後者はⅢ－１期に当る。（17）は見込みに施文単位の大きい格子状ヘラミガキが施されている。

須恵器には、甕（18）・鉢（19）がある。いずれも東播系のものである。土釜は菅原分類による河内B_1型ｄ（20・21）が出土している。ともに鍔部以外に煤が付着している。（22）は白磁碗で、横田・森田分類のＶ－４類に当たる。

遺物の特徴から、井戸の廃絶時期は12世紀後葉から13世紀前葉の一時期に比定されよう。



第８図　SE－１出土遺物実測図

ＳＥ－２

４Ｂ区で検出した。上部はＳＤ－３により10㎝程度が削平を受けている。掘形の形状が東西方向に長い楕円形を呈する曲物積上げ井戸で、東西幅0.93ｍ・南北幅0.83ｍを測る。掘形の断面形状は擂鉢状で、下部は湧水層である黄褐色粗砂を切っている。井戸側は掘形の中央部に設置されており、検出時点では最下段に口径25㎝・器高23㎝を測る土釜（30）を置き、その上に口径39㎝・高さ15㎝を測る曲物が１段積み重ねられていた。掘形の埋土は、上層から第１層灰茶色砂質土・第２層暗灰色粘質土・第３層灰色粘質土・第４層乳灰色粘質土・第５層青灰色粘土である。遺物は井戸側および掘形内から少量出土した。出土遺物の内訳は、土師器小皿13・土釜２・瓦器椀19・小皿１である。そのうち図示できたものは８点（23～30）である。

土師器小皿（23～26）には、底部から斜上方に立ち上がるもの（23～25）と内湾気味に立ち上がるもの（26）がある。

瓦器小皿（27）は丸味のある底部から体部が斜上方へ立ち上がるものである。

瓦器椀（28）は断面の形状が逆三角形を呈する高台が付くものである。見込のヘラミガキは平行線状である。

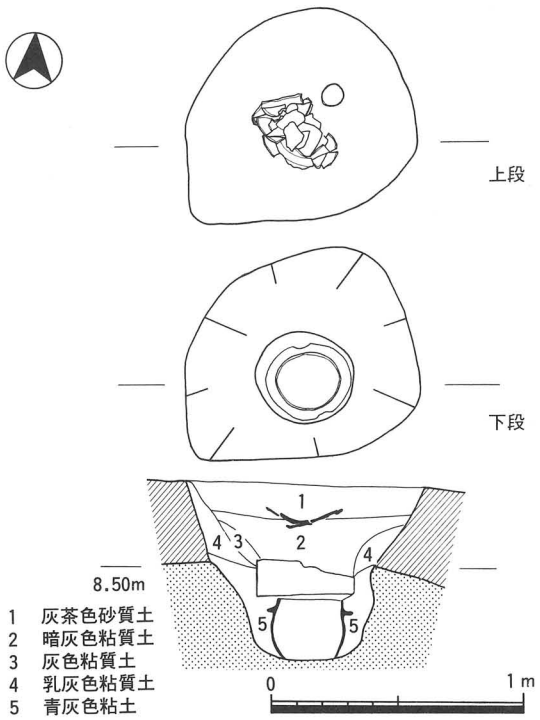
土釜（29）は第１層の下部で検出した。底部は欠損している。出土した状況から、井戸廃絶後に廃棄されたものと考えられる。（30）は井戸側の最下部を構成する井戸側に使用されていたものである。双方ともに、鍔部以下の外面に煤が付着している。（29・30）は菅原分類による河内B$_1$型に当る。

遺物の特徴から、井戸の廃絶時期は13世紀後葉に比定されよう。

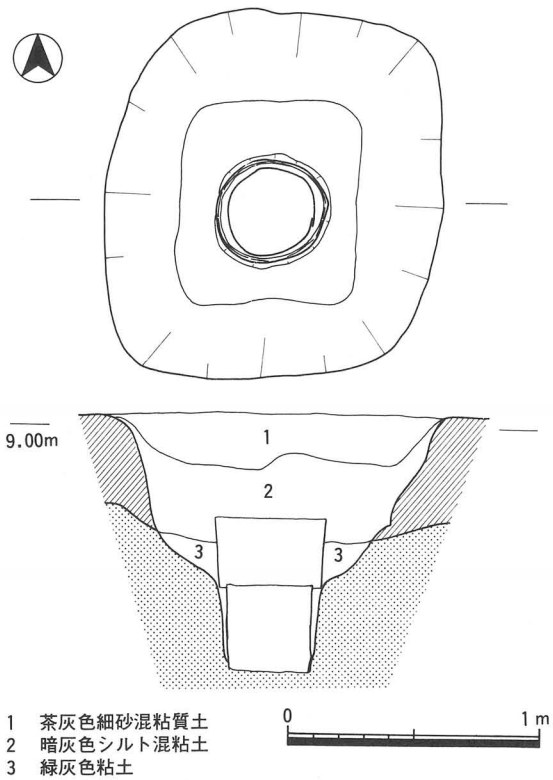
ＳＥ－３

３Ｂ区で検出した。掘形の形状が隅丸方形を呈する曲物積上げ井戸で、東西幅1.35ｍ・南北幅1.44ｍ・深さ 1.3ｍを測る。掘方は二段掘形で、下段の上面形は円形を呈する。井戸側は曲物２段（下段径33㎝・高さ35㎝、上段径44㎝、高さ29㎝）で構成されており、下段は湧水層である黄灰色粗砂層を切っている。掘方内の埋土は、上層から第１層茶灰色細砂混粘質土・第２層暗灰色シルト混粘土・第３層緑灰色粘土で、曲物内の埋土は暗灰色細砂～中砂混粘土である。

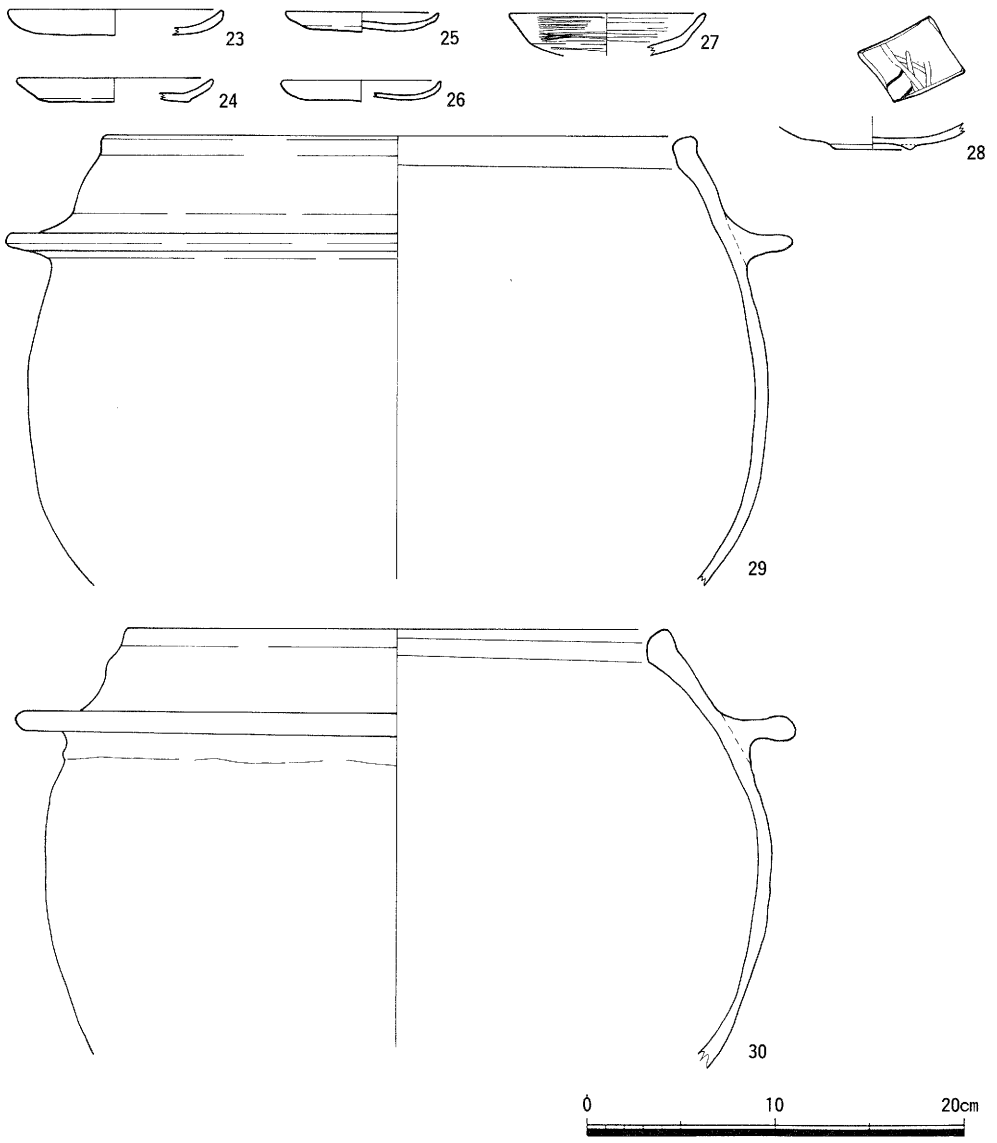
遺物は第１層・第２層および井戸側内



第９図　SE－2平断面図



第10図　SE－3平断面図



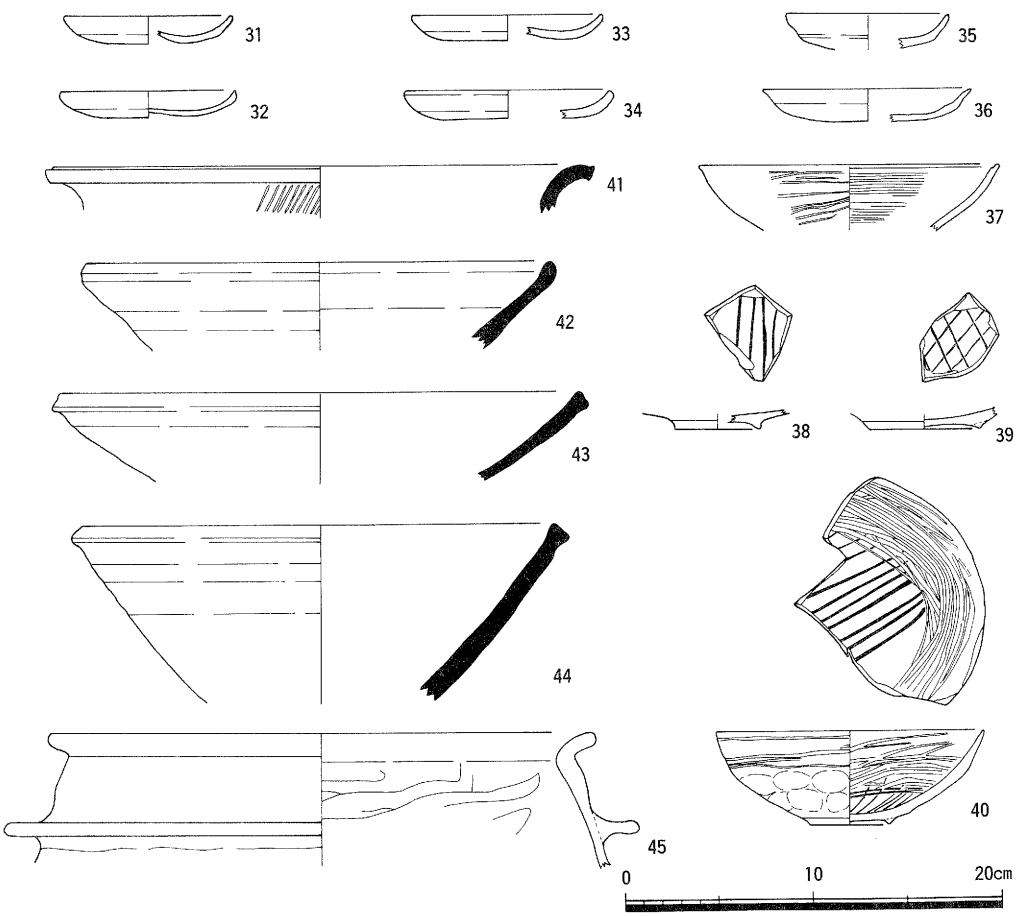
第11図　SE−2出土遺物実測図

から出土した。出土遺物の内訳は、土師器小皿46・土釜14・須恵器鉢１・瓦器椀75・小皿２であるが、大半は小破片であった。

そのうち、図示できたものは15点（31～45）である。なお、井戸側内から出土したものは３点（33・34・42）である。

土師器小皿（31～34）は、４点ともに体部が斜上方へ立ち上がる。（32）は口縁端部が上方へつまみ上げ気味で終る。

瓦器小皿には、ほぼ水平な底部から体部が斜上方へ立ち上がる（35）と水平な底部から体部



第12図　SE−3出土遺物実測図

が内湾気味に立ち上がった後、口縁部が強く外反する（36）がある。（36）の見込みには平行線状ヘラミガキが施されている。

瓦器椀は（37）を除いてすべて和泉型である。（37）は口縁端部の内側に沈線状の段を持つもので、大和型の特徴を持っている。見込みのヘラミガキは、平行線状（38・40）・格子状（39）である。（40）は八尾市域編年のⅡ－4期に当る。

須恵器には、甕（41）・鉢（42～44）がある。すべて東播系のものである。

土師器土釜（45）は菅原分類による河内B_1型Cに当る。

遺物の特徴から、井戸の廃絶時期は12世紀後半に比定できよう。

ＳＥ－4

２Ｃ区・３Ｃ区で検出した。掘形の形状が南北方向に長い楕円形を呈する素掘り井戸で、東西幅 2.2m・南北幅 2.8m・深さ 0.8mを測る。掘形の断面形状は方形を呈する。内部堆積土層は上層から第１層茶黄褐色砂質土・第２層灰色細砂混粘質土・第３層淡灰青色砂礫混粘土が

ほぼ水平に堆積しており、廃絶後の短期間に埋め戻されたことが推定できる。なお、最下部は**池状遺構**の底部に貼り付けられている樹皮層を切り込んでおり、**池状遺構**の廃絶後に構築されたものと理解できる。

遺物は主に第２層から出土した。

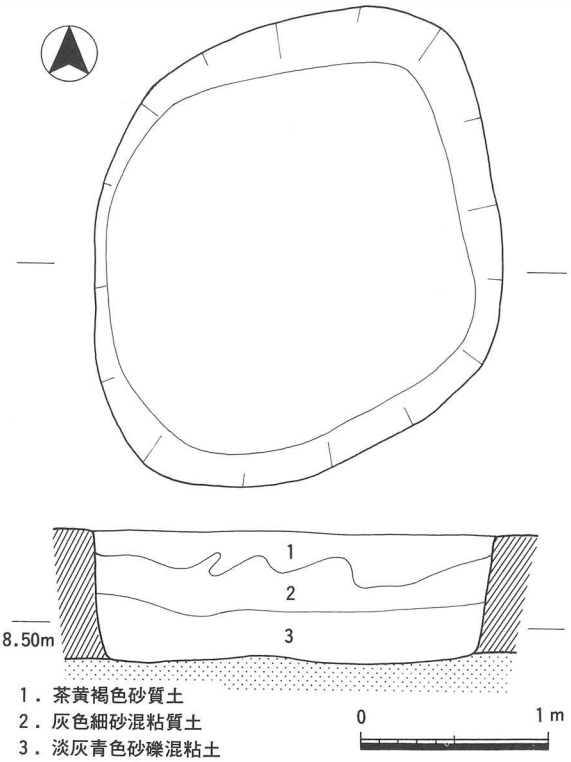
出土遺物の内訳は、土師器小皿27・土釜10・須恵器鉢10・瓦器椀52・足釜１・平瓦１であるが、そのうち図示できたものは５点（46～50）である。

土師器小皿（46・47）は斜上方に立ち上がる（46）とやや内湾気味に立ち上がる（47）がある。ともに端部は丸く終る。

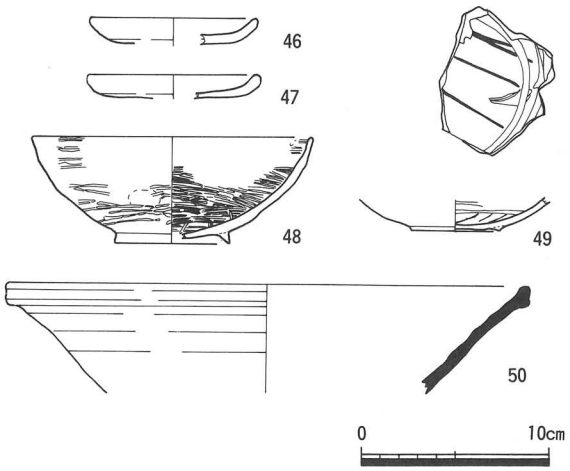
瓦器椀は２点が図示できたが、他の資料も含めてすべて和泉型である。（48）は丸味のある底部から内湾気味に体部が立ち上がるもので、断面の形状が逆三角形を呈する高台が「八」の字形に貼り付けられている。八尾市域編年のⅡ－１期～２期に比定できる。（49）は見込みに平行線状ヘラミガキを施す。八尾市域編年のⅢ－１期以降のものと考えられる。

（50）は東播系の須恵器鉢である。

出土遺物の内容からみれば、時期幅のある遺物が混在して出土している。ただ、この遺構は13世紀後葉に廃絶した**池状遺構**を切り込むものであることや、瓦器椀（49）の特徴から井戸の構築時期の上限を13世紀後葉の一時期に推定することが可能である。



第13図　SE－4平断面図

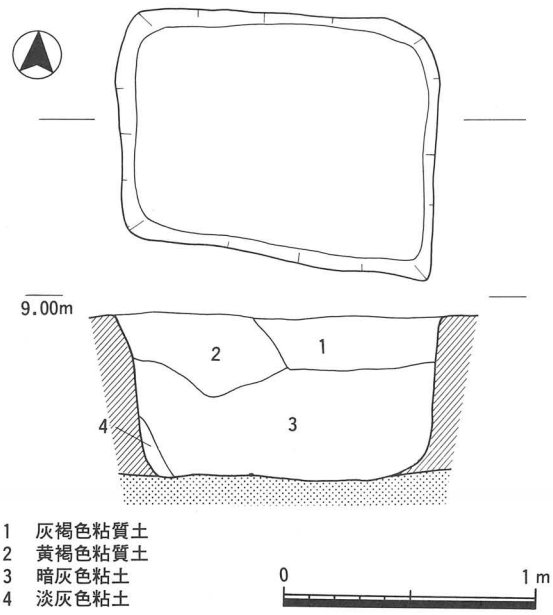


第14図　SE－4出土遺物実測図

ＳＥ－５

５Ｄ区で検出した。掘形の上面形状が隅丸方形を呈する素掘り井戸で、一辺幅1.3m・深さ 0.6mを測る。掘形の断面形状は方形を呈し、底部は水平な面を有する。掘形の断面形状は方形を呈する。内部堆積土層は上層から第１層灰褐色粘質土・第２層黄褐色粘質土・第３層暗灰色粘土・第４層淡灰色粘土の４層で、最下部は湧水層である灰色粗砂層に達しており、調査中も多量の湧水が認められた。堆積状態からみて、人為的に埋め戻された可能性が高い。

遺物は、土師器小皿の小破片がごく少量出土したのみで、廃絶の時期は明確でない。



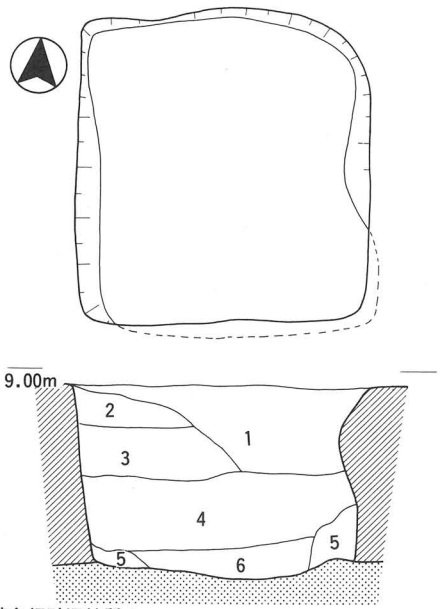
1　灰褐色粘質土
2　黄褐色粘質土
3　暗灰色粘土
4　淡灰色粘土

第15図　SE－5平断面図

ＳＥ－６

３Ｄ・４Ｄ区で検出した。ＳＥ－５と同様、掘形の上面形状が隅丸方形を呈する素掘り井戸で、幅 1.2m・深さ 0.8mを測る。掘形の断面形状は方形を呈し、底部は水平な面を有する。内部堆積土は、上層から第１層灰茶色細砂混粘質土・第２層茶灰色粘質土・第３層灰色粘質土・第４層暗灰色シルト混粘土・第５層淡灰色粘土・第６層青灰色粘土の６層である。最下部は、湧水層である粗砂層に達している。

遺物は、第２層茶灰色粘質土から土師器小皿、瓦器椀等の小破片がごく少量出土したが、時期を明確にし得る資料はなかった。



1　灰茶色細砂混粘質土
2　茶灰色粘質土
3　灰色粘質土
4　暗灰色シルト混粘土
5　淡灰色粘土
6　青灰色粘土

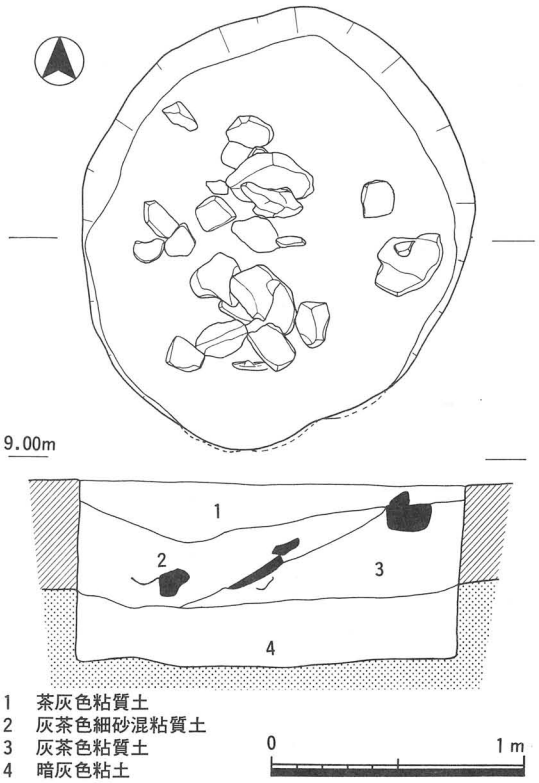
第16図　SE－6平断面図

ＳＥ－７

３Ｄ区で検出した。ＳＥ－６の西側に位置する。掘形の形状が楕円形を呈する素掘り井戸で、東西幅 1.5ｍ・南北幅 1.7ｍ・深さ0.73ｍを測る。掘形の断面形状は、方形で底部はほぼ水平な面を有する。下部は、湧水層である青灰色粘質シルトを切っている。内部堆積土層は、上層から第１層茶灰色粘質土・第２層灰茶色細砂混粘質土・第３層灰茶色粘質土・第４層暗灰色粘土である。

遺物は主に第２層から出土した。

出土遺物の内訳は、土師器小皿12・中皿７・土釜５・須恵器甕２・瓦器椀40・小皿１・足釜１・屋瓦11・下駄１・毬１である。そのうち図示できたものは16点（51～66）である。



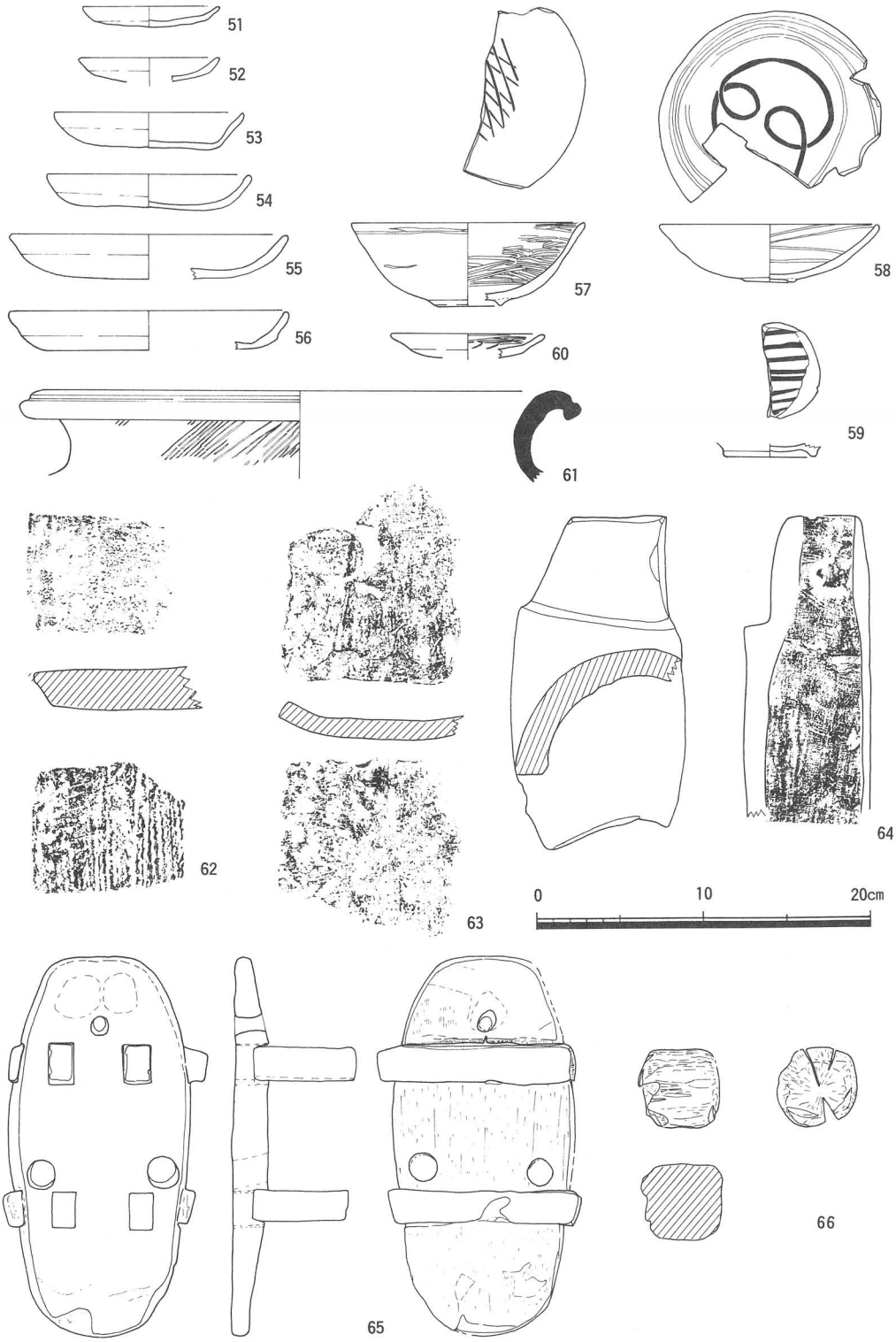
第17図　SE－7平断面図

土師器小皿（51・52）は丸味のある底部から口縁部が斜上方へ立ちあがる。中皿には、ほぼ水平な底部から体部が斜上方に直線的に立ち上がるもの（53）、やや内湾気味に体部が上外方へ立ち上がるもの（54・56）、体部が斜上方へ立ち上がった後、口縁部付近でやや外反する（55）がある。（55）はクサリ礫を含み、色調は乳白色を呈する。

瓦器椀は２点のみ図示できたが、他の資料も含めてすべて和泉型であった。（57）は底部から丸味を持って体部が斜上方へ立ち上がるもので、口縁部は外反気味に終わる。口縁部外面数条のヘラミガキ、見込みは格子状ヘラミガキである。（58）は浅めの器形で、見込みから体部内面にかけて連結輪状ヘラミガキを施す。高台は形骸化した貼り付け高台である。前者が八尾市域編年のⅡ－４期、後者がⅣ－１期に比定できる。瓦器小皿（60）は丸味のある底部から斜上方へ体部が立ち上がるもので、強いヨコナデのため底部と体部の境に明瞭な段を有する。

須恵器甕（61）は、頸部が上外方へ立ち上がった後、強く外反して口縁部に至るものである。頸部の外面に右上がりのタタキが遺存している。東播系の須恵器と推定されるが、焼成はやや軟質で色調は黒灰色を呈する。

（62・63）は平瓦で、ともに裏面には縄目タタキ、表面には模骨痕（62）、布目（63）が遺存している。（64）は玉縁付の丸瓦で、表面は縄目タタキの後ナデ、内面は単位の細い布目痕



第18図　SE−7出土遺物実測図

が遺存している。

木製品には、下駄・毬の２点がある。下駄（65）は台部の平面形状が長円形（長さ22.8㎝・幅10.9㎝・厚さ 2.1㎝）、断面が舟底形を呈するもので、台部と歯部を別々に作り台部に歯部を差し込む構造の差歯下駄である。台部と歯部の組合わせには、前歯（幅9.5～11.5㎝・高さ7.3㎝）後歯（幅9.4～11.4㎝・高さ6.9㎝）ともに歯部の上端に差し込みのための方形の柄（前歯1.5×2.4㎝・後歯1.4×2.1㎝）を２個穿ち、台部にも同様の柄穴を穿ち装着するもので、台部表面に歯部柄が露呈する露卯構造のものである。緒孔は前緒孔 1.1㎝・後緒孔 1.9㎝を測り、前緒孔付近に鼻緒ずれが認められた。なお、前緒孔付近の足ずれからみて左足用と考えられる。毬（66）は丸木の両端を切断後、ノミで面取りをして半球状に削るものである。これらの遺物の他に、第２層からは人頭大の花崗岩が多数検出されており、廃絶後の埋め戻しの際投入されたものと推定される。出土した遺物は時期幅があるようであるが、新しい時期に比定される遺物から見れば、井戸の廃絶時期は13世紀末から14世紀初頭の一時期に推定されよう。

ＳＥ－８

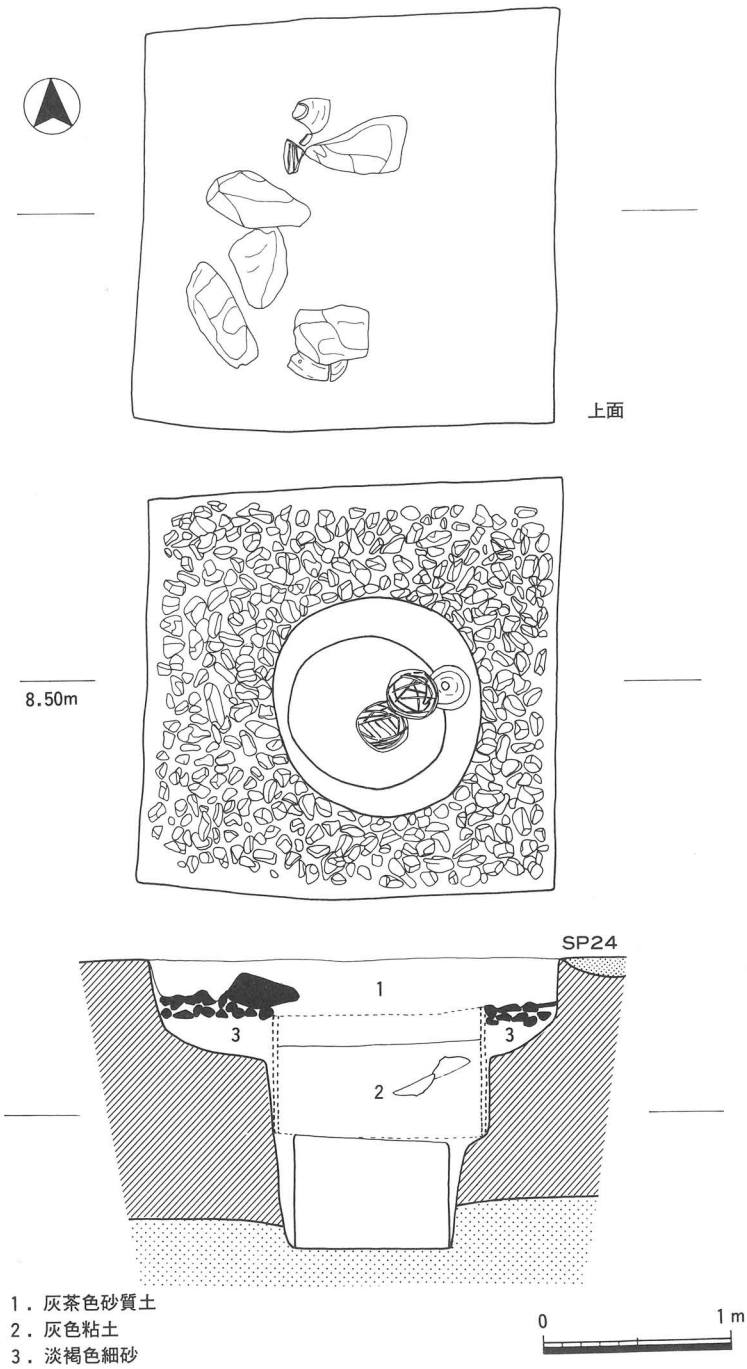
２Ｄ区で検出した。掘形の上面形状が方形を呈する曲物積上げ井戸で、幅1.09ｍ・深さ0.78ｍを測る。掘形のほぼ中央部に曲物を二段重ねて井戸側とするもので、上部の曲物井戸側と掘形の間は、掘形の隅から曲物井戸側に向かって緩やかに傾斜しており、その上面には小石がすき間なく敷きつめられていた。さらに、掘形と曲物井戸側の間に細砂を詰める等、一般的な井戸遺構に比して構築方法は丁寧である。なお、上面で人頭大の石５個を検出しており、廃絶後に捨てられたものと考えられる。掘形内および井戸側内の埋土は、上層から第１層灰茶色砂質土・第２層灰色粘土・第３層淡褐色細砂の３層である。

遺物は第１層と第２層（井戸側内）から出土した。出土した遺物の内訳は、土師器小皿６・中皿１・瓦器椀19である。そのうち、図示できたものは９点（67～75）である。

瓦器椀は、図示できた８点（67～74）以外もすべて和泉型であった。瓦器椀には底部から斜上方へ内湾気味に立ち上がった後、口縁端部が丸く終わるもの（67・68）、口縁部付近が強いヨコナデのため器肉を減じるもの（69～73）がある。（74）は見込みから体部内面にかけて、渦巻状ヘラミガキが施されている。高台はすべて扁平で、全体に弱いナデ調整が施されている。器高の数値では、4.2㎝前後の（67～70・74）と 3.5㎝前後の（71～73）に区別できる。器高数値の違いから、形態的には２種に区別でき、前者が八尾市域編年のⅢ－２期、後者がⅢ－３期に比定できよう。

土師器小皿（75）は、水平な底部から体部が斜上方へ立ち上がるもので、口縁端部は丸味を持って終る。

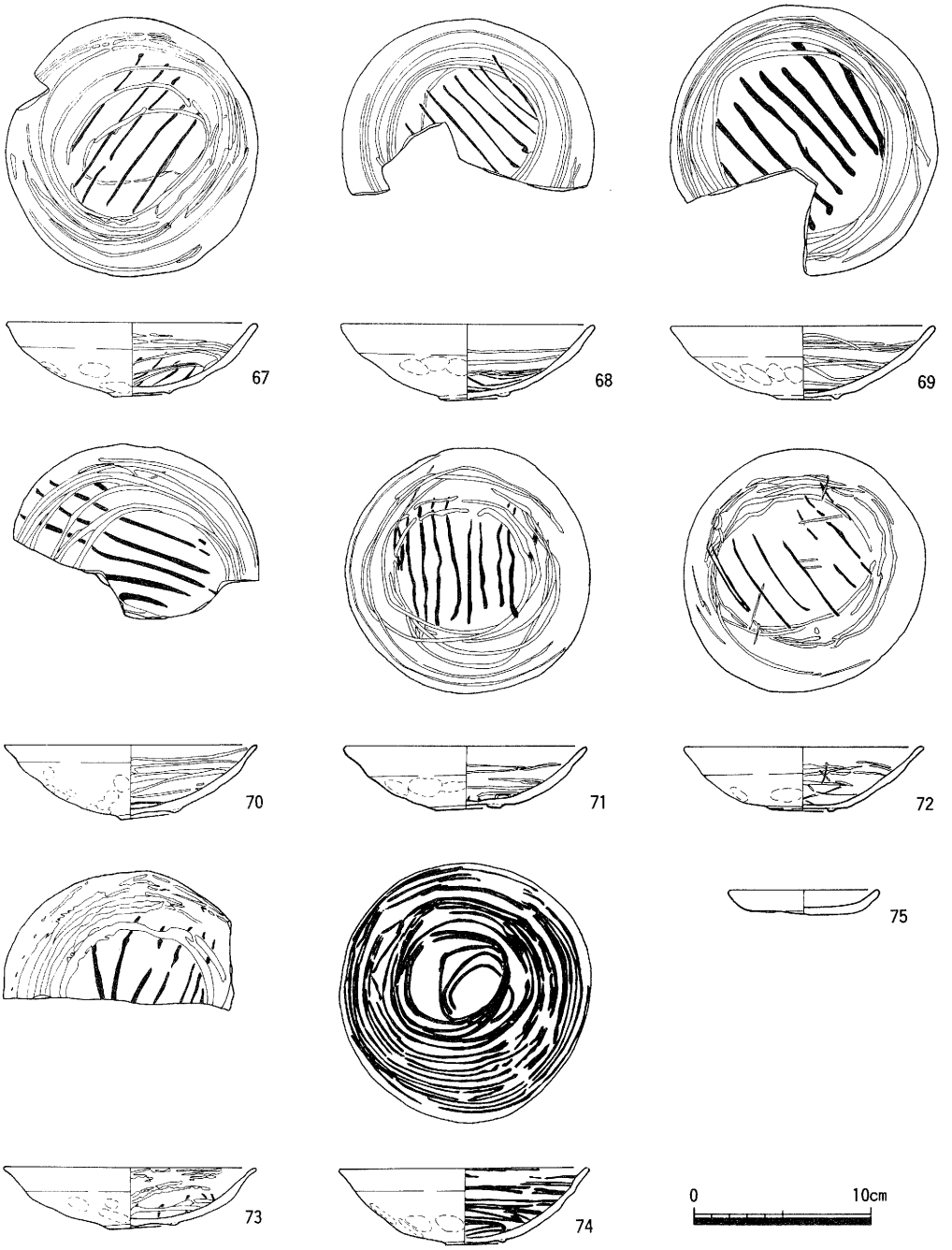
出土遺物の特徴から、井戸の廃絶時期は13世紀後葉の一時期に推定できよう。



第19図　SE−8平断面図

ＳＥ－９

２Ｅ区で検出した。掘形の形状が方形を呈する曲物積上げ井戸で、西部の一部はＳＫ－２によって切られている。検出部で東西幅0.85ｍ・南北幅0.84ｍ・深さ0.75ｍを測る。曲物井戸側



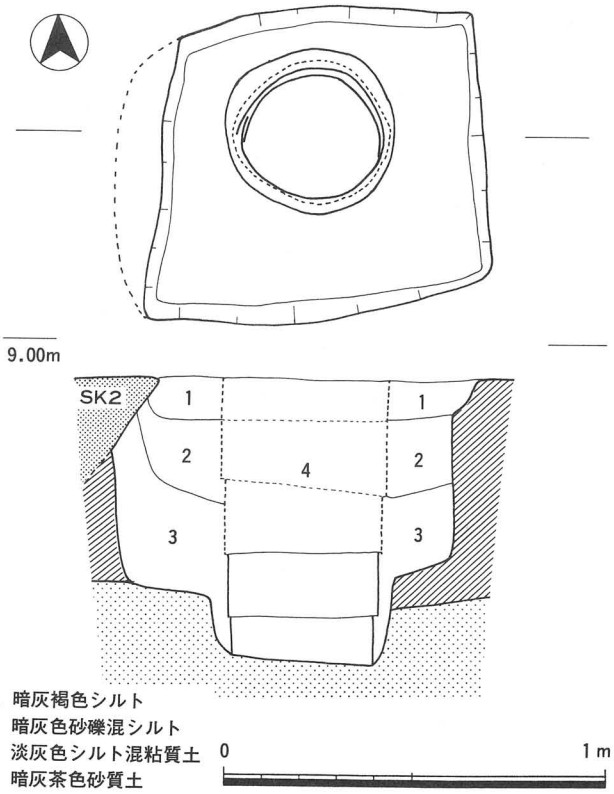
第20図　SE−8出土遺物実測図

は方形に掘られた掘形のやや北よりに設置されており、検出した時点では2段のみが遺存していたが、痕跡からみてさらに曲物が2段以上積み重ねられていたものと推定できる。掘形内の埋土は3層で、上層から第1層暗灰褐色シルト・第2層暗灰色砂礫混シルト・第3層淡灰色シ

ルト混粘質土である。井戸側内の堆積土層は第４層暗灰茶色砂質土で、最下部は湧水層である灰褐色細砂を切っている。

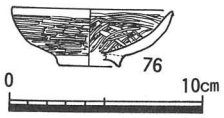
遺物は第２層および第４層から出土したが、土師器土釜１・須恵器甕１・瓦器小椀１の３点のみである。そのうち図示できたものは２層から出土した瓦器小椀（76）の１点である。

瓦器小椀（76）は底部から体部が内湾気味に斜上方へ立ち上がるもので、口縁端部はやや器肉を減じて終る。高台は断面逆三角形を呈する。体部外面は密なヘラミガキ、体部内面は乱方向のヘラミガキを施す。胎土はやや粗く２㎜程度の長石を含む。



第21図　SE−9平断面図

乳灰色の色調で、全体に炭素付着不良である。なお、瓦器小椀については、土壙墓等から出土した例から祭祀的な様相が強いものとされている。八尾市域では、本例以外に木の本遺跡（包含層）[註1]・小阪合遺跡（第４次調査－第９調査区ＳＫ－８）[註2]から出土している。なお、小阪合遺跡ＳＫ－８では、12世紀中葉に比定される遺物と共伴して出土している。



第22図　SE−9出土遺物実測図

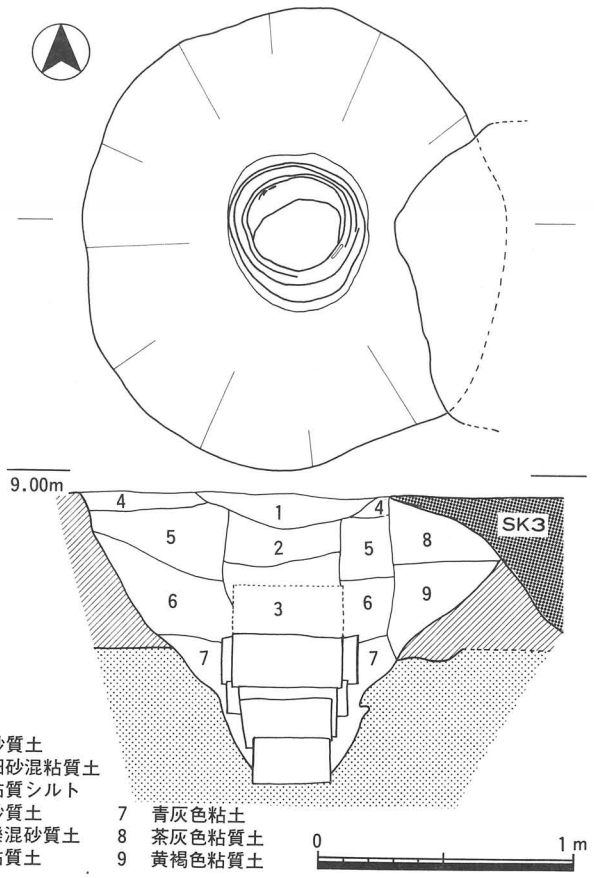
ＳＥ−10

３Ｆ区で検出した。掘形の上面形状が円形を呈する曲物積上げ井戸で、東側の一部はＳＫ−３により切られている。検出部で東西幅1.23ｍ・南北幅1.85ｍ・深さ1.16ｍを測る。井戸側は摺鉢状を呈する掘形の中央に設置されており、検出時点では曲物井戸側を三段（下段径30㎝・深さ19㎝、中段径39㎝・深さ25㎝、上段径43㎝・深さ21㎝）検出した。井戸側の構築に際しては、径の小さい曲物を下部から上部へ順に積み重ねているが、二段目および三段目の井戸側については、さらに外側の大きい曲物を重ねて井戸側を補強している。なお、井戸側上部の堆積状況から、井戸側がさらに上部へ二段以上積み重ねられていたことが推定できる。掘形内の埋

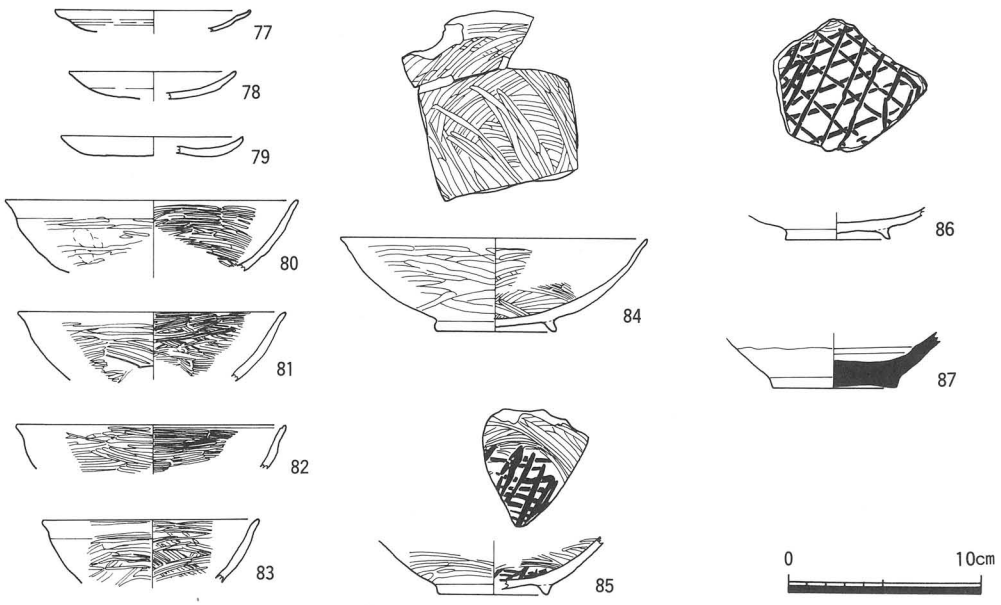
土は、第１層黄褐色砂質土・第２層灰褐色細砂混粘質土・第３層灰褐色粘質シルト・第４層淡褐色砂質土・第５層灰色砂礫混砂質土・第６層灰褐色粘質土・第７層青灰色粘土第８層茶灰色粘質土・第９層黄褐色粘質土の９層である。遺物は第２層および第３層から出土した。

出土した遺物の内訳は、土師器小皿23・土釜10・瓦器椀10であるが、大半が小破片であった。そのうち、図示できたものは11点（77～87）である。

土師器小皿には、丸味のある底部から体部が斜上方へ立ち上がった後、体部中位から



第23図　SE－１０平断面図



第24図　SE－１０出土遺物実測図

屈曲して口縁部に至る（77）と体部が斜上方へ立ち上がる（78・79）がある。

瓦器椀は（82）が大和型である以外はすべて和泉型である。形態的には（82）を除けば体部が内湾気味に立ち上がった後、口縁部付近でわずかに外反する。内外面の調整は、体部外面は分割を意識した密なヘラミガキ、体部内面は密なヘラミガキである。見込みは平行方向のヘラミガキ（84）、格子状ヘラミガキ（85）、平行線状＋格子状ヘラミガキ（86）がある。（82）を除けば、八尾市域編年のⅠ－２期～Ⅱ－１期に当る。

白磁碗（87）は横田・森田分類のⅣ類－１に当るもので、11世紀中葉から12世紀初頭に比定されている。

遺物の特徴から、井戸の廃絶時期は12世紀前葉の一時期に推定される。

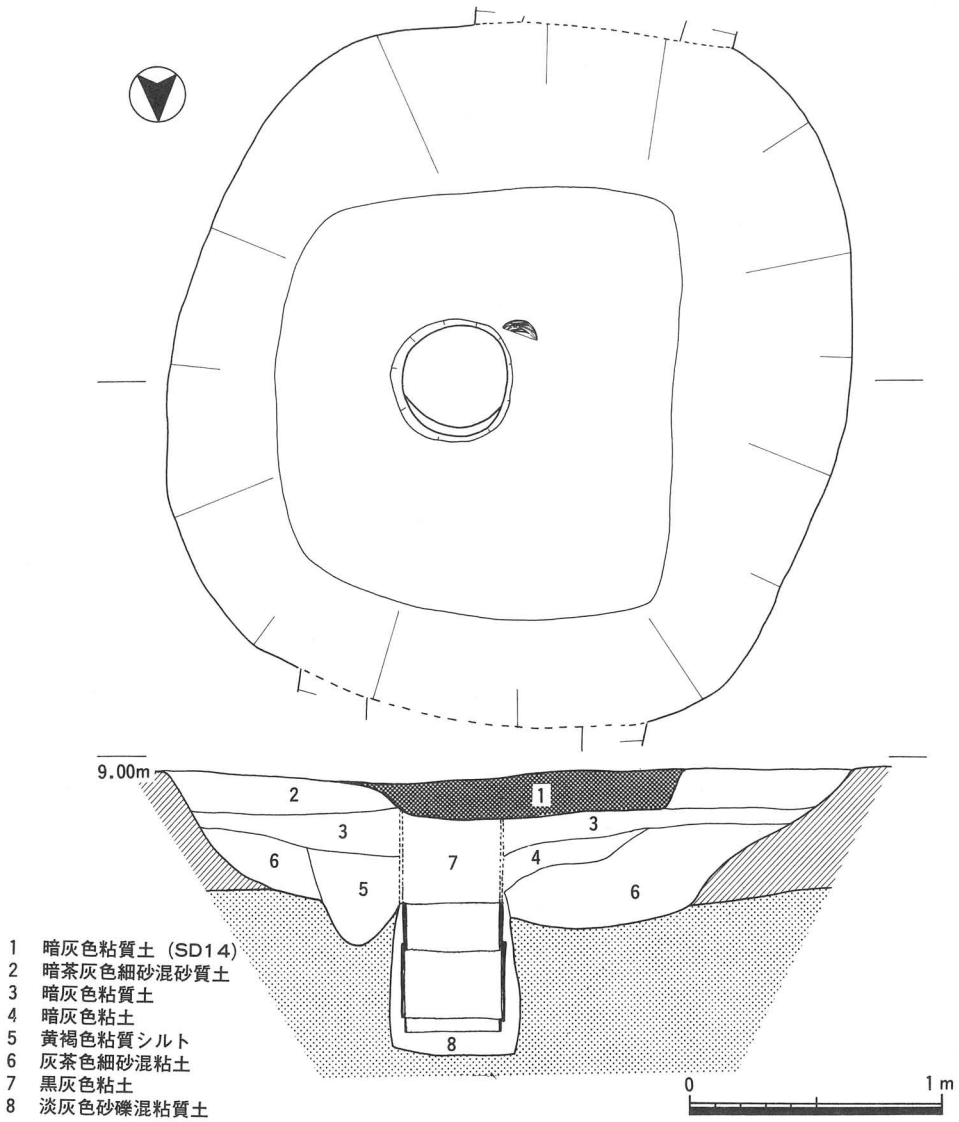
ＳＥ－11

２Ｈ区で検出した。掘形の形状が隅丸方形を呈する曲物積上げ井戸で、上部をＳＤ－14が南北方向に切っている。東西幅 2.7ｍ・南北幅 2.8ｍ・深さ1.05ｍを測る。井戸側は掘形の中央に設置しており、検出時点では三段の曲物井戸側が遺存していたが、上部にも曲物の痕跡が認められることから、本来は四段以上の曲物井戸側で構成されていたものと推定される。なお、三段目の曲物は二段目の曲物に挿入する形を取っているもので、他の井戸の井戸側構築法とは異なっている。掘形内の埋土は、上層から第１層暗灰色粘質土・第２層暗茶色細砂混砂質土・第３層暗灰色粘質土・第４層暗灰色粘土・第５層黄褐色粘質シルト・第６層灰茶色細砂混粘土・第７層黒灰色粘土・第８層淡灰色砂礫粘質土の８層である。

遺物は第３層および第７層から出土した。出土した遺物の内訳は、土師器小皿36・中皿２・土釜13・高杯１・須恵器甕３・鉢１・瓦器椀56・小皿２・白磁碗１である。そのうち、図示できたものは14点（88～101）である。なお、（94・100）が第７層から出土している。

土師器小皿（88～90）には、口縁部が二段に折り返されて、口縁端部が尖り気味に終るもの（88）や、ほぼ扁平な底部から口縁部が斜上方へ立ち上がるもの（89・90）がある。３点のうちでは（88）が古い様相を示している。土師器中皿（91・92）には、口縁部が斜上方へ立ち上がった後、口縁端部が尖り気味に終る（91）と口縁部が強いヨコナデにより外反し、口縁端部が肥厚気味で終る（92）がある。ただ、（92）は古い様相を示すもので、（88）と同様夾雑物と考えられる。

瓦器椀は４点（93～96）が図示できたが、他の資料も含めてすべて和泉型であった。（93）は全体に扁平なもので、形骸化の著しい高台が付く。内面のヘラミガキは、見込みが粗い平行線状で、体部は施文単位の太いヘラミガキを圏線状にやや粗く施している。（96）の見込みには格子状ヘラミガキを施す。八尾市域編年のⅢ－１期～Ⅲ－２期に当る。瓦器小皿（97・98）はともに上外方へ立ち上がった口縁部中位から外反気味に伸びるものである。（98）の見込み



第25図　SE－11平断面図

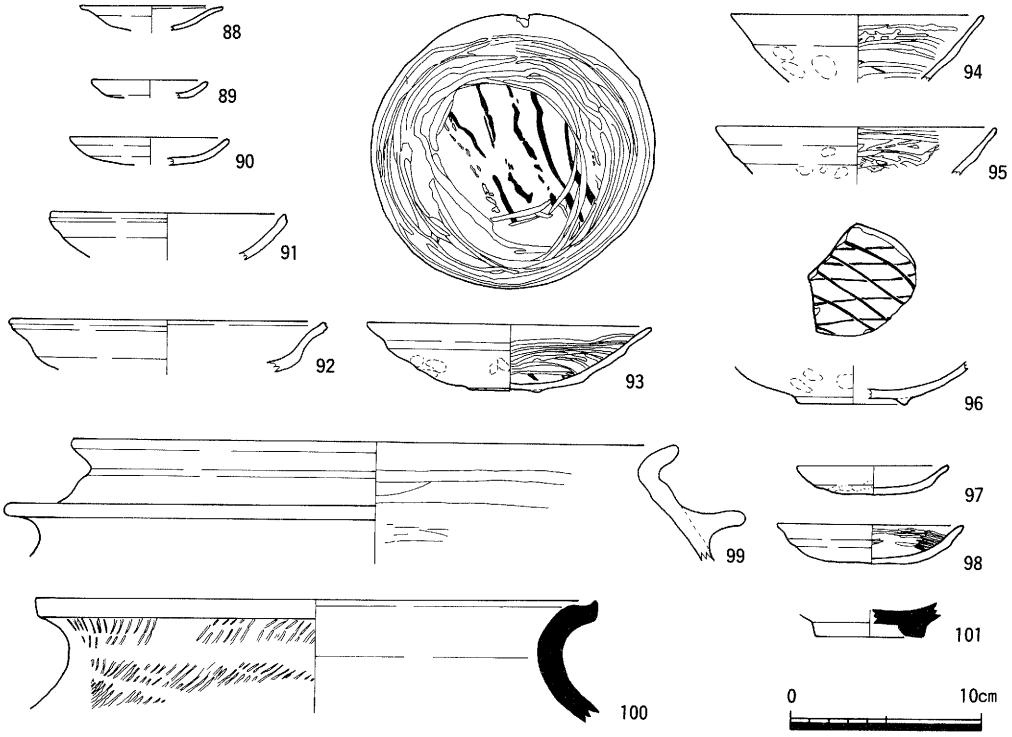
には平行線状ヘラミガキが施されている。

土師器土釜（99）は、口縁部が「く」の字に外反するもので、菅原分類による河内B_1型Cに当る。

須恵器甕（100）は、頸部外面に右上りのタタキを施すもので、東播系のものであろう。

白磁碗（101）は、削り出しが高く、幅広の高台が付くものであるが、上部が欠損していることから詳細は不明である。

出土遺物には、一部夾雑物を含み、時期幅が認められるが、新しい様相を示す遺物の特徴からみれば、井戸の廃絶時期は13世紀中葉の一時期に推定されよう。



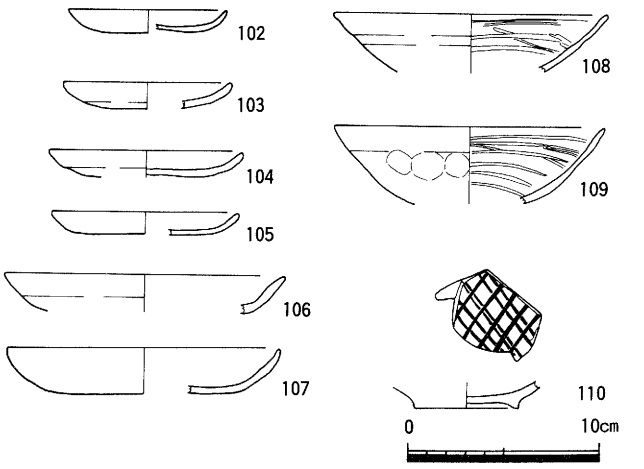
第26図　SE－11出土遺物実測図

ＳＥ－12

２Ｉ区・２Ｊ区で検出した。南壁の断面で確認した井戸で、大半が調査区外に至るため平面の形状は不明である。壁面で確認し得た数値は、東西幅0.94ｍ・深さ0.73ｍを測る。内部堆積土層は、黒褐色粘質土の一層である。なお、一部調査区外の掘削を実施したが、井戸側の存在が認められなかったことから、素掘り井戸であった可能性が高い。

遺物は黒褐色粘質土から出土した。出土した遺物の内訳は、土師器小皿30・中皿３・土釜１・瓦器椀43であるが、大半が小破片であった。そのうち、図示できたものは９点（102～110）である。

土師器小皿（102～105）にはほぼ水平な底部から丸味を持って口縁部が斜上方へ立ち上がるもの



第27図　SE－12出土遺物実測図

(102～104) と水平な底部から斜上方へ口縁部が立ち上がるものがある。中皿 (106・107) には、斜上方へ口縁部が立ち上がった後、口縁端部付近で外反気味に終る (106) と内湾気味に立ち上がり端部が尖って終る (107) がある。

瓦器椀は、図示した3点 (108～110) 以外もすべて和泉型であった。(108・109) はともに、口縁部外面ヨコナデ・体部外面に指頭圧痕が遺存するものである。体部内面の調整は (108) は単位幅の広いヘラミガキを圏線状、(109) は単位幅の細いヘラミガキを渦巻状に施している。胎土は、(108) が密で (109) はやや粗である。(110) は見込みに格子状ヘラミガキを施している。

出土した遺物には、やや時期幅が認められるが、新しい時期に比定される遺物から、井戸の廃絶時期を推定すれば、13世紀初頭から中葉の一時期が考えられる。

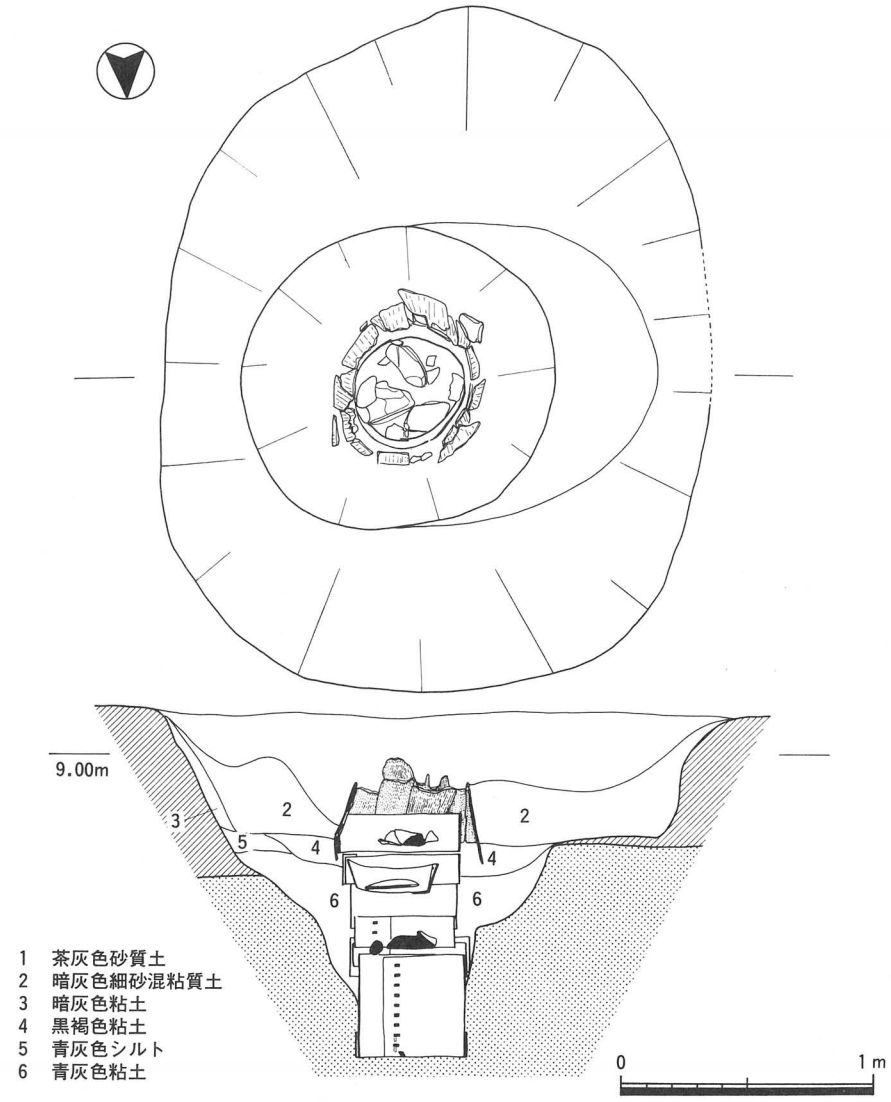
ＳＥ－13

２・３Ｊ区で検出した。掘形の形状が南北方向に長い楕円形を呈するもので、東西幅2.15ｍ・南北幅2.75ｍ・深さ 1.4ｍを測る。掘形の断面形状は摺鉢状で西側に三日月状を呈するテラスを有する。曲物井戸側は、掘形のほぼ中央に設置されており、７段積み重ねられている。さらに、最上部には曲物井戸側のまわりに板材を縦位に立てて井戸側としているが、検出した時点では土圧のためか、すべて内側に倒れ込んでいた。掘形内の埋土は、上層から第１層茶灰色砂質土・第２層暗灰色細砂混粘質土・第３層暗灰色粘土・第４層黒褐色粘土・第５層青灰色シルト・第６層青灰色粘土である。井戸側内の堆積土層は、上層から約 0.2ｍが灰色砂質土で、以下は暗灰色粘土である。

遺物は井戸側内から出土した。出土した遺物の内訳は、土師器小皿77・中皿14・土釜37、須恵器甕１・鉢４・瓦器椀 222・小皿12、陶器壺１、曲物容器１である。これらの遺物は、一部を除いて大半が小破片であるが、量的にも多くしかも全域にわたって出土していることから、井戸廃絶後は廃棄物の捨場として使用されていたようである。このうち、図示できたものは32点 (111～142) である。

土師器小皿 (111～122) は、丸味のある底部から口縁部が斜上方へ立ち上がるもの (111) とほぼ水平な底部から口縁部が斜上方へ立ち上がる (112～122) に区別できる。土師器中皿 (123～125) には、口縁部が斜上方へ立ち上がるもの (123・124) と強いヨコナデのため体部中位から内湾気味に立ち上がる (125) がある。

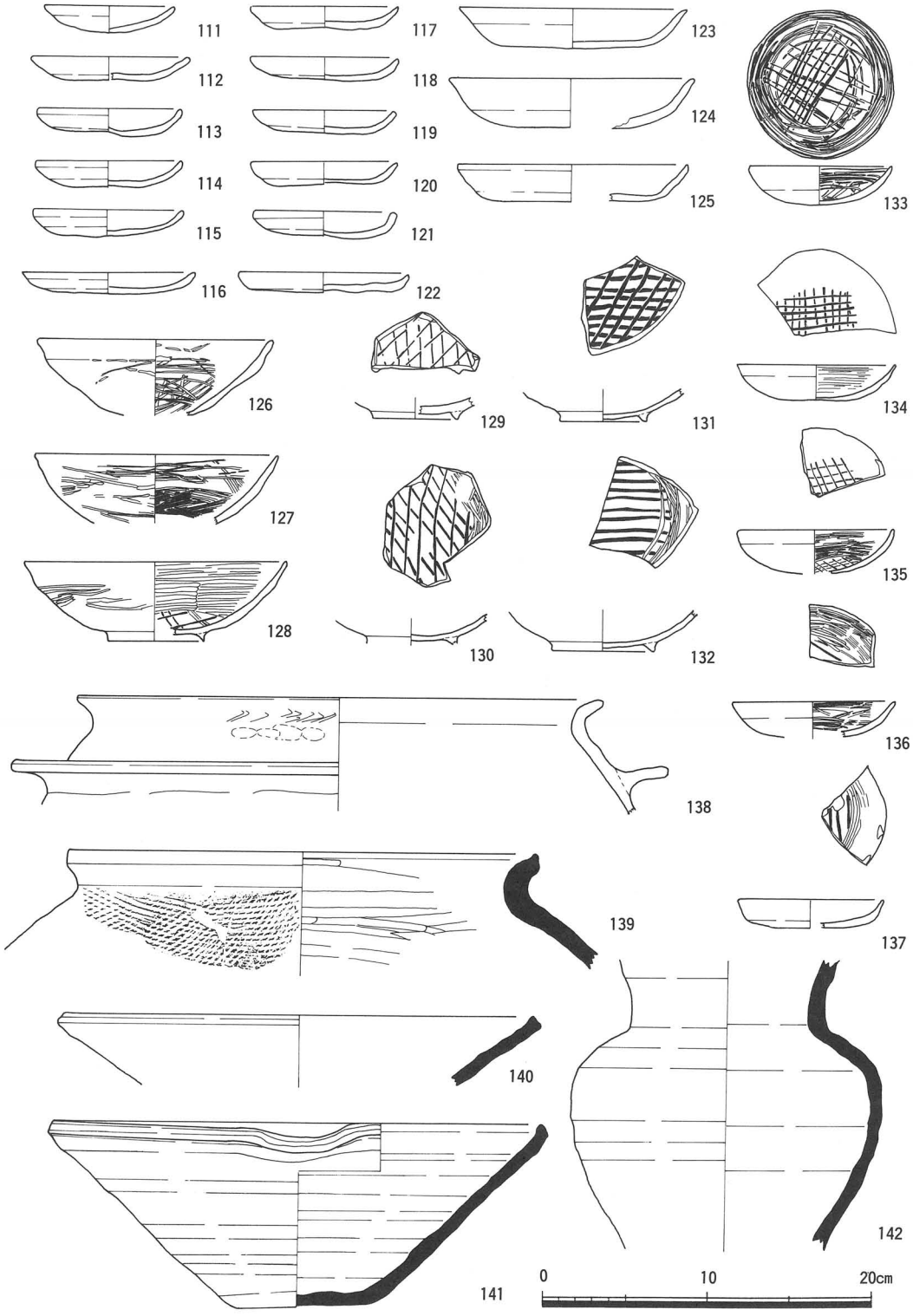
瓦器椀は図示した (126～132) 以外もすべて和泉型であった。体部が遺存する資料 (126～128) は体部外面に粗いヘラミガキ、体部内面に密なヘラミガキが施されている。見込みのヘラミガキには格子状ヘラミガキ (126～131)・平行線状ヘラミガキ (132) がある。概ね、八尾市域編年のⅡ－３期に比定されよう。瓦器小皿 (133～137) には、丸味のある底部から



第28図　SE−13平断面図

口縁部が斜上方へ立ち上がるもの（133〜136）とやや浅目で水平な底部から口縁部が斜上方へ立ち上がる（136・137）がある。見込みのヘラミガキは、前者が格子状で後者が平行線状である。土師器土釜（138）は、菅原分類による河内B1型に当る。須恵器甕（139）は、立ち上がり気味に外反して伸びる口頸部がつくものである。須恵器鉢（140・141）は、ともに東播系のもので、（140）が神出窯、（141）が魚住窯のものと推定される。なお、（141）は外面に煤が認められず、内面のみに炭化物の付着が認められることから、何らかの蓋に使用された可能性が高い。（142）は陶器の壺で、頸部から体部上位にかけて自然釉が認められる。

遺物の特徴から井戸の廃絶時期は、12世紀中葉の一時期が考えられる。



第29図　SE−13出土遺物実測図

土坑（ＳＫ）

土坑は総数７基検出した。掘形の形状から、溝状１基・円形５基・不明１基に区別できる。規模は、溝状を呈する土坑を除けば、幅 1.0～3.15ｍ・深さ0.44～ 0.9ｍを測る。断面の形状はすべて逆台形を呈し、底部がほぼ水平な面を有する。全体の性格は不明であるが、すべて掘立柱建物に近接して構築されていることから、これらの建物に付随した遺構と考えられる。なお、ＳＫ－５の内部には多量の灰の堆積が認められ、焼土坑であった可能性が高い。これらの土坑は、出土した遺物の特徴から11世紀末葉～13世紀末葉に位置付けられる。

ＳＫ－１

３Ｄ～３Ｅ区で検出した。東西方向に長く溝状を呈する土坑で、東西幅 6.3ｍ・南北幅0.55～0.85ｍ・深さ 0.1ｍを測る。内部堆積土は暗灰色砂質土一層である。位置的にみて、ＳＥ－７に付随した遺構と考えられる。

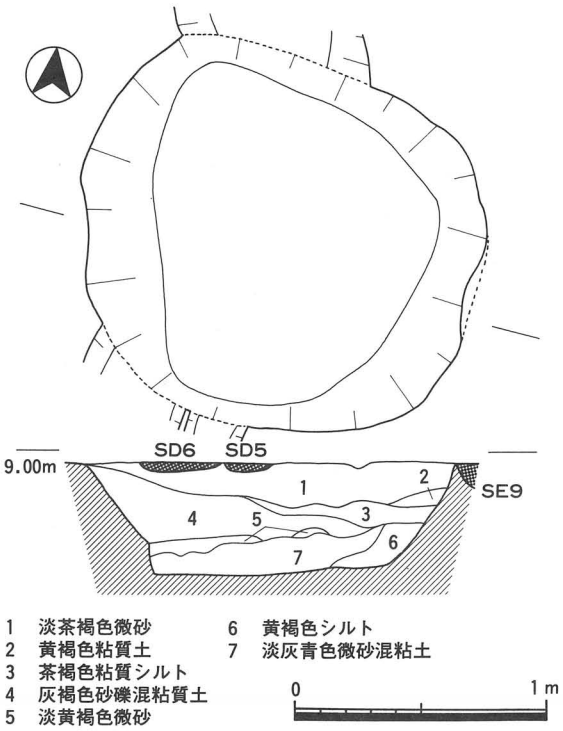
遺物は、土師器小皿の小破片が少量出土したが、時期は明確にし得ない。

ＳＥ－２

２Ｅ区・２Ｆ区で検出した。掘形の形状が円形を呈する土坑で、上部をＳＤ－５・ＳＤ－６に切られ、東側でＳＥ－９、北側でＳＫ－３を切る関係にある。東西幅3.15ｍ・南北幅 3.0ｍ・深さ 0.9ｍを測る。内部堆積土層は、上層から第１層淡茶褐色微砂・第２層黄褐色粘質土・第３層茶褐色粘質シルト・第４層灰褐色砂礫混粘質土・第５層淡黄褐色微砂・第６層黄褐色シルト・第７層淡灰青色微砂混粘土の７層である。遺物は第１層から出土した。

遺物の内訳は、土師器小皿12・中皿１・土釜９、瓦器椀21であるが、すべて小破片であった。そのうち、図示できたものは３点（143～145）である。　土師器小皿（143～145）には、底部から丸味を持って斜上方へ立ち上がるもの（143・144）と、強いヨコナデのため、口縁部が外反気味に立ち上がるもの（145）がある。

遺物がすべて小破片であったため、時期は明確にし難い。



第30図　SK－2平断面図

ＳＫ－３

２・３Ｅ区で検出した。上部でＳＤ－５・ＳＤ－６、南部でＳＫ－２に切られ、西部はＳＥ－10を切る関係にある。検出部分で東西幅1.45ｍ・南北幅 1.2ｍ・深さ 0.8ｍを測る。断面の形状は、逆台形を呈する。内部堆積土層は、上層から第１層淡茶灰色細砂・第２層黄褐色微砂混砂質土・第３層淡灰色微砂混粘土・第４層灰褐色粘質シルトである。

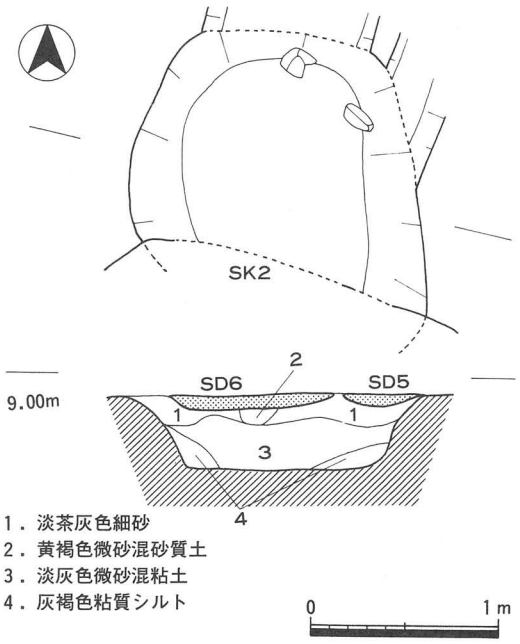
遺物は、主に第１層から土師器小皿の細片が少量出土したが、時期を明確にし得る資料はなかった。

ＳＫ－４

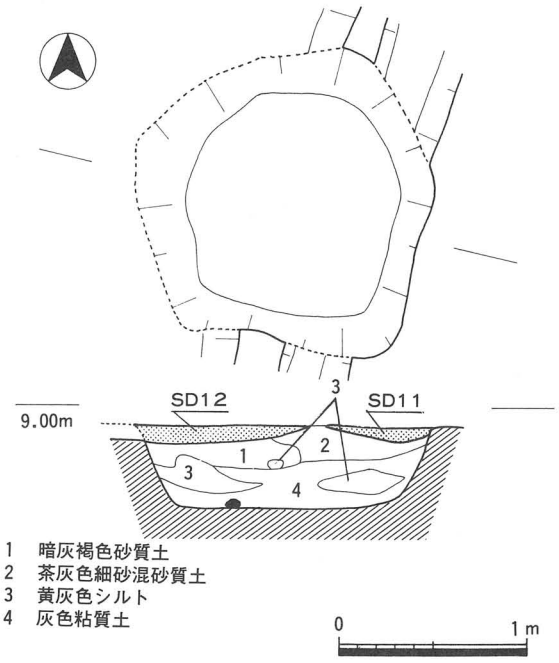
４Ｇ区で検出した。掘形の形状が円形状を呈するもので、上部はＳＤ－11・ＳＤ－12に切られている。径 1.6ｍ・深さ 0.44ｍを測る。断面の形状は逆台形を呈する。内部堆積土層は、上層から第１層暗灰褐色砂質土・第２層茶灰色細砂混砂質土・第３層黄灰色シルト・第４層灰色粘質土である。堆積状況からみて、人為的に埋められたものと推定できる。

遺物は第２層および第４層から出土した。出土した遺物の内訳は、土師器小皿22・土釜６、瓦器椀18・小皿１である。そのうち、図示できたものは４点（146～149）である。

瓦器椀は図示した４点（146～149）以外もすべて和泉型であった。（146）は、ほぼ水平な底部から体部が斜上方へ立ち上がるもので、内面体部は粗いヘラミガ



第31図　SK－3平断面図

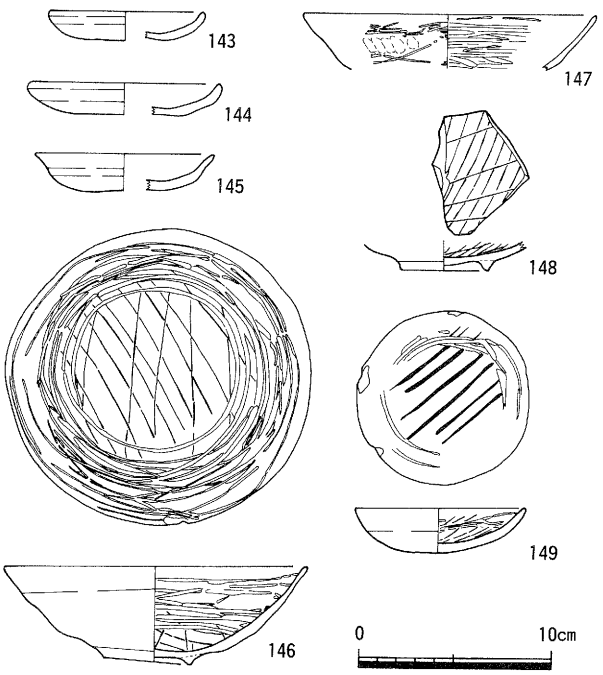


第32図　SK－4平断面図

キ、見込みに施文幅の広い格子状ヘラミガキが施されている。(147) は体部上位が遺存する資料で、外面口縁部付近に粗いヘラミガキが施されている。(148) は見込みに格子状ヘラミガキが施されている。(146) が八尾市域編年のⅢ－１期、(147) がⅡ－４期に当る。

瓦器小皿 (149) は丸味のある底部から斜上方へ立ち上がるもので、見込みのヘラミガキは平行線状である。

遺物の特徴から、遺構の使用時期は12世紀末から13世紀初頭の一時期と推定される。



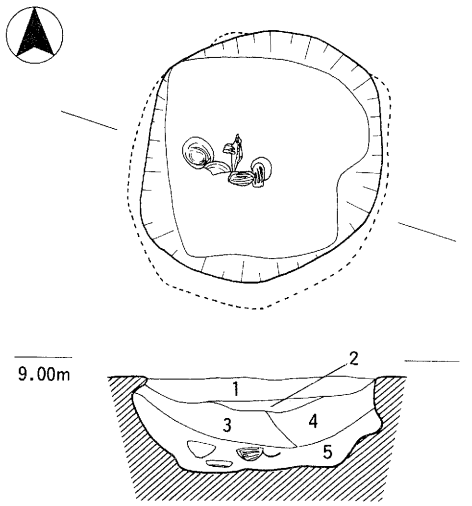
第33図　SK－2・SK－4出土遺物実測図

ＳＫ－５

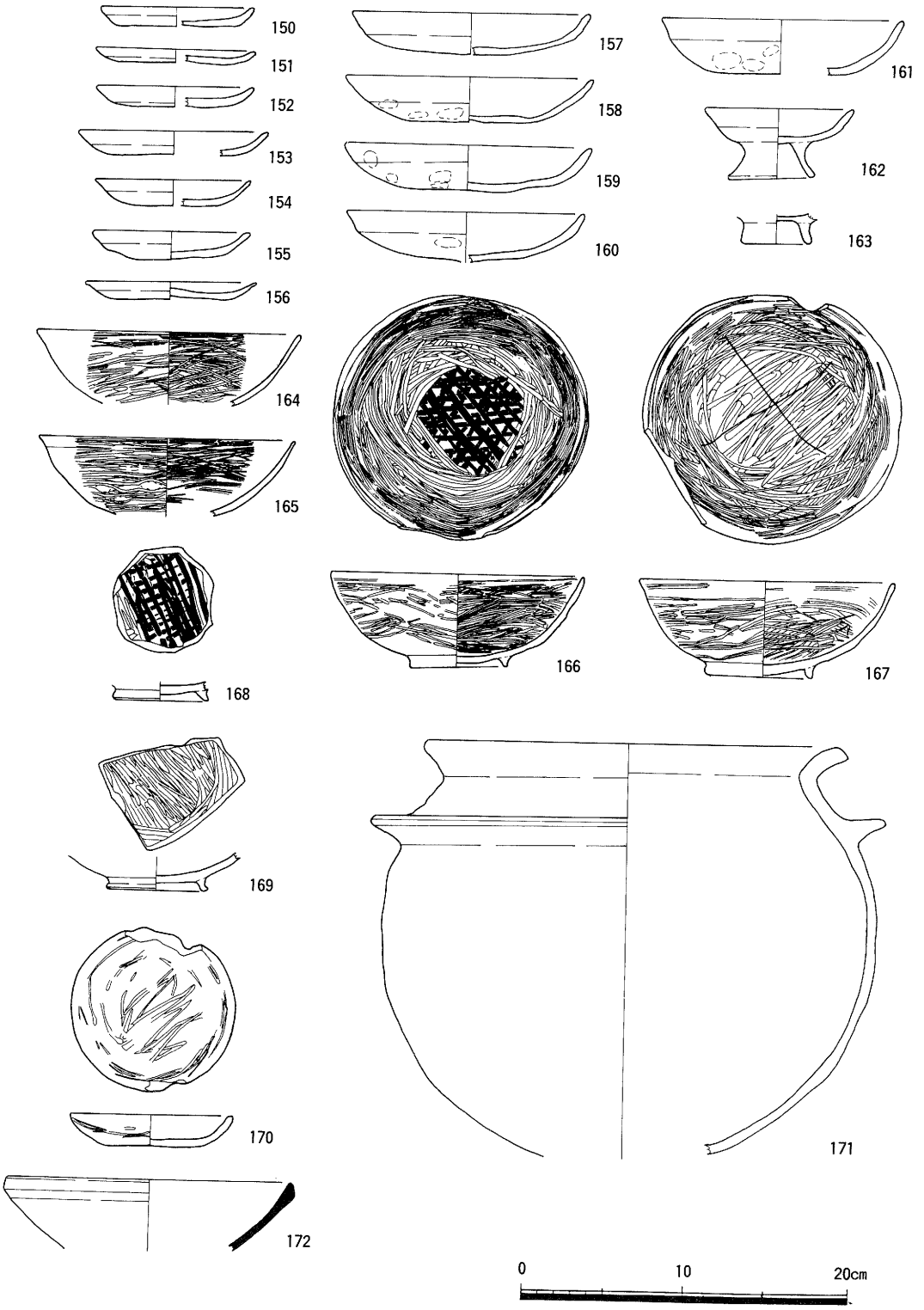
２Ｆ区で検出した。掘形の形状が円形を呈する土坑で、西端はＳＤ－10に切られている。径1.3m・深さ 0.5mを測る。断面の形状は逆台形を呈するが、断面の中位以下は抉り取られており袋状を呈する部分がある。内部堆積土層は上層から、第１層淡灰色細砂混砂質土・第２層淡灰褐色砂質土・第３層黒色灰混粘質土・第４層黒色灰・第５層淡青灰色粘土がレンズ状に堆積していた。

遺物は第３層・第４層・第５層から出土したが、大半が第３・４層に集中している。

出土した遺物の内訳は、土師器小皿70・中皿12・土釜１、瓦器椀37・小皿２、磁器椀１である。そのうち、図示できたものは22点 (151～172) である。



第34図　SK－5平断面図



第35図　SK−5出土遺物実測図

土師器小皿（150～156）には、水平な底部から斜上方へ直線的に立ち上がるもの（150～152）と口縁部付近で小さく外反する（153～156）ものがある。土師器中皿（157～161）には、丸味のある底部から小さく斜上方へ立ち上がるもの（157）、大きく立ち上がるもの（158）がある。（159～161）は口縁端部付近で小さく外反する。土師器台付小皿（162）は器高が高く「八」の字状を呈する高台に小皿が付くものである。（163）は高台高が低い小型の台付小皿である。

瓦器椀は図示した（164～169）以外の資料もすべて和泉型であった。口径16㎝前後・器高６㎝前後・高台径６㎝前後を測る。調整は、全体に体部外面が四分割を意識した密なヘラミガキ、体部内面は密な圏線状ヘラミガキで、見込みには一方向の密なヘラミガキ（167・169）のものと格子状ヘラミガキ（166・168）がある。八尾市域編年のⅠ－２期～Ⅱ－１期に当る。瓦器小皿（170）は、ほぼ水平な底部から口縁部が斜上方へ立ち上がるもので、見込みは雑なヘラミガキが施されている。

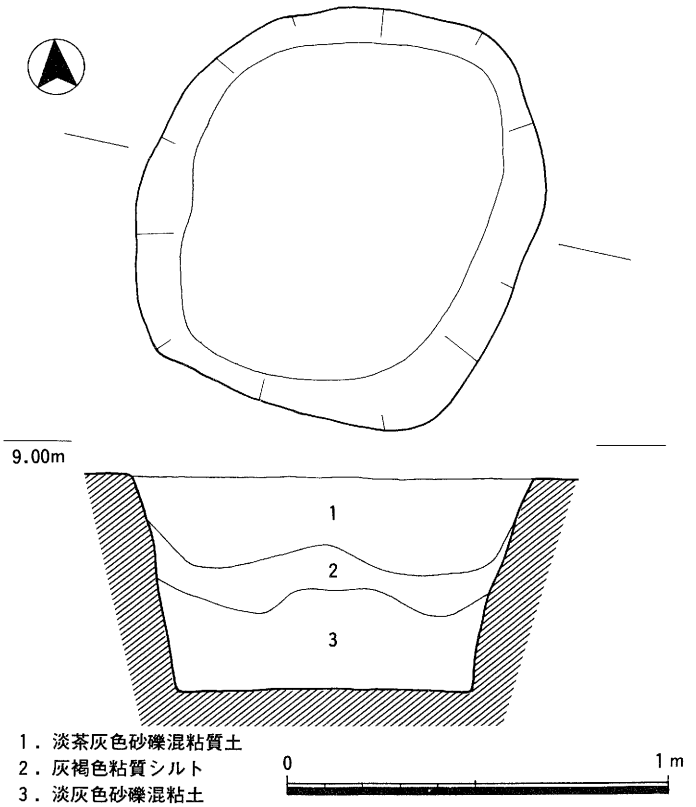
土師器土釜（171）は菅原分類による河内B_1型ｂに当るもので、11世紀代に比定されている。

白磁碗（172）は横田・森田分類Ⅳ－１類に当たり、11世紀中葉から12世紀初頭に比定されている。遺物の特徴から、土坑の使用時期は11世紀末葉から12世紀初頭の一時期に比定できよう。

ＳＫ－６

２Ｆ区で検出した。掘形の形状が、ほぼ円形を呈する土坑で、東西幅 1.0ｍ・南北幅 1.1ｍ・深さ0.55ｍを測る。断面の形状は逆台形を呈し、底部は水平な面を有する。内部堆積土層は、上層から第１層淡茶灰色砂礫混粘質土・第２層灰褐色粘質シルト・第３層淡灰色砂礫混粘土である。

遺物は第１層から出土した。出土した遺物の内訳は、土師器小皿14・土釜２、瓦器椀７である。すべて小破片のため。良好な資料ではなく、土坑の使用時期は明確でない。

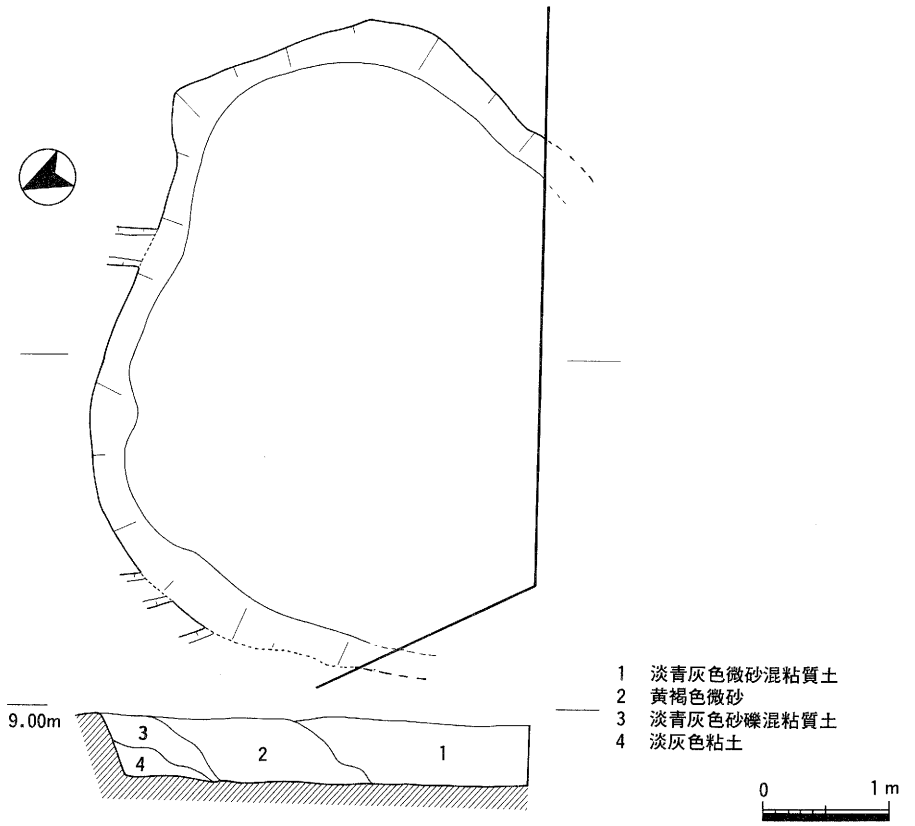


第36図　SK－6平断面図

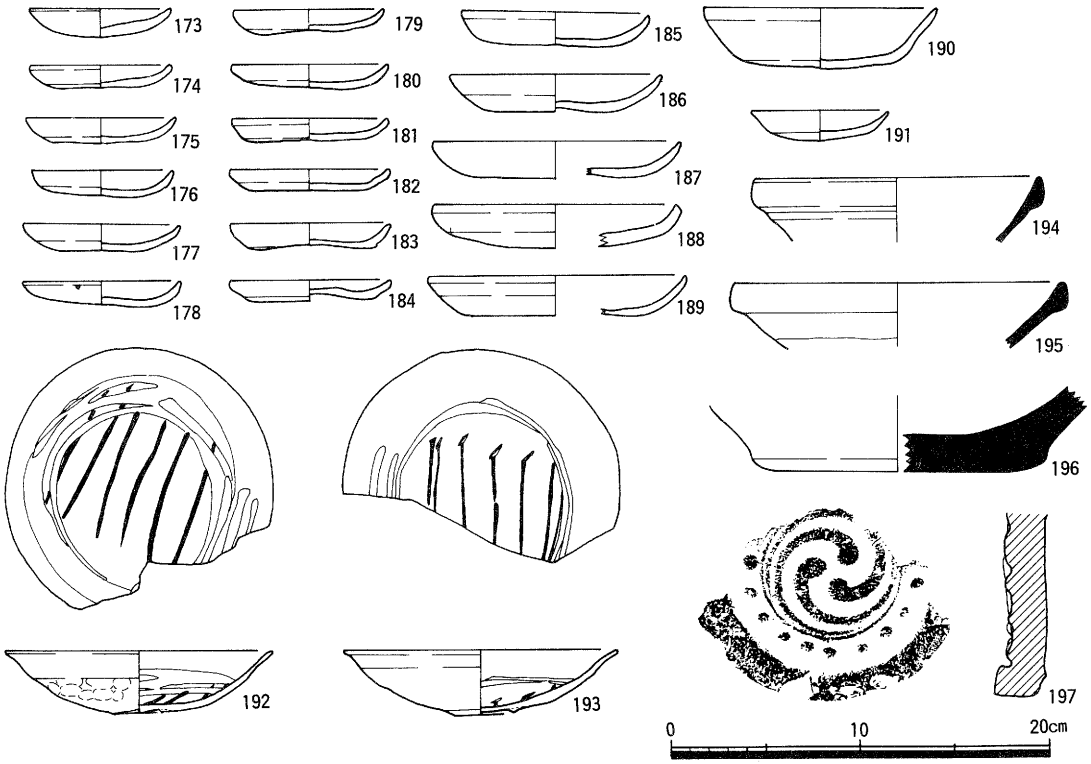
ＳＫ－７

１Ｆ・Ｇ区、２Ｆ・Ｇ区で検出した。南西部が調査区外に至るため、全容は不明であるが、検出部分では東西方向に長い楕円形を呈する。検出部の数値は、東西幅 5.1ｍ・南北幅 3.2ｍ・深さ 1.0ｍを測る。内部堆積土層は、第１層淡青灰色微砂混粘質土・第２層黄褐色微砂・第３層淡青灰色砂礫混粘質土・第４層淡灰色粘土で、堆積状況からみて北側から南側にかけて順次堆積しており、人為的に埋め戻しが実施されたことが窺える。遺物は主に第１層の下部から出土した。出土した遺物の内訳は、土師器小皿80・中皿22、瓦器椀70・小皿１・陶器甕１・白磁碗２・屋瓦１である。そのうち、図示できたものは25点（173～197）である。

土師器小皿（173～185）には、丸味のある底部から口縁部が斜上方へ立ち上がる（173）、ほぼ水平な底部から口縁部が斜上方ないしは上外方へ立ち上がる（174～181・185）、強いヨコナデのため口縁部が外反ないしは底部との境に明瞭な段を有するものがある。(182・ 183・ 184) 中皿 (186～190) には、底部から口縁部が緩やかな曲線を描いて斜上方に立ち上がる (186～189) と口縁部が直線的に立ち上がる（190）がある。(188) は器厚が厚く胎土も精良である。



第37図　SK－7平断面図



第38図　SK－7出土遺物実測図

瓦器小皿（191）は、やや丸味のある底部から口縁部が斜上方へ直線的に立ち上がる。瓦器椀は図示した（192・193）以外もすべて和泉型である。（192・193）はともに、器形が扁平で粗略化した高台が貼り付けられている。内面のヘラミガキは、体部は数条の圏線状、見込みは平行線状である。なお、（193）の見込みのヘラミガキの端には、施文の際に付いたものと思われるヘラ先による圧痕が認められた。ともに、八尾市域編年のⅢ－３期に当る。

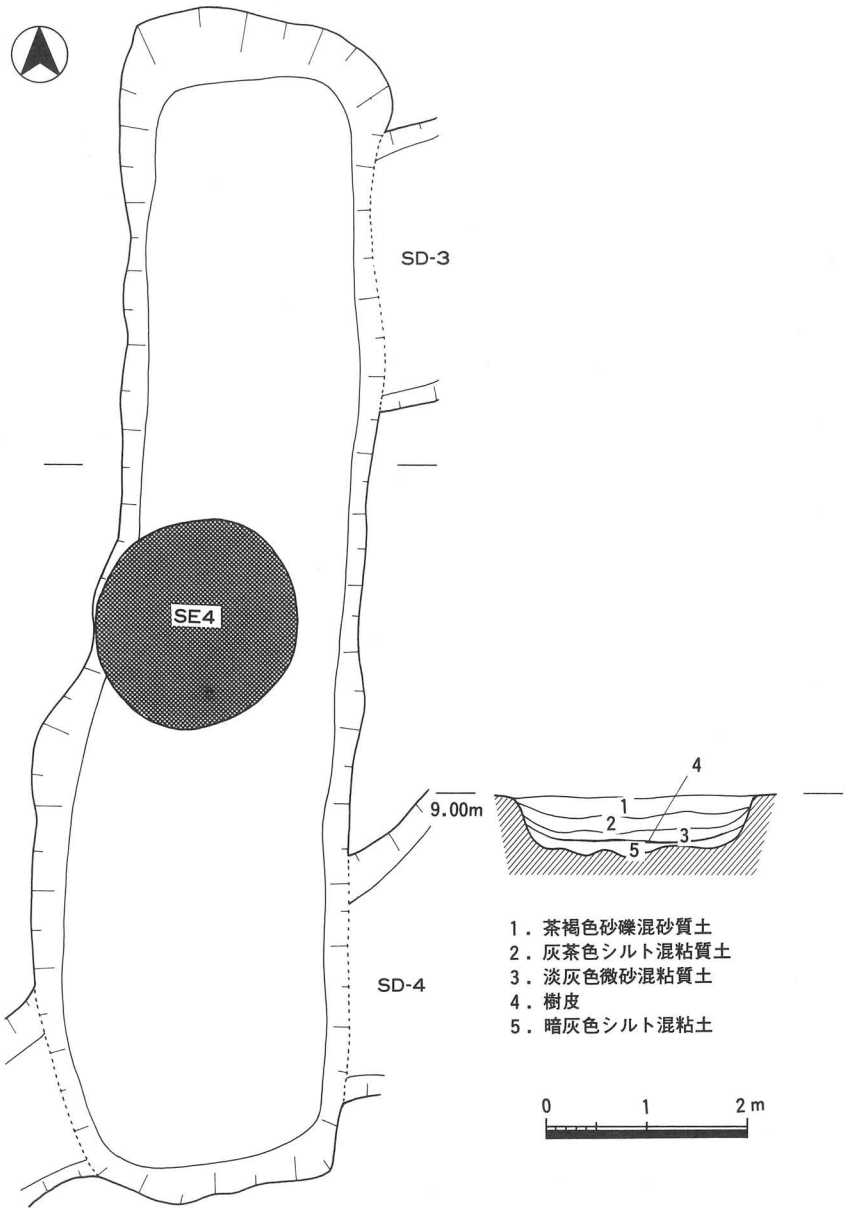
白磁碗（194・195）は、ともに、玉縁状口縁を有するもので、横田・森田分類Ⅳ－２類に当たる。陶器甕（196）は底部のみ遺存する。淡茶灰色の色調であるが、産地は不明である。

（197）は、右巻きの三巴文とする軒丸瓦である。

遺物は新旧のものが混在しており、時期幅があるが、新しい様相を示す土器は13世紀中葉～後葉に比定できよう。

池状遺構

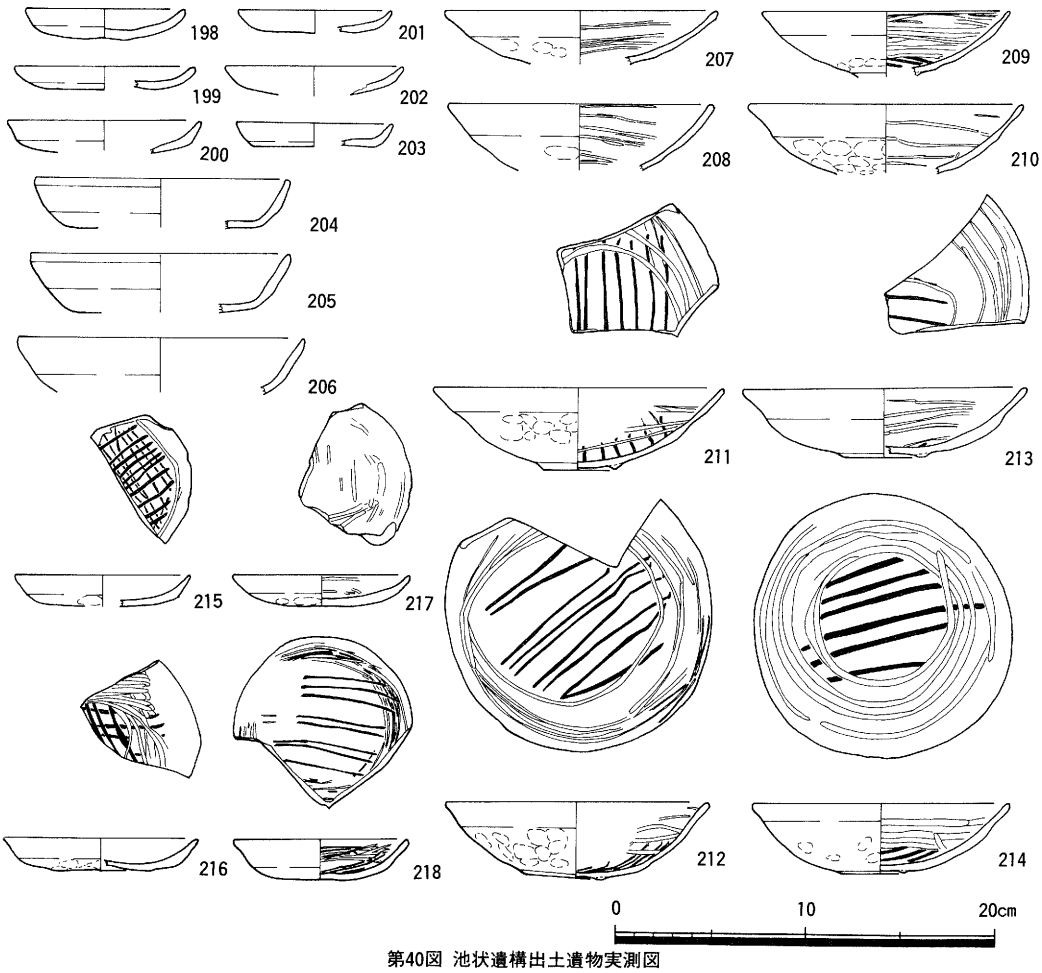
調査区の東部で検出した。掘形の形状が南北方向に長い溝状を呈するもので、東西幅 2.4～3.1m・南北幅11.9m・深さ 1.2mを測る。一部、ＳＤ－３・ＳＤ－４・ＳＥ－４に切られている。なお検出時点では**池状遺構**の南西部で一辺の大きさが50㎝前後の花崗岩１個と人頭大の石１個が内部に落ち込んでいた。内部の堆積土層は、上層から第１層茶褐色砂礫混砂質土・第



第39図　池状遺構平断面図

２層灰茶色シルト混粘質土・第３層淡灰色微砂混粘質土・第４層樹皮・第５層暗灰色シルト混粘土である。底部は、最下層の第５層上面を皿形状に整備した後、その上面に樹皮を一面に貼り付けられており、全体の形状は船底状を呈する。樹皮の各部の厚さは、側部で１㎝・底部付近は４㎝で底部に行くに従って厚い。底面の高低差は約８㎝で、北側に行くに従って低くなっている。なお、これら樹皮の樹種については不明である。

遺物は第２層・第３層から出土した。



第40図 池状遺構出土遺物実測図

出土した遺物の内訳は、土師器小皿91・中皿５・土釜８、瓦器椀 220・小皿４であるが、一部の遺物を除けば小破片が大半を占める。そのうち、図示できたものは21点（198～ 218）である。

土師器小皿（198～203）には、口縁部が緩やかに曲線を描いて斜上方へ立ち上がるもの（198～202）と水平な底部から口縁部が斜上方へ直線的に立ち上がるもの（203）がある。土師器中皿（204～206）は、ほぼ水平な底部から口縁部が上外方へ伸びるもので、口縁部中位が強いヨコナデのため小さく外反する（205・206）がある。

瓦器椀は、図示した以外もすべて和泉型である。全容を知り得る資料のなかでは、器高の違いから２タイプに区別することが可能である。器高 4.0～ 4.4cmのもの（211・212）と器高3.8cmのもの（213・214）に区別できる。両者ともに外面体部に指頭圧痕が遺存し、体部内面は数条程度の粗いヘラミガキ、見込みには平行線状ヘラミガキを施す。前者は八尾市域編年Ⅲ－２期、後者はⅢ－３期に当る。なお、(214) が第４層直上から出土している。瓦器小皿（215

～218）には、やや浅めのもの（215～217）と深めの（218）がある。形態的には４点ともに、口縁部が緩やかな曲線を描いて斜上方へ立ち上がるものである。（218）は強いヨコナデのため口縁部がやや外反気味である。内底面のヘラミガキは、格子状（215・216）、平行線状（217・218）がある。

遺物の時期はやや幅があるようであるが、新しい様相を示す土器は13世紀中葉～後葉に比定できよう。

溝（ＳＤ）

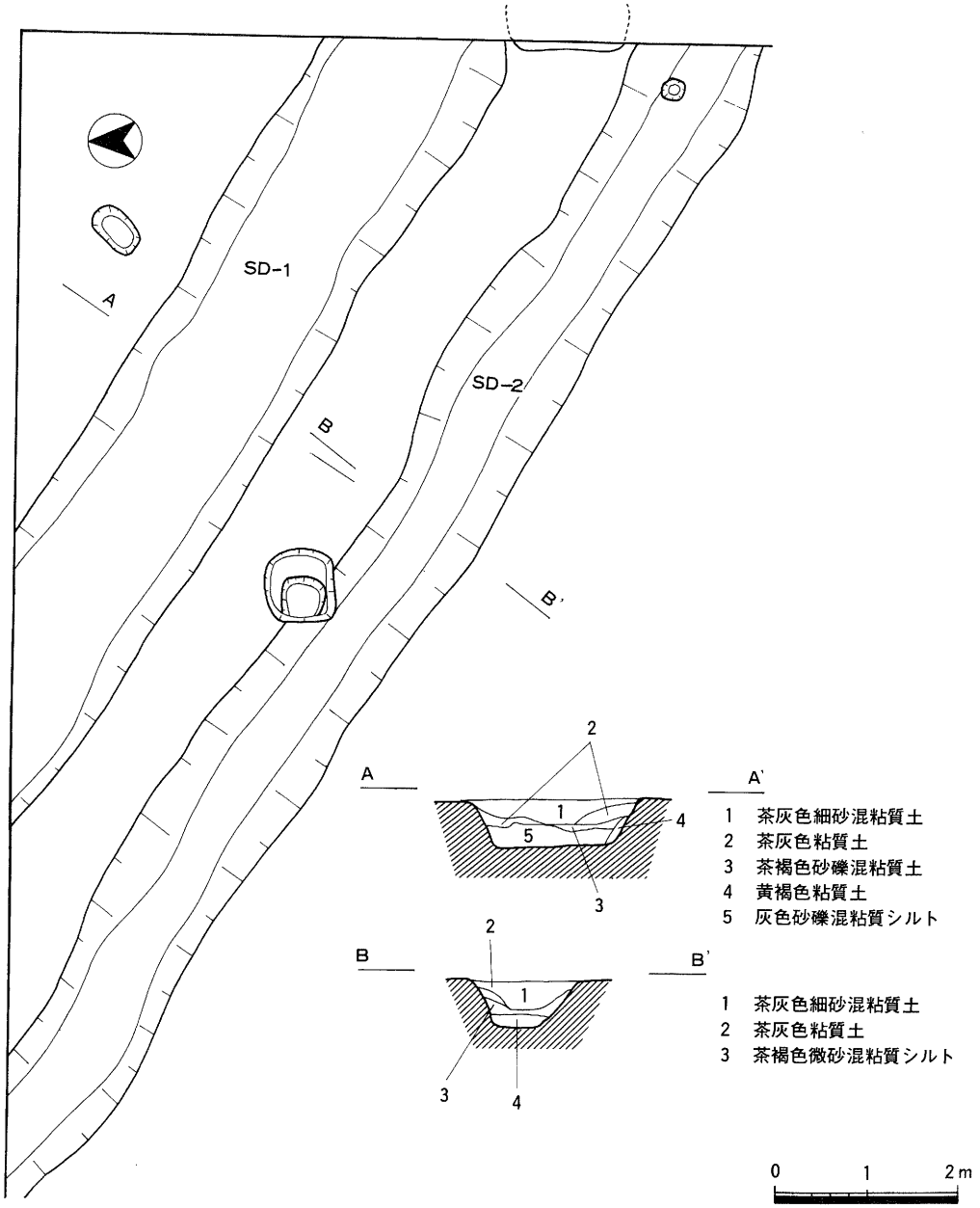
総数18条を検出した。方位で区別すれば、南東－北西方向のもの２条（ＳＤ－１・２）、北東－南西方向のもの２条（ＳＤ－３・４）、北－南方向のもの２条（ＳＤ－９・17）、北北西－南南西のもの12条（ＳＤ－５～８・10～13・15・16・18）である。時期で区別すれは、弥生時代後期～古墳時代前期（ＳＤ－１）、古墳時代前期～古墳時代後期（ＳＤ－２）、鎌倉時代後期（ＳＤ－３・４・９・14）、鎌倉時代末期以降（ＳＤ－５～８・10～13・15～18）である。なお、鎌倉時代末期以降に比定した溝群は、断面の形状がＵ字形を呈することや、内部堆積土が一様に灰色砂質土であることから、堀溝と考えられる。

ＳＤ－１

南東－北西方向に流路を持つ。幅 1.8ｍ・深さ 0.5ｍ・検出長10ｍを測る。断面の形状は、逆台形を呈する。遺物は主に上層から、弥生時代後期から古墳時代前期に比定される土器類が出土した。出土した遺物の内訳は、弥生土器壺15・甕24・鉢２・高杯４、土師器甕68・土錘２である。そのうち、図示したものは16点（219～234）である。時期別では、弥生時代後期のものは短頸壺（219）・二重口縁壺（220・221）・甕（222・223）・高杯（224・225）・鉢（226・227）・底部有孔土器（228）がある。古墳時代前期のものは庄内式甕（229～231）布留式甕（232）がある。土錘は２点出土したが、時期は明確でない。

ＳＤ－２

ＳＤ－１の南側に併行して伸びるもので、幅 1.2ｍ・深さ 0.5ｍ・検出長15ｍを測る。断面の形状は逆台形を呈する。遺物は弥生時代後期から古墳時代後期に比定される土器類が各層から出土したが、一部の遺物を除いて大半が小破片であった。出土した遺物の内訳は、弥生土器甕14・高杯２、土師器甕37・鉢１・器台１・高杯７・鍋１・土釜１、須恵器壺２・杯身６・鉢１である。そのうち、図示したものは10点（235～244）である。時期別では、弥生時代後期の弥生土器甕（235）、古墳時代前期の土師器甕（236）・小型器台（238）、古墳時代後期の土師器土釜（237）・高杯（239）・須恵器壺（240）・有蓋高杯（241）・杯身（242）・鉢（243）・鍋（244）がある。

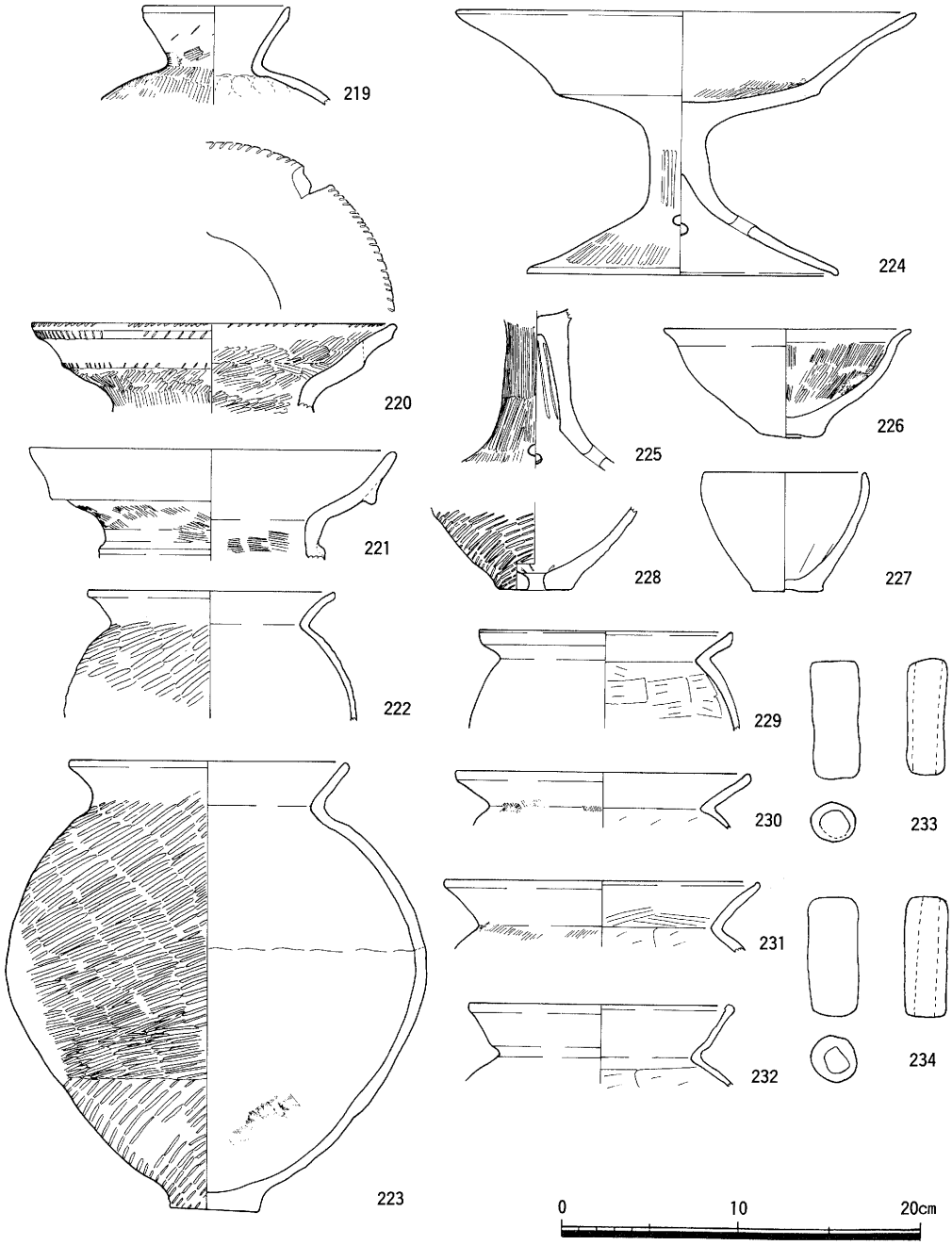


第41図 SD－1・SD－2平断面図

SD－3

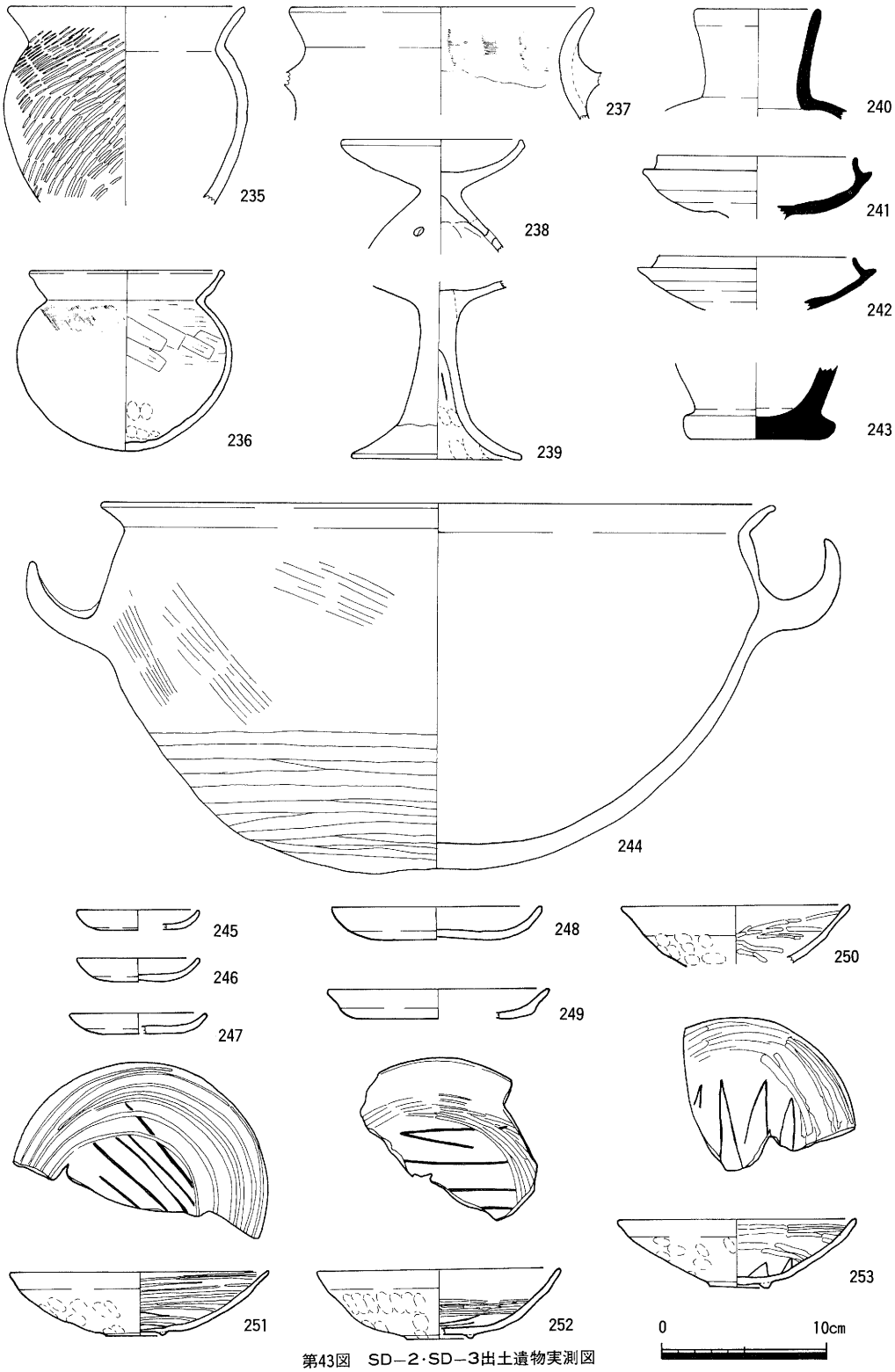
北東－南西方向に伸びるもので、西端は**池状遺構**を切っている。幅 2.6m・深さ0.15m・検出長7.2mを測る。断面の形状は浅い半円形を呈する。内部堆積土層は、上層の淡灰色砂礫混砂質土と下層の黄褐色砂礫混粘質土の二層である。

遺物は主に下層から出土したが、大半が小破片であった。



第42図　SD－1出土遺物実測図

出土した遺物の内訳は、土師器小皿29・中皿13・瓦器椀87・白磁碗２である。そのうち、図示したものは９点（245～ 253）である。すべて鎌倉時代後期に比定されるもので、器種別では土師器小皿（245～ 247）・中皿（248・ 249）、瓦器椀（250～ 253）がある。



第43図　SD−2・SD−3出土遺物実測図

ＳＤ－４

北東－南東方向に伸びるもので、池状遺構の南部を切っている。幅 1.8～ 3.4ｍ・深さ 0.8ｍ・検出長23.5ｍを測る。断面の形状は逆台形を呈する。内部堆積土層は、上層の灰褐色砂礫混粘質シルトと下層の淡灰色粘土の二層である。遺物は主に上層から出土したが大半が小破片で出土量は少ない。出土した遺物の内訳は、弥生土器高杯２、土師器甕１・小皿６、須恵器甕２・杯身１・鉢２、瓦器椀22・小皿１である。各時期に比定される遺物が出土しているが、池状遺構を切っていることから、13世紀後半以降に構築されたものと推定できよう。

ＳＤ－５

北北東－南南西に伸びるもので、ＳＤ－２・ＳＫ－３・ＳＫ－２・ＳＤ－４の一部を切っている。幅 0.4ｍ・深さ0.06ｍを測る。内部堆積土層は淡灰色砂質土一層である。遺物は出土しなかった。

ＳＤ－６

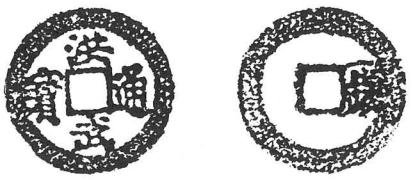
北北東－南南西に伸びるもので、ＳＤ－２・ＳＫ－３・ＳＫ－２・ＳＤ－４の一部を切っている。幅 1.0ｍ・深さ 0.1ｍを測る。内部堆積土層は淡灰色砂質土一層である。遺物は出土しなかった。

ＳＤ－７

北北東－南南西に伸びるもので、ＳＤ－２・ＳＤ－９の一部を切っている。幅 0.3ｍ・深さ0.04ｍを測る。内部堆積土層は淡灰色砂質土一層である。遺物は出土しなかった。

ＳＤ－８

北北東－南南西に伸びるもので、ＳＤ－９・ＳＥ－10の一部を切っている。幅0.28ｍ・深さ0.04ｍを測る。内部堆積土層は淡灰色砂質土一層である。内部から洪武通宝（初鋳1368年）が１枚出土している。



254

第44図　ＳＤ－８出土銭貨拓影

ＳＤ－９

北－南に伸びるもので、ＳＤ－７・ＳＤ－８に一部切られている。幅 0.5ｍ・深さ0.14ｍを測る。内部堆積土層は暗灰色砂質土一層である。遺物は出土しなかった。

ＳＤ－10

北北東－南南西に伸びるもので、ＳＫ－５・ＳＫ－７の一部を切っている。幅 0.3ｍ・深さ0.06ｍを測る。内部堆積土層は淡灰色砂質土一層である。遺物は出土しなかった。

ＳＤ－11

北北東－南南西に伸びるもので、ＳＫ－４・ＳＫ－７の一部を切っている。幅0.64ｍ・深さ

0.08ｍを測る。内部堆積土層は淡灰色砂質土一層である。遺物は出土しなかった。

ＳＤ－12

北北東－南南西に伸びるもので、ＳＫ－４・ＳＫ－７の一部を切っている。幅 1.1ｍ・深さ0.12ｍを測る。内部堆積土層は淡灰色砂質土一層である。遺物は出土しなかった。

ＳＤ－13

北北東－南南西に伸びる。幅0.38ｍ・深さ0.08ｍを測る。内部堆積土層は淡灰色砂質土一層である。遺物は出土しなかった。

ＳＤ－14

北北東－南南西に伸びるもので、ＳＥ－11を切っている。幅 1.1～ 1.7ｍ・深さ0.15ｍ前後を測る。内部堆積土層は、南部および北部では暗灰色粘質土であるが、中央部付近では暗灰色粗砂であった。遺物はほぼ全域から出土した。

出土した遺物の内訳は、土師器小皿 167・中皿39、瓦器椀 110・小皿３、須恵器塊１、青磁皿１である。そのうち、図示したものは、土師器小皿74（255～328）・中皿30（329～358）瓦器椀59（364～422）・小皿３（359～361）、須恵器塊１（362）、青磁皿１（363）の168点である。

土師器小皿は74点（255～328）を図示し、形態の違いから７類（１～７類）に大別した。各類の特徴は、１類が丸底気味の底部から口縁部が斜上方へ伸びるもの（255～269）、２類が丸底気味の底部から口縁部が斜上方へ伸びた後、口縁端部付近で角度を上外方へ変え、端部が尖り気味に終るもの（267～277）、３類が平底の底部から口縁部が斜上方へ伸びるもの（278～301）、４類が平底の底部から口縁部が直線的に斜上方へ伸びるもの（302～313）、５類が口縁部が外上方へ伸びるもの（314～319）、６類が口縁部が強いヨコナデによって底部との境に段を有するもの、ないしは、口縁部が外反するもの（320～326）、７類が口縁部が内側に折り込まれるもの（327・328）である。以上、形態から７類に細分したが、胎土および色調との相関関係は認められなかった。なお、７類については、平安京内から出土している資料に酷似しており、搬入品と考えられる。

土師器中皿は30点（329～358）図示した。そのうち、口径12.0㎝・器高 1.8㎝のものと、口径は変わらないが器高が 2.5㎝前後を測る２タイプが認められた。前者を中皿Ａ、後者を中皿Ｂと呼称し、区別した。さらに中皿Ａ・Ｂタイプを合わせて５類（１～５類）に細分した。各類の特徴は、１類が水平な底部から口縁部が斜上方へ伸びるもの（A^1 － 329～338、B^1 － 339・340）、２類が口縁部がやや内湾気味に伸びた後、端部が上方へ尖り気味に終るもの（A^2 － 341～350、B^2 － 351）、３類が口縁部が上方へ伸びるもの（A^3 － 352・353）、４類が口縁部が底部から折曲して伸びるもの（A^4 － 354・355、B^4 － 356・357）、５類

が強いヨコナデにより口縁部が外反するもの（A^{5} － 358）である。以上の結果、土師器中皿については２タイプが同時期に共存していたことが確認できた。ただ、器高の数値以外では形態的に大きな差違があるわけでなく、使用目的の違いにより、使いわけたものと考えるよりは、供給元が少なくとも２ケ所以上あったと考えるのが妥当であろう。

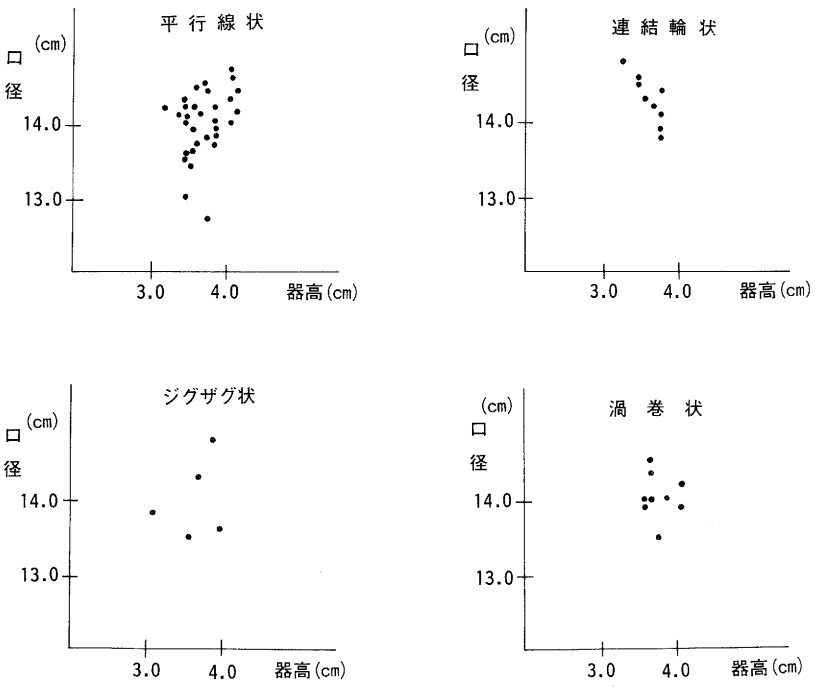
瓦器小皿は総類３点が出土したのみで、土師器小皿に比して出土量は少ない。３点（359～361）を図示したが、３点ともに形態を異にしている。

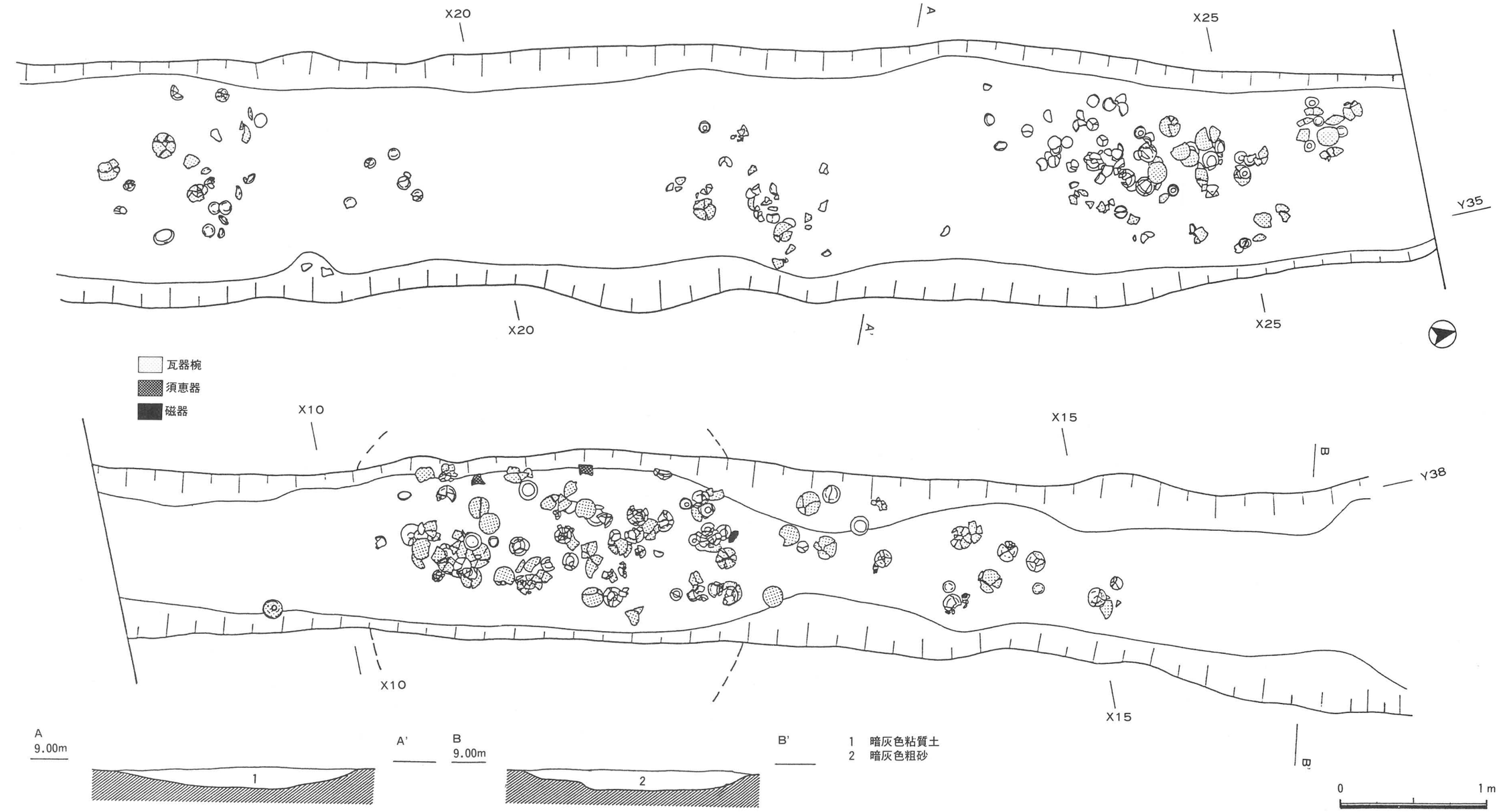
須恵器埦は１点（362）出土した。東播系のもので、外底面は擬高台状を呈し底部外面には回転糸切痕が遺存している。

中国産陶磁器は青磁小皿が１点（365）出土した。内面に櫛によるジグザグ文が施されている。横田・森田分類による同安窯系青磁皿１類に当たるもので、12世紀中葉から13世紀初頭に比定されている。

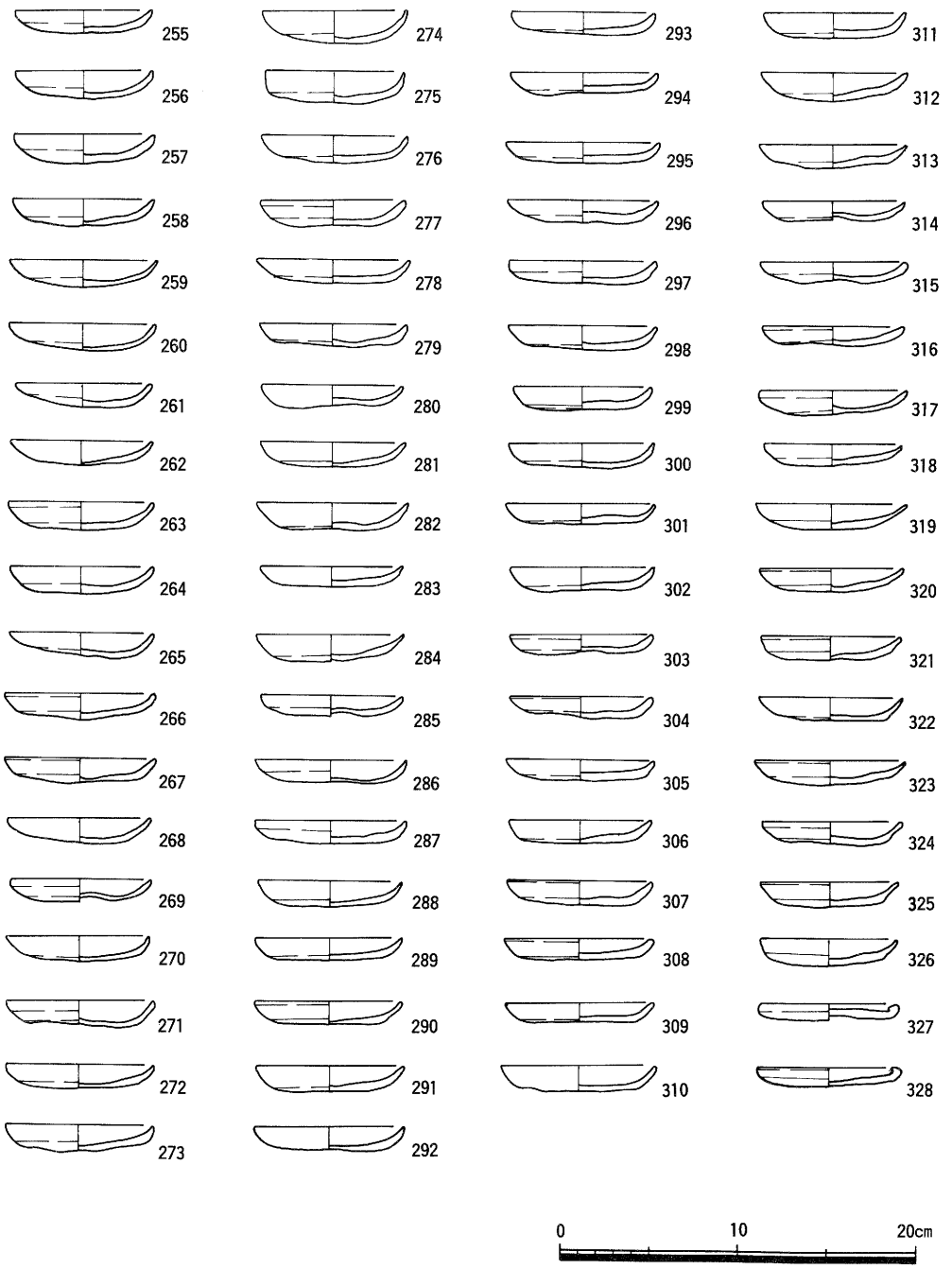
瓦器椀は総類 110点が出土したが、すべて和泉型に比定されるものであった。そのうち、59点（364～422）を図示した。見込みのヘラミガキの模様で区別すれば、平行線状・連結輪状・渦巻状・ジグザグ状の４タイプがある。なお、図示した資料およびそれ以外で見込みのヘラミガキ模様が確認できたもの（但し、$\frac{1}{6}$以上遺存していたものに限定）を合わせると、平行線状

瓦器椀法量表

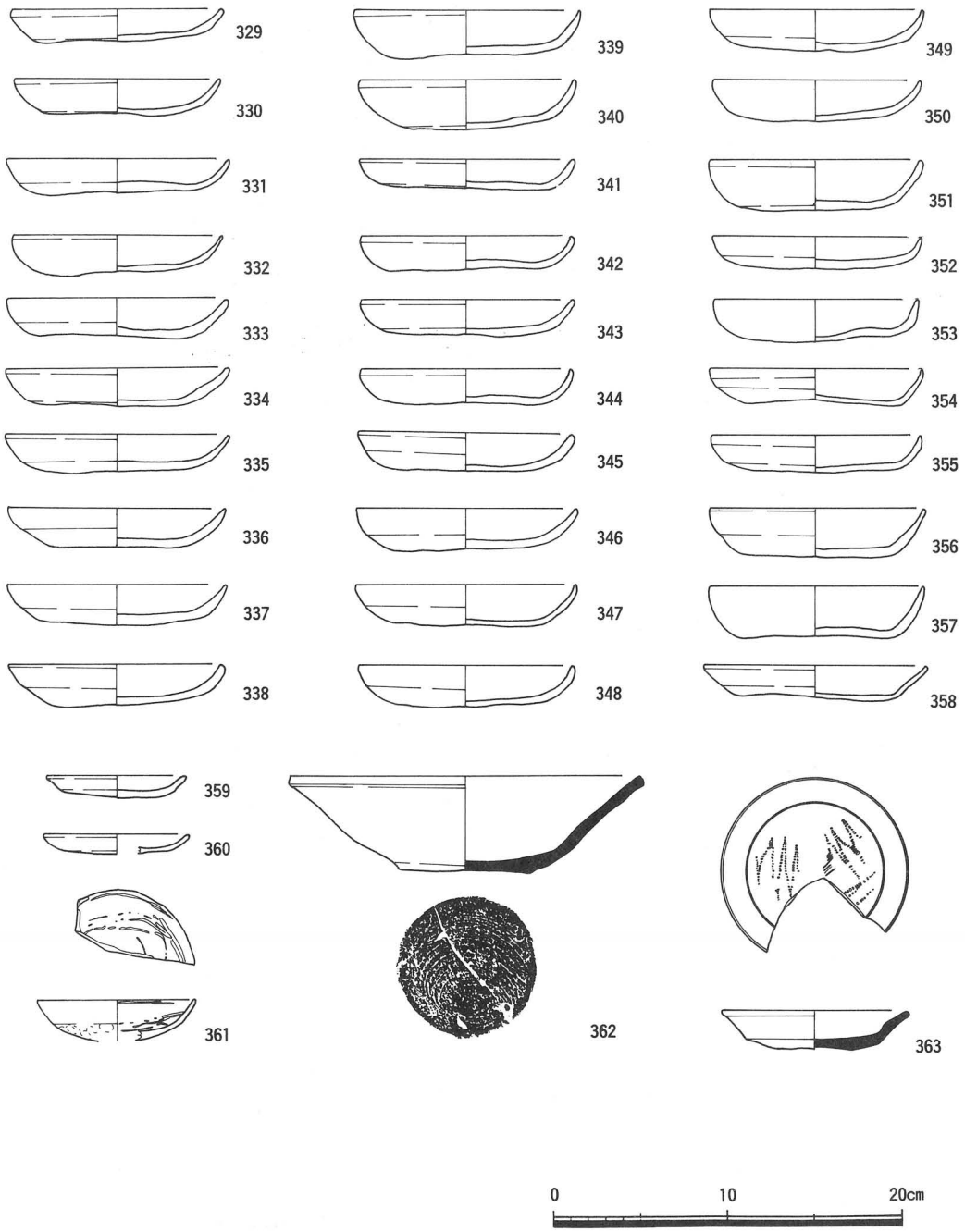




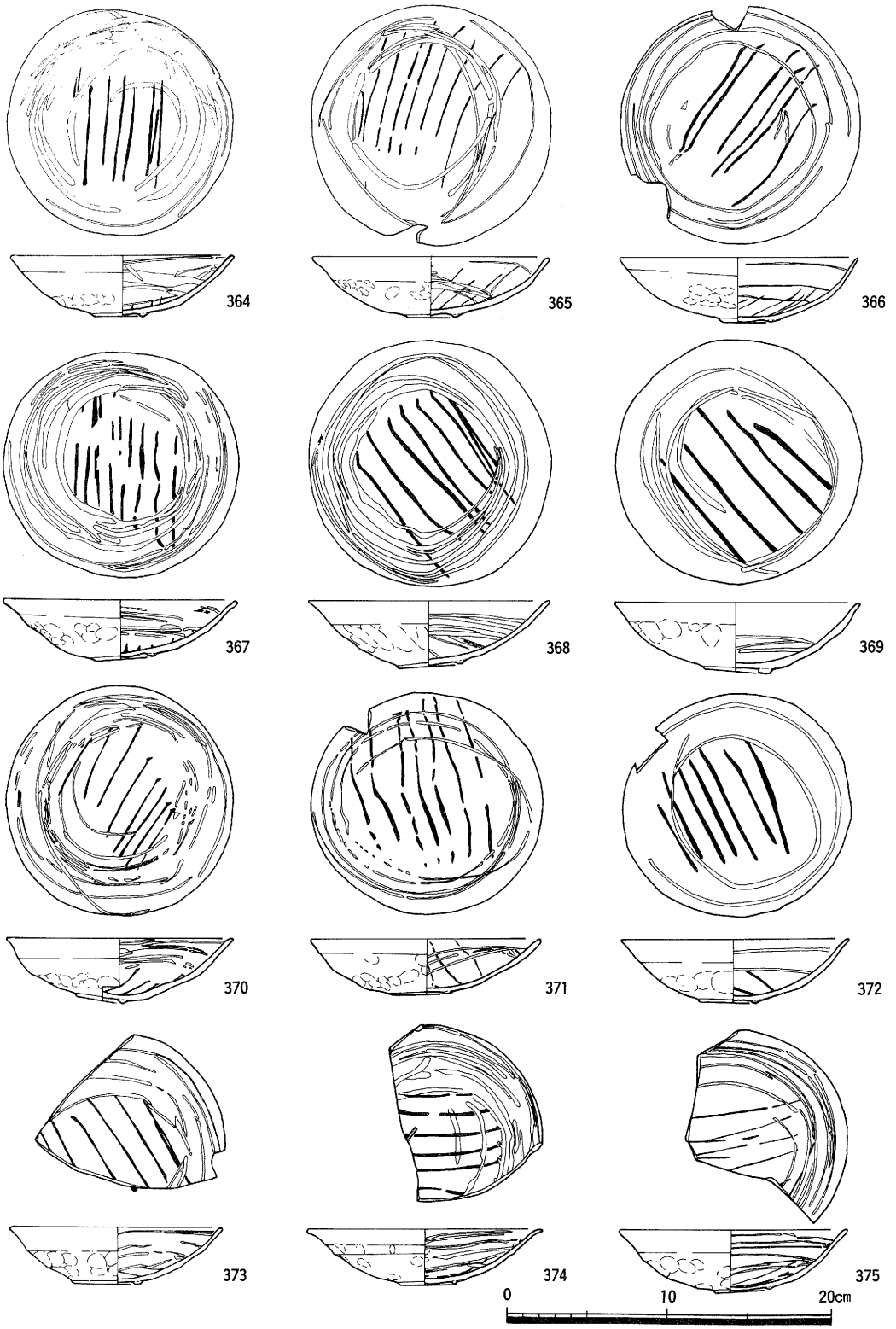
第45図　SD−14平断面図



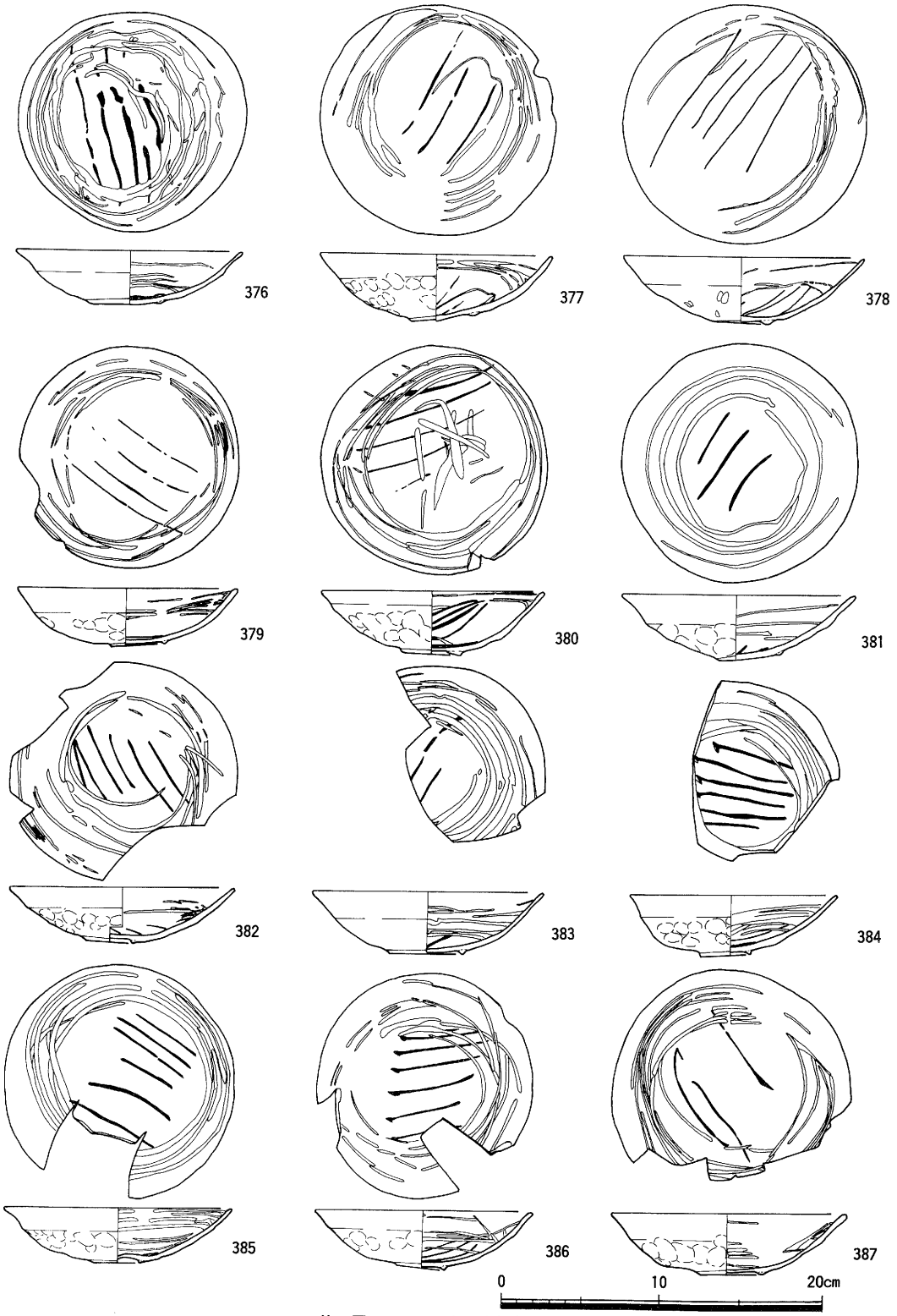
第46図　SD－14出土遺物実測図1



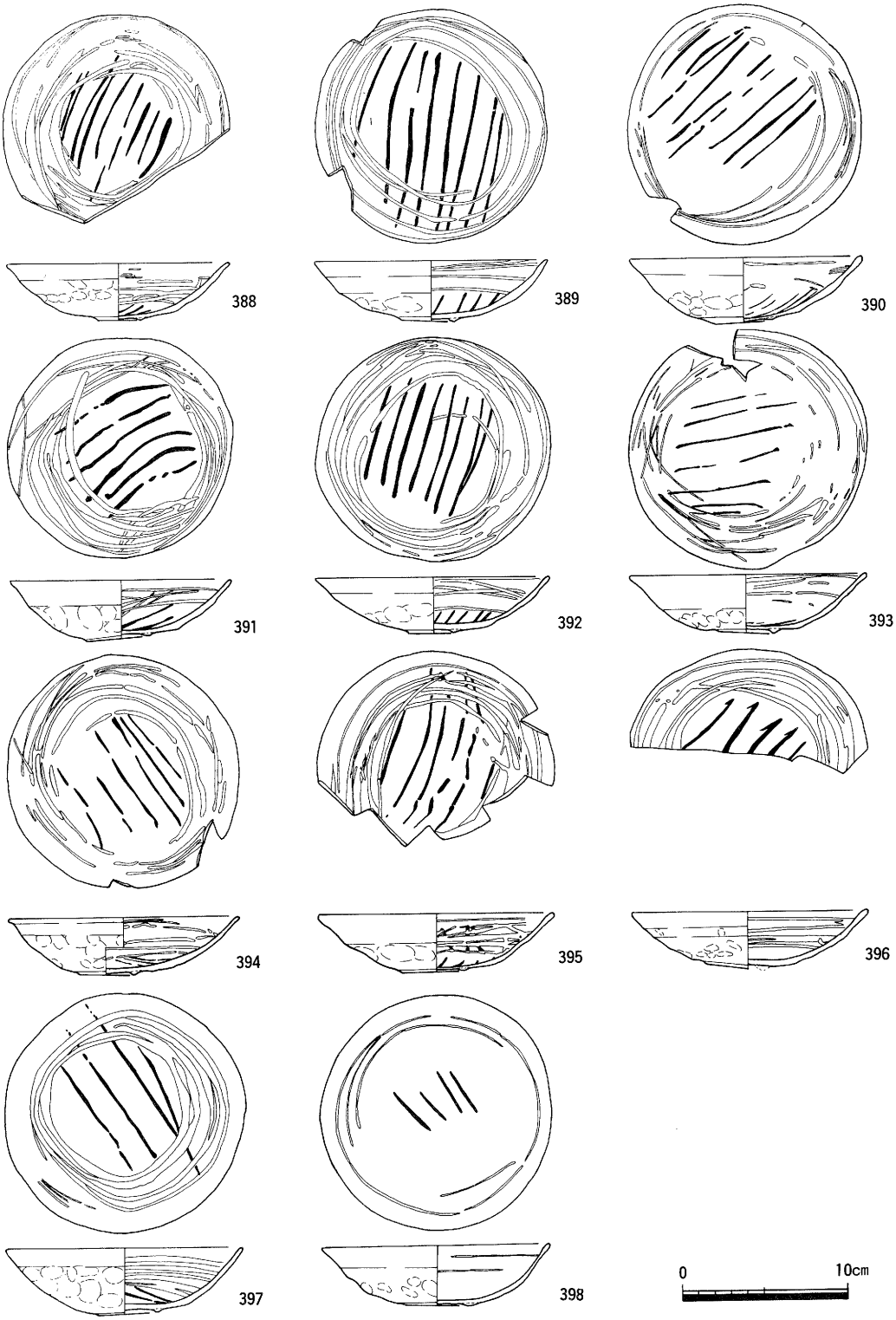
第47図　SD−14出土遺物実測図2



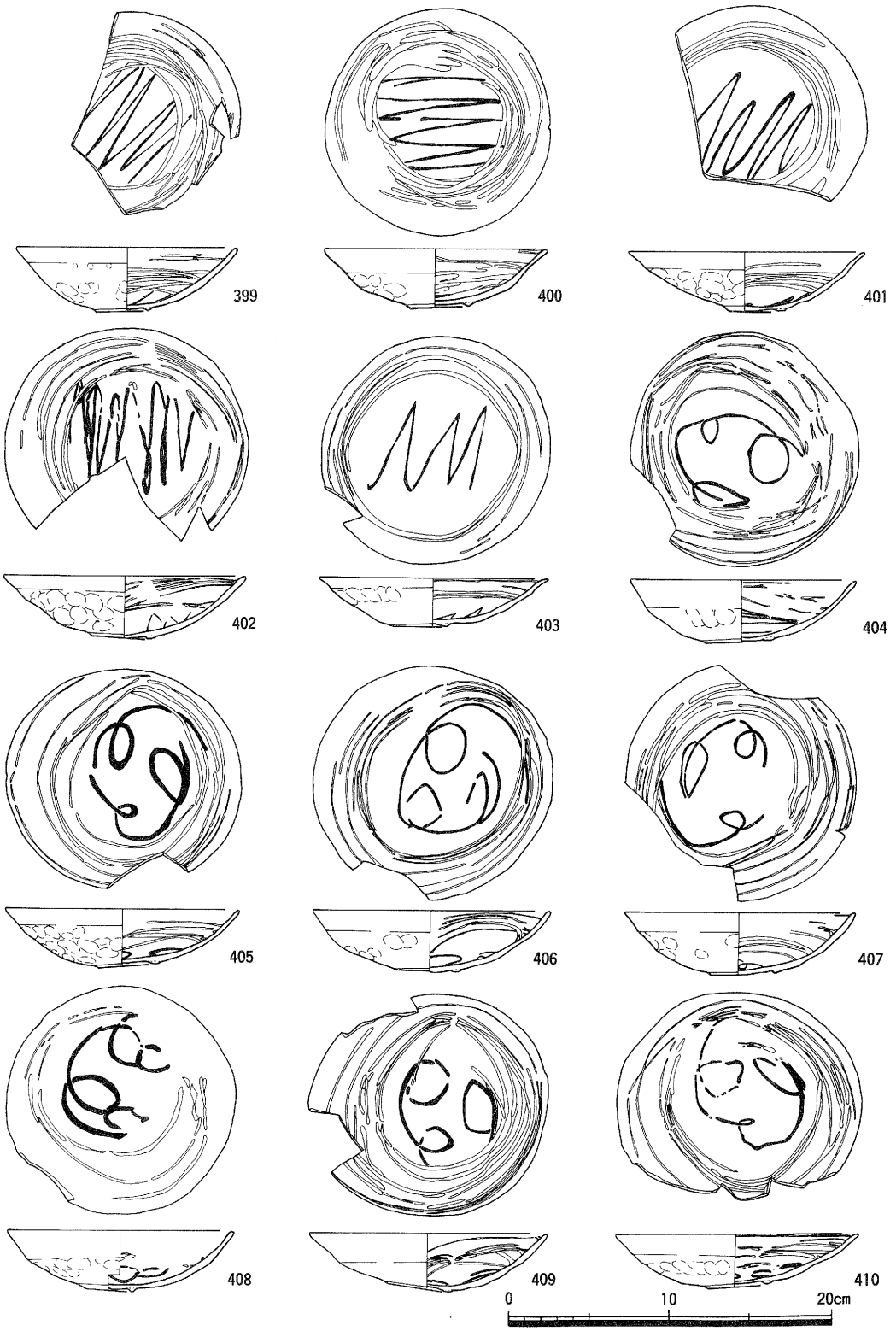
第48図　SD−14出土遺物実測図3



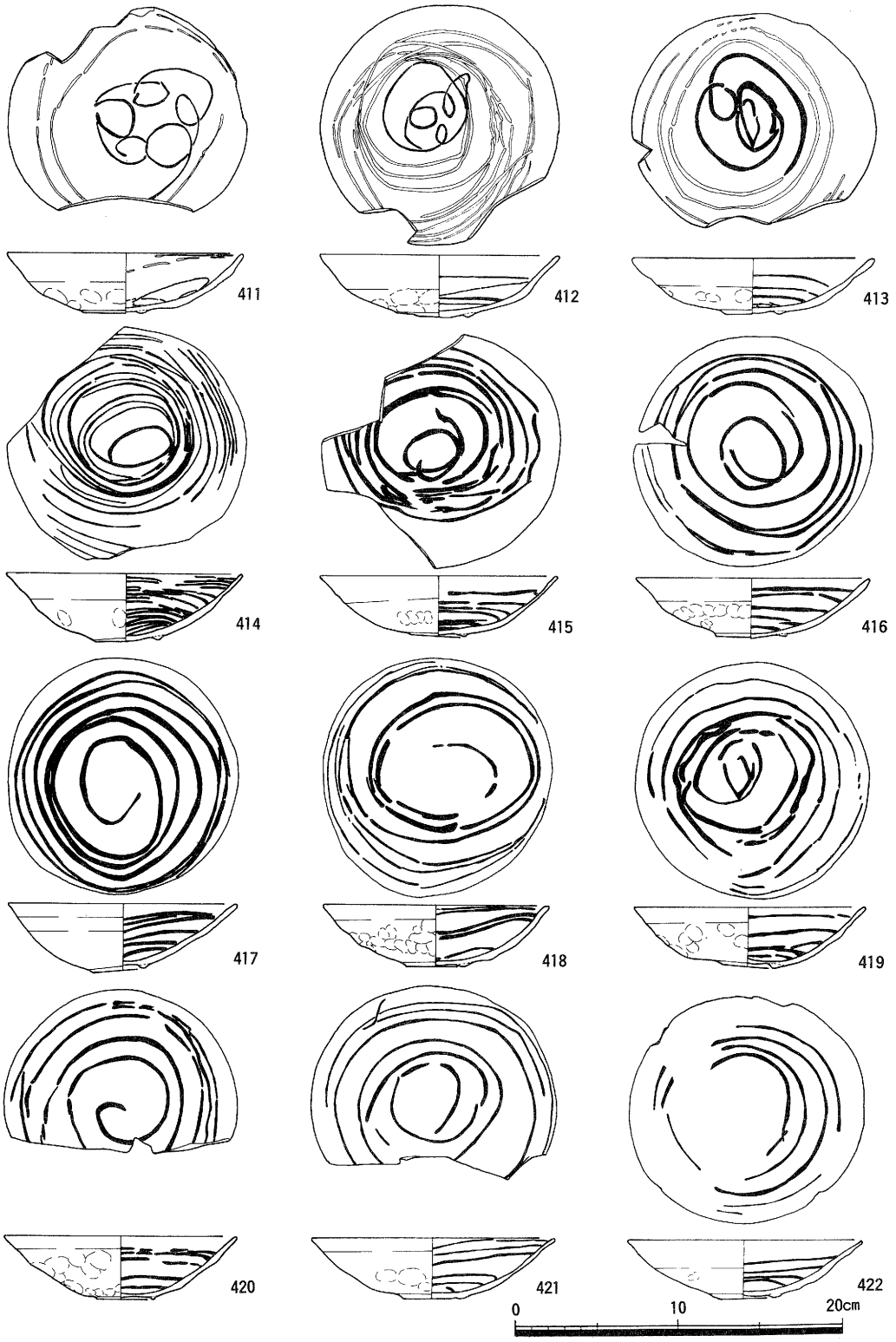
第49図　SD－14出土遺物実測図



第50図　SD−14出土遺物実測図5



第51図　SD−14出土遺物実測図6



第52図　SD－14出土遺物実測図7

60（66％）・連結輪状14（15.5％）・渦巻状11（12％）・ジグザグ状６（ 6.5％）の比率になる。

また、見込みのヘラミガキ様と器形の数値の関係（但し、掲載したものに限定）では、平均値を取ったところ、平行線状が口経14.0cm・器高3.7cm、連結輪状が口経14.2cm・器高3.6cm・渦巻状が口経14.0cm・器高3.8cm、ジグザグ状が口経14.0cm・器高3.7cmでほぼ近似値を示した。なお、胎土については、実体鏡（倍率30倍）を使用して観察した結果、渦巻状のタイプの一部に黒灰色の砂粒が大量に含まれていたが、他のタイプでは大差は認められなかった。八尾市域編年のⅢ－３期を指標とした一群で、土師器小皿７類の平安京内の編年から見て、13世紀中葉～後葉の一時期に比定されよう。

ＳＤ－15

北北東－南南西に伸びる。幅0.4ｍ・深さ0.12ｍを測る。内部堆積土層は淡灰色砂質土一層である。遺物は出土しなかった。

ＳＤ－16

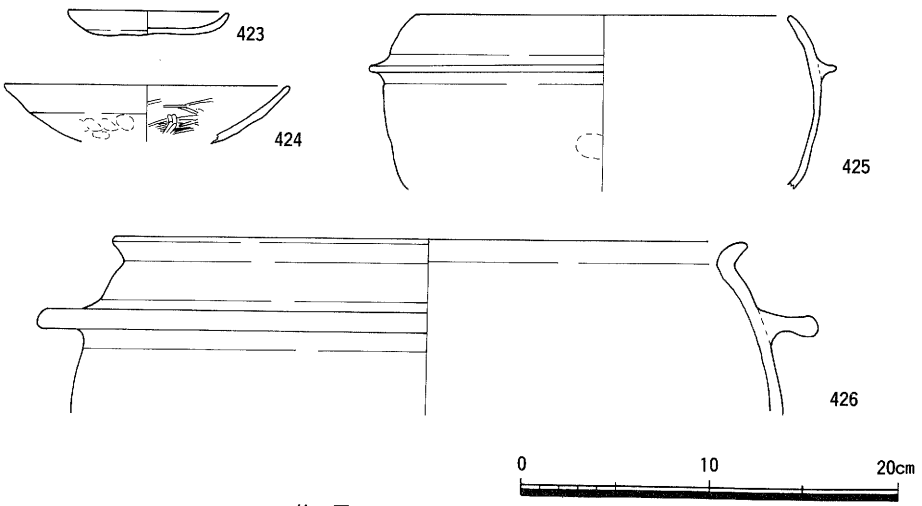
北北東－南南西に伸びるもので、ＳＤ－17の一部を切っている。幅1.0ｍ・深さ0.12ｍを測る。内部堆積土層は淡灰色砂質土一層である。遺物は出土しなかった。

ＳＤ－17

北北東－南南西に伸びるもので、ＳＤ－16に一部切られている。幅0.5ｍ・深さ0.09ｍを測る。内部堆積土層は淡灰色砂質土一層である。遺物は出土しなかった。

ＳＤ－18

北北東－南南西に伸びる。幅1.12ｍ・深さ0.11ｍを測る。内部堆積土層は淡灰色砂質土一層である。遺物は出土しなかった。



第53図　SP－16出土遺物実測図

小穴（ＳＰ）

掘立柱建物を構成する柱穴を含めて、総数で 102個の小穴（ＳＰ－１～ＳＰ－ 102）を検出した。掘形の形状は、円形・楕円形・不定形を呈し、幅0.1～1.18ｍ・深さ0.06～0.46ｍを測る。なお、ＳＰ－ 102では根石を確認している。遺物が出土した小穴は、ＳＰ－16・ＳＰ－43・ＳＰ－48・ＳＰ－56・ＳＰ－65・ＳＰ－68・ＳＰ－69である。そのうち、図示できたものはＳＰ－16出土の４点（423～426）である。内訳は、土師器小皿（423）・瓦器椀（424）・瓦器足釜（425）・土師器土釜（426）である。遺物の特徴から13世紀代に比定されるものと考えられる。

２）包含層出土遺物

前述したように遺物包含層は第Ⅱ層・第Ⅲ層・第Ⅳ層の各層で、第Ⅱ層からは鎌倉時代末期から近世、第Ⅲ層からは弥生時代後期から鎌倉時代末期、第Ⅳ層からは弥生時代後期に比定される遺物が出土した。遺構内出土の遺物を含めた総出土量（コンテナ約30箱）の割合で見れば包含層の出土量は約７割程度を占める。さらに、包含層内で区別すれば第Ⅱ層が約３割、第Ⅲ層が約６割、第Ⅳ層が約１割を占める。数量的にみれば、第Ⅲ層から出土した遺物が大半を占める。ただ、前述したように第Ⅲ層は鎌倉時代末期頃の整地層と推定される土層で、出土した遺物はほとんどが小破片であり、出土量の割には図示でき得た遺物は少ない。一方、第Ⅳ層からは弥生時代後期に比定される良好な遺物が西部一帯から出土したが、第Ⅵ層に関しては河川の洪水に起因した土層であるため二次堆積の可能性を含んでいる。

図示した遺物は77点（427～503）である。弥生土器は27点（427～453）図示した。すべて、弥生時代後期（畿内第Ⅴ様式）に比定されるものである。内訳は、壺（427～435）・甕（436～438）・鉢（439）・底部有孔土器（440）・高杯（441～447）・器台（448～ 453）である。（454）は石包丁で、石材は緑泥片岩である。

須恵器は杯身３点を図示した。（455～456）は古墳時代後期、（457）は奈良時代のものかと推定される。（458）は円筒埴輪で外面は断続的なヨコハケを施している。（459）は管状式の土錘である。

瓦器椀は９点（460～468）を図示した。見込みのヘラミガキ模様で区別すれば、平行線状（460～462）・渦巻状（463～467）・連結輪状（468）に区別できる。八尾市域編年のⅢ－３期（460～467）・Ⅳ－１期（468）に当たる。（469）は瓦器小皿で見込みに格子状ヘラミガキが施文されている。

白磁碗（470・471）はともに玉縁口縁を呈するもので、横田・森田分類の白磁碗Ⅳ類に当る。（472）は白磁碗であるが、型式は明確でない。（473）は緑釉陶器で、高台の内側に沈線状の窪みがある。

土師器小皿は14点（474～478）を図示した。口縁部が上方へ立ち上がり口縁端部が丸味をもって終るもの(474・475)、口縁部が上方へ立ち上がり口縁端部が尖り気味で終るもの(476～480)、口縁部が斜上方へ立ち上がるもの（481～485)、ほぼ水平な底部から口縁部が斜上方へ立ち上がるもの（486・487）がある。土師器中皿は14点（488～501）を図示した。丸底の底部から口縁部が斜上方へ立ち上がるもの（488)、口縁部が上方へ立ち上がるもの（489)、水平な底部から口縁部が斜上方へ立ち上がるもの（490～492)、強いヨコナデにより口縁端部付近が外反するもの（493・494)、口縁部が斜上方へ立ち上がった後、わずかに内湾するもの（495～ 498)、口縁部が斜上方へ外反気味に立ち上がった後、口縁端部は上方へつまみ上げるもの（499～501）がある。

屋瓦は２点図示した。(502）は蓮華文軒丸瓦で、八尾市宮町の穴太廃寺出土の瓦[註3]に同意匠のものがある。(503）は唐草文軒平瓦である。

註記

註１（財)八尾市文化財調査研究会 『木の本遺跡』(財）八尾市文化財調査研究会報告４ 1984

註２（財)八尾市文化財調査研究会 『小阪合遺跡』—昭和59年度 第４次調査報告書— (財)八尾市文化財調査研究会報告15 1988

註３（財)八尾市文化財調査研究会 「第１章宮町遺跡発掘調査概要報告」 『八尾市埋蔵文化財発掘調査概要 昭和56・57年度』(財)八尾市文化財調査研究会報告３ 1983

参考文献

宇野隆夫1982「井戸考」『史林』 第65巻第５号

横田覧次郎・森田勉 「大宰府出土の輸入陶磁器について—型式分類と編年を中心として」 『九州歴史資料館研究論集４』 1978

広島県草戸千軒町遺跡調査研究所 「草戸千軒町遺跡」 No．9

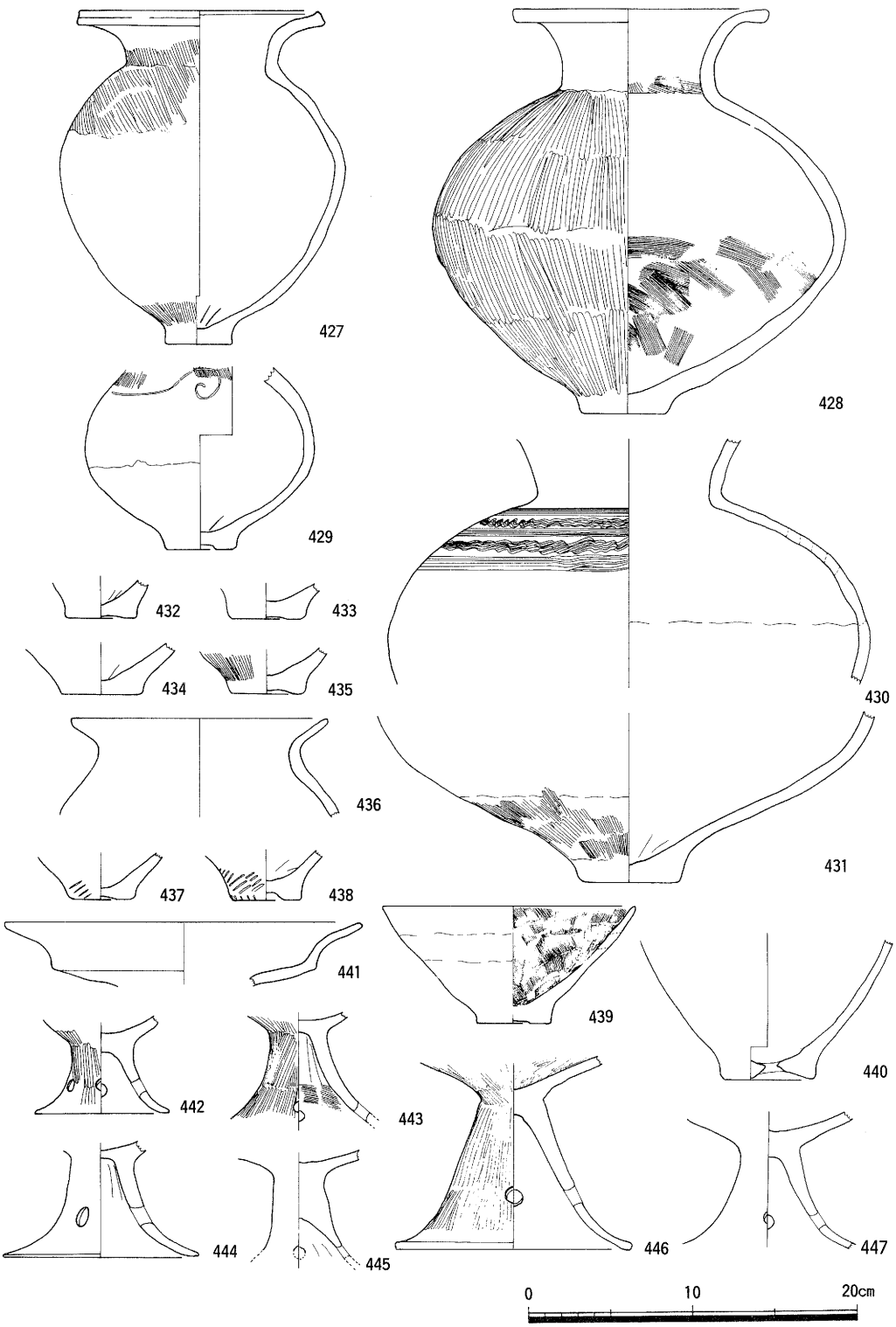
広島県草戸千軒町遺跡調査研究所 「草戸千軒」 No.35・No.111

大村敬通、水口富夫 『魚住古窯跡群』 兵庫県文化財調査報告書19冊 (財）兵庫県文化協会 1983．３

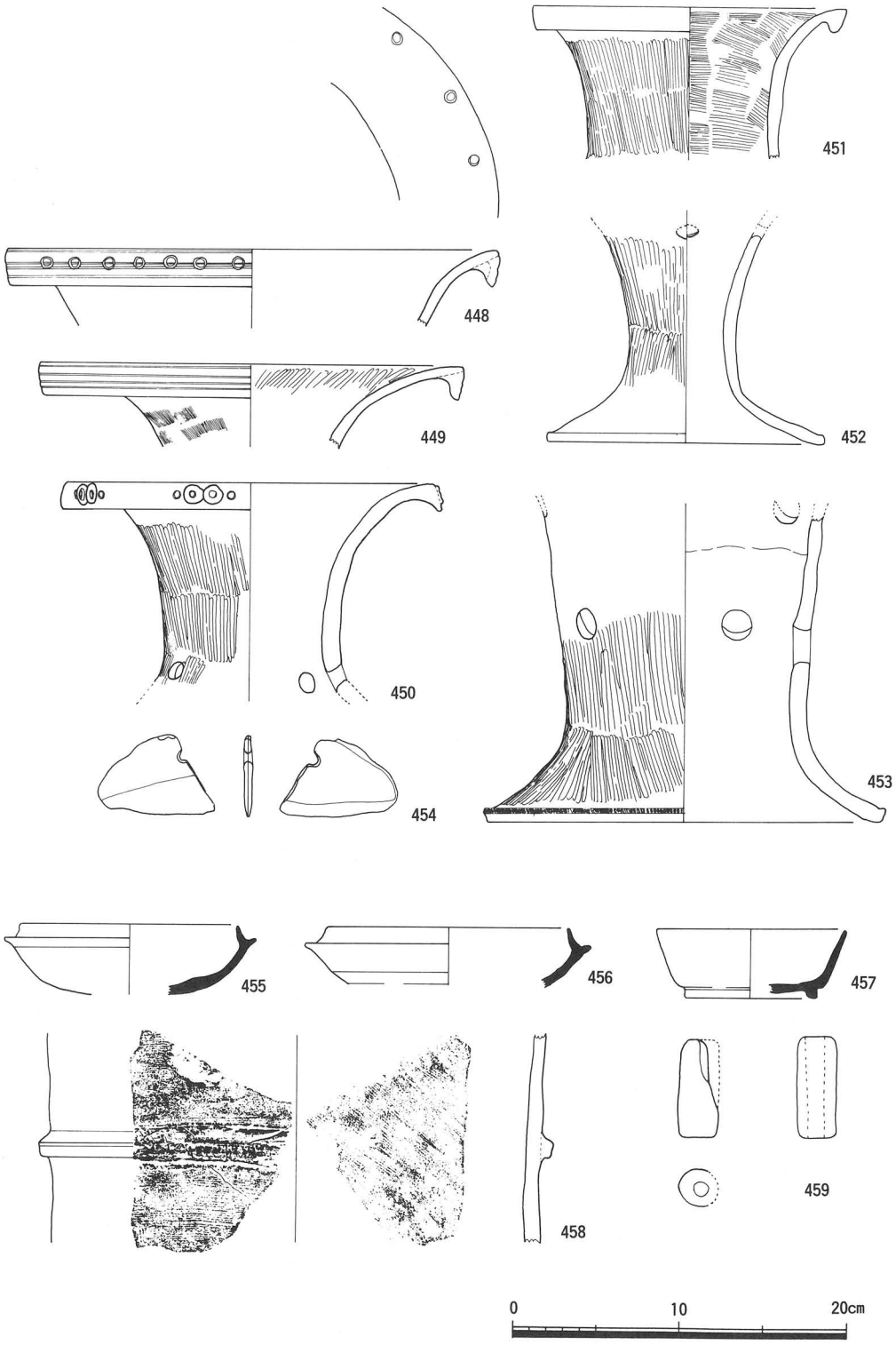
明石市教育委員会・平安博物館 『魚住古窯跡群発掘調査報告書』 1985

菅原正明 「畿内における土釜の製作と流通」『文化財論叢』 奈良国立文化財研究所創立30周年記念論文集 1982．12

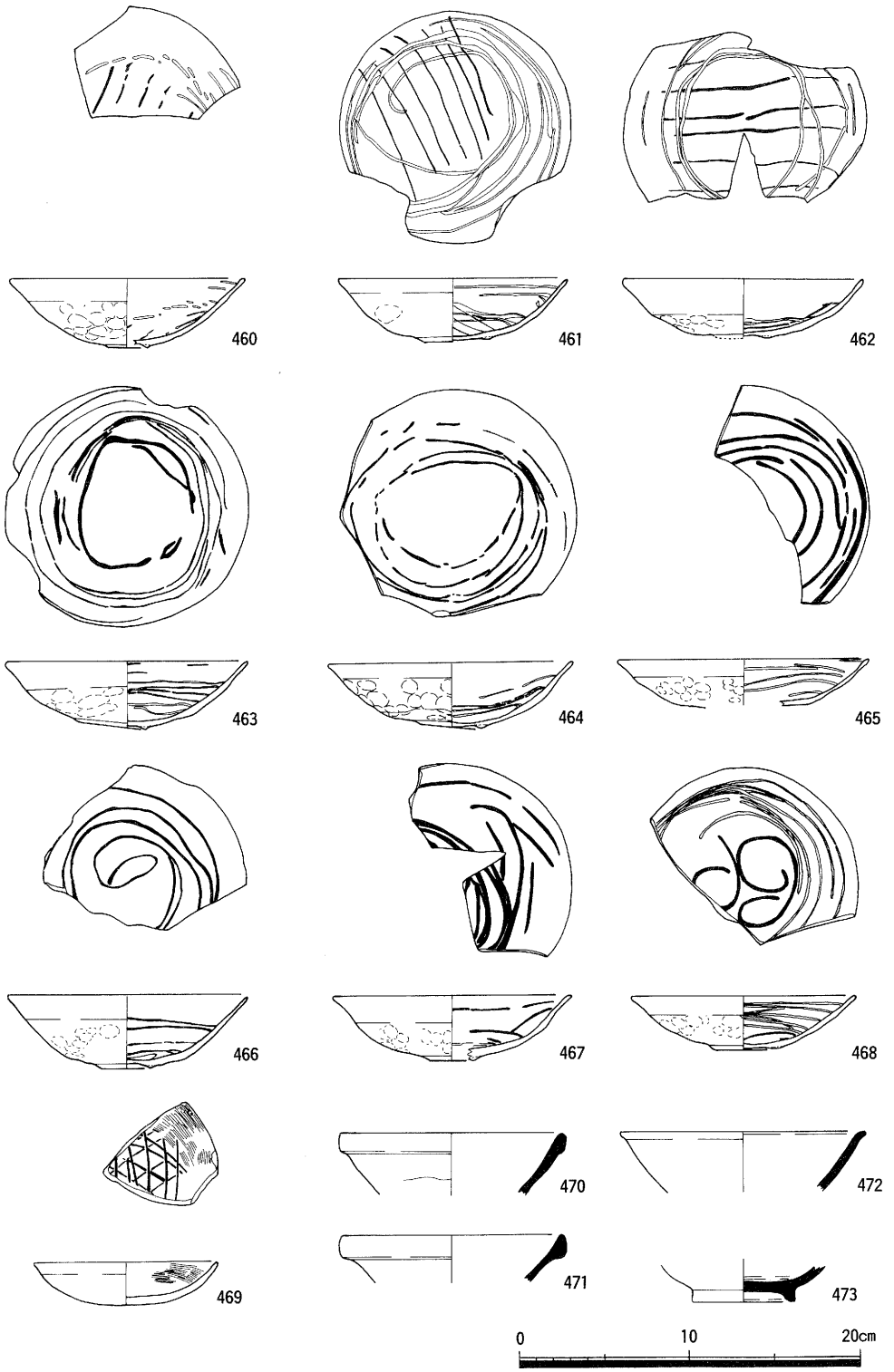
（財）八尾市文化財調査研究会 「Ｉ 萱振Ａ遺跡（第１次調査)」『八尾市埋蔵文化財発掘調査概要 昭和61年度』(財）八尾市文化財調査研究会報告13 1987



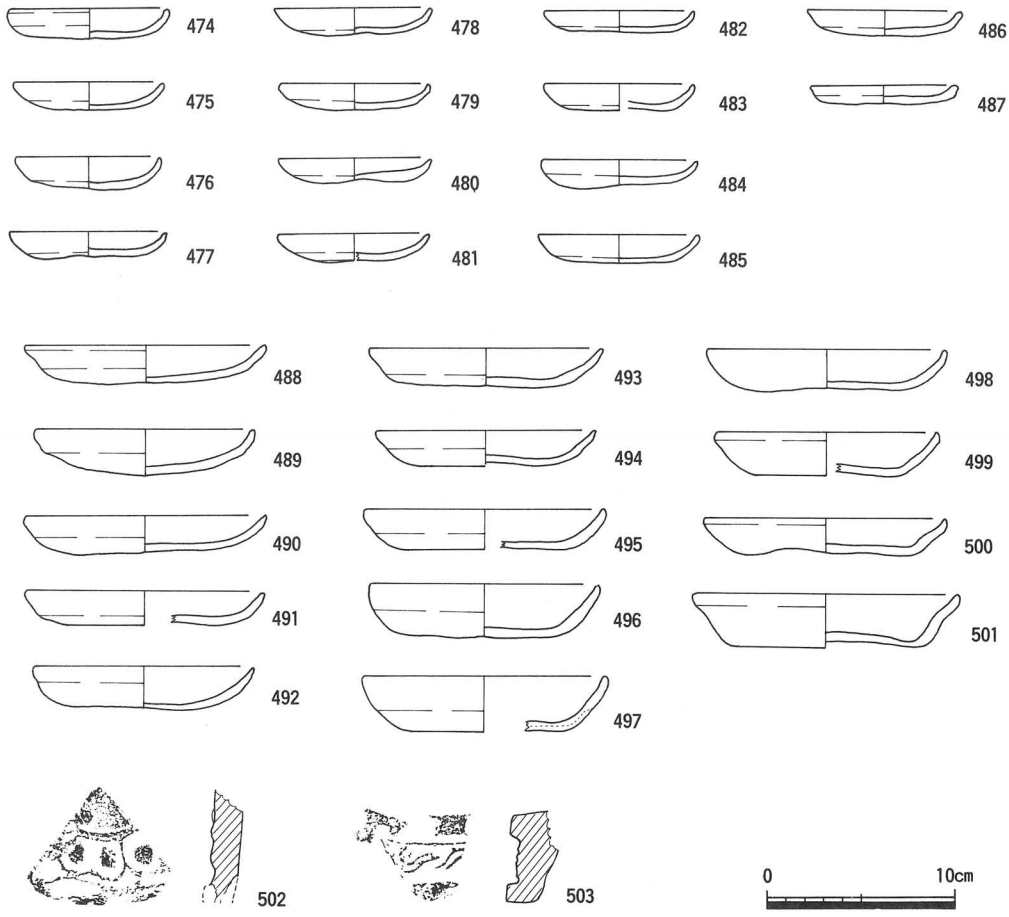
第54図 包含層出土遺物実測図 1



第55図 包含層出土遺物実測図 2



第56図 包含層出土遺物実測図 3



第57図 包含層出土遺物実測図 4

第４章　出土遺物観察表

ＳＥ－１

遺物番号 図版番号	器　種	(cm)　口径 法量　器高	成　形　・　調　整　技　法	色　調	胎　土	焼　成	備　考 遺存率
1	土師器 小皿	7.0 －	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	乳灰色	密	良好	1/6
2	土師器 小皿	8.4 －	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰茶色	密	良好	1/4
3 二一	土師器 小皿	8.1 1.2	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。内面のヨコナデは時計回り。底部内面ナデ。底部外面指頭圧痕遺存。	乳灰色	密	良好	1/2
4	土師器 小皿	8.6 1.3	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡茶色～黄茶色	密	良好	1/4
5	土師器 小皿	7.8 －	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部外面指頭圧痕遺存。	淡灰色	密	良好	1/4
6 二一	土師器 小皿	8.4 1.2	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	乳灰色	密	良好	1/4
7	土師器 小皿	7.7 1.2	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰黄色	密	良好	1/6
8	土師器 小皿	8.8 －	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰色	密	良好	第２層 1/6
9 二一	土師器 小皿	8.9 1.9	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面未調整。	淡茶色	精良	良好	第１層 1/2
10	土師器 小皿	7.8 －	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	乳灰色	密	良好	内面に灯心油痕あり 1/4
11	土師器 小皿	10.2 －	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡茶色	精良	良好	第２層 1/4
12	土師器 中皿	13.1 －	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。	淡灰色～暗灰色	密	良好	第２層 1/6

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存率
13	瓦器 椀	13.5 －	口縁部外面数条の細いヘラミガキ。体部外面ナデ。体部内面密なヘラミガキ。見込み格子状ヘラミガキ。	淡灰色～灰色	やや粗	良好	第２層 1/6
14	瓦器 椀	14.6 －	口縁部外面数条の細いヘラミガキ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面密なヘラミガキ。見込み単位の細い格子状ヘラミガキ。	淡灰色～黒灰色	やや粗	良好	第２層 1/6
15	瓦器 椀	16.5 4.7 高台径 3.2 高台高 0.3	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧成形後ナデ。体部内面粗いヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台周辺ヨコナデ。	灰色	密	良好	第２層 1/3
16	瓦器 椀	15.7 －	口縁部外面強いヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面一部ヘラミガキ。	黒灰色	やや粗	良好	第２層 1/6
17	瓦器 椀	－ － 高台径 4.4 高台高 0.3	底部内面ナデにより平滑にした後、一単位の大きい格子状ヘラミガキ。高台周辺ヨコナデ。	灰色	やや粗	良好	第２層
18 二一	須恵器 甕	18.3 －	マキアゲ成形。口縁部内面回転ナデ。口縁部外面および体部外面左上がりのタタキの後回転ナデ。体部内面ヨコナデ。	灰色	やや粗 長石(0.5～1㎜) チャート(1㎜)	堅緻	第２層 東播系 1/4
19	須恵器 鉢	29.5 －	マキアゲ・ミズビキ成形。口縁部内外面回転ナデ。	淡灰色～灰色	やや粗 長石 (0.1～0.5㎜) 多量に含む	堅緻	第１層 東播系 1/12
20 二一	土師器 土釜	29.6 － 鍔径 36.1	マキアゲ成形。口縁部内外面および鍔部ヨコナデ。他はナデ。	内面 淡茶色 外面 灰茶色	粗 長石・チャート (0.1～3㎜) 多量に含む	良好	第２層 外面煤付着 1/8
21 二一	土師器 土釜	28.8 － 鍔径 38.1	マキアゲ成形。口縁部内外面および鍔部土面ヨコナデ。他はナデ。	内面 乳白色 外面 茶赤色	粗 長石 (0.1～2㎜) 多量に含む	良好	第１層 鍔部以下 煤付着 1/8
22 二一	白磁 碗	18.4 －	ロクロ成形。内面ロクロナデ。外面カンナ削り。体部内面上位に浅い沈線。	磁胎 白色 釉 乳白色	緻密	堅緻	第２層 1/6

ＳＥ－２

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存率
23	土師器 小皿	11.2 －	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰黄色	密	良好	1/6
24	土師器 小皿	10.2 －	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰色	密	良好	1/6
25	土師器 小皿	8.1 1.0	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面指頭圧痕遺存。	淡灰黄色～淡茶色	密	良好	完形

遺物番号 図版番号	器　種	(cm)　口径 法量　器高	成　形　・　調　整　技　法	色　調	胎　土	焼　成	備　考 遺存率
26	土師器 小皿	8.4 1.1	手づくね成形。全体に風化しており調整不明。	淡茶色	密	やや軟質	 ¼
27	瓦器 小皿	10.3 －	手づくね成形。口縁部内外面および底部内面密なヘラミガキ。	灰色～黒灰色	やや粗	良好	 ¼
28	瓦器 椀	－ － 高台径 4.1 高台高 0.2	体部内面粗いヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。体部外面指頭圧痕遺存。高台周辺ヨコナデ。	淡灰～灰色	やや粗 長石 (0.1mm) を多量に含む	良好	 ¼
29 二一	土師器 土釜	30.9 － 鍔径　41.7	マキアゲ成形。口縁部内外面および鍔部裏面ヨコナデ。体部内面ナデ。	乳灰色～灰茶色	粗 石英(0.5mm) 長石(0.1～2mm) チャート(2mm) を多量に含む	良好	第1層 ½
30 二一	土師器 土釜	28.5 － 鍔径　41.0	マキアゲ成形。口縁部内外面および鍔部裏面までヨコナデ。他はナデ。	淡茶色	粗 長石 (0.1～4mm) を散見する	良好	井戸側 鍔部以下 煤付着

SE－3

遺物番号 図版番号	器　種	(cm)　口径 法量　器高	成　形　・　調　整　技　法	色　調	胎　土	焼　成	備　考 遺存率
31	土師器 小皿	8.8 1.5	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡茶色	密	良好	第1層 ¼
32	土師器 小皿	9.1 1.4	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰色	密	良好	第1層 ¼
33	土師器 小皿	10.0 1.4	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面指頭圧痕遺存。	淡灰黄色	精良	良好	井戸枠内 ⅙
34	土師器 小皿	10.7 －	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。	淡灰色	密	良好	井戸枠内 ⅙
35	瓦器 小皿	8.6 －	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面指頭圧痕遺存。	淡灰色～灰色	やや粗	良好	第2層 ¼
36	瓦器 小皿	11.1 －	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部外面指頭圧痕遺存。見込み平行線状ヘラミガキ。	灰色	やや粗	良好	第1層 ⅙
37	瓦器 椀	15.8 －	体部外面および口縁部ヘラミガキ。体部内面単位幅の細いヘラミガキ。	灰色～黒灰色	やや粗	良好	第2層 大和型 ⅙
38	瓦器 椀	－ － 高台径 4.5 高台高 0.5	体部外面および底部外面ナデ。高台部周辺ナデ。見込み平行線状ヘラミガキ。	灰色～暗灰色	やや粗	良好	第2層 ½

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存率
39	瓦器 椀	－ － 高台径 5.8 高台高 0.4	体部外面および底部外面ナデ。高台部周辺ナデ。見込み格子状ヘラミガキ。	淡灰～暗灰色	やや粗	良好	第1層 1/2
40 二一	瓦器 椀	14.1 5.0 高台径 4.1 高台高 0.4	口縁部外面粗いヘラミガキ。体部外面指頭痕遺存。高台部周辺ナデ。体部内面密なヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。	灰色	やや粗	良好	第1層 1/4
41	須恵器 甕	29.0 －	マキアゲ成形。口縁部内外面および頸部内面ヨコナデ。頸部外面右上がりのタタキの後ヨコナデ。	灰青色	やや粗 長石 (0.1mm) を含む	堅緻	第1層 東播系 1/10
42	須恵器 鉢	24.6 －	マキアゲ・ミズビキ成形。口縁部内外面および体部内外面ヨコナデ。口縁部外面重ね焼痕。	灰青色	やや粗 長石・石英 (0.1mm) を含む	堅緻	井戸枠内 東播系 1/8
43	須恵器 鉢	27.4 －	マキアゲ・ミズビキ成形。口縁部内外面および体部内外面回転ナデ。口縁部重ね焼痕。	淡灰色 口縁部 灰青色	やや粗 長石・石英 (0.1～1mm) を含む	堅緻	第1層 東播系 1/6
44 二一	須恵器 鉢	24.8 －	マキアゲ・ミズビキ成形。口縁部内外面および体部内外面回転ナデ。口縁部重ね焼痕。	淡灰色 口縁部 灰青色	やや粗 長石・石英 (0.1～2mm) を含む	堅緻	第1層 東播系 1/12
45	土師器 土釜	28.5 － 鍔径 33.5	マキアゲ成形。口縁部内外面および鍔部ヨコナデ。体部内面ヘラケズリの後ナデ。	淡茶色	やや粗 長石・チャート (0.1～1mm) を含む	良好	第1層 1/4

SE－4

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存率
46	土師器 小皿	8.7 －	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰色	精良	良好	第2層 1/4
47	土師器 小皿	8.8 －	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡茶色	密	良好	第2層 1/4
48	瓦器 椀	14.8 5.7 高台径 6.0 高台高 0.6	体部外面密なヘラミガキ。体部内面全面にわたる密なヘラミガキ。見込み格子状ヘラミガキ。高台部周辺ナデ。	淡灰～黒灰	やや粗	良好	第2層 1/4
49	瓦器 椀	－ － 高台径 4.8 高台高 0.2	体部外面指頭圧痕遺存。体部内面粗いヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。	淡灰～黒灰	やや粗	良好	第2層 1/2
50	須恵器 鉢	27.4 －	マキアゲ・ミズビキ成形。口縁部内外面および体部内外面回転ナデ。口縁部外面重ね焼痕。	灰色 口縁部 黒灰色	やや粗 長石 (0.1～2mm)	堅緻	第2層 東播系 1/6

ＳＥ－７

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存率
51 二二	土師器 小皿	8.1 1.3	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	乳灰色	密	良好	第２層 ほぼ完形
52	土師器 小皿	8.2 －	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	乳灰色	やや粗	良好	第２層 1/3
53 二二	土師器 中皿	11.2 2.1	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。	淡灰茶色	やや粗 長石・クサリ 礫を含む	良好	第２層 ほぼ完形
54 二二	土師器 中皿	12.0 2.0	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。底部外面と体部の境に粘土のつなぎ目遺存。	乳灰色	やや粗 長石・雲母 を含む	良好	第２層 1/2
55	土師器 中皿	16.5 －	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	乳白色	密 クサリ礫を 含む	良好	第２層 1/4
56	土師器 中皿	16.4 －	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡茶色	密	良好	第２層 1/6
57 二二	瓦器 椀	13.8 5.0 高台径 4.2 高台高 0.4	口縁部外面ヨコナデの後、数条のヘラミガキ。体部外面指頭成形後ナデ。体部内面密なヘラミガキ。見込み格子状ヘラミガキ。	淡灰～黒灰色	密	良好	第２層 1/4
58	瓦器 椀	13.0 3.5 高台径 2.9 高台高 0.3	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。見込みから体部内面にかけて、連結輪状を施す。高台は粘土紐を押えつけて貼つけたもので、高台周辺は弱いナデを行う。	乳白～黒灰色	やや粗 長石・チャート (0.1～1㎜) を含む	良好	第２層 1/2以上
59	瓦器 椀	－ － 高台径 5.6 高台高 0.4	高台周辺ナデ。見込み平行線状ヘラミガキ。底部外面ナデ。	淡灰～灰青色	密	良好	第２層 1/2
60	瓦器 小皿	8.9 －	手づくね成形。口縁部外面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ。底部外面ナデ。見込み平行線状ヘラミガキ。	灰青色	やや粗	良好	第２層 1/4
61	須恵器 甕	33.7 －	マキアゲ成形。口縁部内外面回転ナデ。頸部外面右上がりのタタキの後一部ナデ。	黒灰色	やや粗	やや軟質	第２層 1/4
62	平瓦	－ －	表面模骨痕遺存。裏面縄目タタキ。表面裏面に、はなれ砂遺存。	淡灰色	やや粗 長石・石英 チャートを 多量に含む	良好	第２層
63 二二	平瓦	－ －	表面一部布目痕遺存。端面はヘラケズリによる面取り。裏面縄目タタキ。	淡灰～灰青色	やや粗 長石・石英 チャートを 若干含む	良好	第２層
64 二二	丸瓦	－ －	表面縄目タタキの後ナデ。裏面密な布目痕遺存。	淡灰～灰青色	やや粗 長石 (0.1㎜) を多量に含む	良好	第２層

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存率
65 二二	下駄	長さ 22.8 台幅 10.9 高さ 7.4	台部の平面形状が長円形、断面が舟底形を呈する。差歯下駄。露卯構造。 緒孔—前緒孔1.1cm・後緒孔1.9cm。	—	—	—	第2層 完形
66 二二	毬	長径 4.8 短径 4.6	丸木の両端を切断後、ノミで面取り。	—	—	—	第2層 完形

SE－8

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存率
67 二三	瓦器 椀	13.9 4.1 高台径 3.2 高台高 0.3	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面および見込みナデ。体部内面粗いヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺ナデ。	淡灰色～黒灰色	やや粗	良好	第1層 外面重ね焼痕 ほぼ完形
68	瓦器 椀	14.2 4.3 高台径 4.0 高台高 0.3	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面および見込みナデ。体部内面粗いヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺ナデ。体部外面粘土結合痕。	淡灰色～黒灰色	やや粗	良好	第1層 ½
69 二三	瓦器 椀	14.7 4.3 高台径 3.2 高台高 0.3	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面および見込みナデ。体部内面粗いヘラミガキ。見込みはやや太め工具によるヘラミガキ。高台部周辺ナデ。	淡灰色～灰色	やや粗	良好	第1層 外面に 重ね焼痕 ほぼ完形
70 二三	瓦器 椀	14.2 4.1 高台径 3.3 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ、体部外面指頭圧痕遺存。体部内面および見込みナデ。見込み平行線状ヘラミガキの後、体部内面粗いヘラミガキ。高台周辺弱いナデ。	灰色～黒灰色	やや粗	良好	井戸側内 内外面に 油煙あり ½
71 二三	瓦器 椀	13.6 3.6 高台径 3.8 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面および見込みナデ。体部内面粗いヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台周辺弱いナデ。	灰色～黒灰色	やや粗	良好	井戸側面 外面に重ね 焼痕 完形
72 二三	瓦器 椀	13.3 3.7 高台径 3.6 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面および見込みナデ。体部内面粗いヘラミガキ。見込みは細めの工具によるヘラミガキ。高台部周辺弱いナデ。	淡灰色～黒灰色	やや粗	良好	井戸側内 外面に重ね 焼痕 完形
73	瓦器 椀	14.2 3.3 高台径 3.9 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面および見込みナデ。体部内面粗いヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺ナデ。	灰色～灰青色	やや粗	良好	井戸側内 外面に重ね 焼痕 ½
74 二三	瓦器 椀	14.0 4.3 高台径 3.3 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面および見込みナデ。見込みから体部内面にかけて渦巻状ヘラミガキ。高台部周辺弱いナデ。	乳灰色～黒灰色	やや粗	良好	井戸側内 内外面に 重ね焼痕 完形
75 二三	土師器 小皿	8.3 1.4	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	乳灰色	密	良好	第1層 ½

SE－9

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存率
76 二四	瓦器 小椀	8.3 3.0 高台径 3.2 高台高 0.6	口縁部外面ヨコナデ。体部外面密なヘラミガキ。体部内面乱方向のヘラミガキ。高台周辺ナデ。	乳灰色	やや粗 長石 (2mm) を散見する	良好	第2層 内外面炭素 不着不良 ⅓

SE－10

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存率
77	土師器 小皿	10.4 －	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡茶色	密	良好	1/6
78	土師器 小皿	8.7 －	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	乳灰色	やや粗 クサリ礫を 多量に含む	良好	1/6
79	土師器 小皿	9.6 －	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡茶色	やや粗 クサリ礫を 散見する	良好	内面 灯心油痕 1/6
80	瓦器 椀	15.4 －	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上半にヘラミガキ。内面体部密なヘラミガキ。	暗灰色	やや粗	良好	1/6
81	瓦器 椀	14.2 －	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面密なヘラミガキ。	暗灰色	やや粗	良好	1/6
82	瓦器 椀	14.2 －	口縁・体部内外面密なヘラミガキ。	暗灰色	やや粗	良好	大和型 1/6
83	瓦器 椀	11.4 －	体部外面ヘラミガキ。体部内面乱方向の密なヘラミガキ。	灰色	やや粗	良好	1/8
84	瓦器 椀	16.1 5.0 高台径 6.2 高台高 0.6	体部外面分割を意識したヘラミガキ。体部内面密なヘラミガキ。見込み平行方向のヘラミガキ。高台部周辺ナデ。	黒灰色	やや粗	良好	1/4
85	瓦器 椀	－ － 高台径 5.6 高台高 0.6	体部外面粗いヘラミガキ。体部内面密なヘラミガキ。見込み格子状ヘラミガキ。高台部周辺ナデ。	灰色	やや粗	良好	1/4
86	瓦器 椀	－ － 高台径 5.5 高台高 0.6	体部外面ナデ。見込み平行線状＋格子状ヘラミガキ。高台は楕円形を呈する。高台部周辺ナデ。	灰色	やや粗	良好	高台部完存
87	白磁 碗	－ － 高台径 6.5 高台高 0.6	ロクロ成形。内面ロクロナデ。外面カンナ削り。高台は低く、裏面の削り出しはわずかである。体部外面下半以下露胎。	磁胎 白色 釉 乳白色	緻密	堅緻	高台部完存

SE－11

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存率
88	土師器 小皿	7.4 －	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	乳白色	密	良好	第3層 1/12
89	土師器 小皿	6.0 －	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡茶色	密	良好	第3層 1/4

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存率
90	土師器 小皿	8.4 —	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡茶灰色	密	良好	第3層 1/6
91	土師器 中皿	12.4 —	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡茶色	やや粗	良好	第3層 1/6
92	土師器 中皿	16.4 —	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡茶色	やや粗	良好	第3層 1/6
93 二四	瓦器 椀	14.9 3.5 高台径 3.8 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面単位の太いヘラミガキ。見込み雑な平行線状ヘラミガキ。高台部周辺ナデ。	淡灰色～灰色	やや粗	良好	第3層 外面に重ね焼痕 完形
94	瓦器 椀	13.2 —	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面粗いヘラミガキ。	灰色	やや粗	良好	第7層 1/6
95	瓦器 椀	14.6 —	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。	青灰色	やや粗	良好	第3層 1/6
96	瓦器 椀	— — 高台径 5.6 高台高 0.4	体部外面指頭圧成形後弱いナデ。見込み格子状ヘラミガキ。高台部周辺ナデ。	淡灰色～灰色	やや粗	良好	第3層 1/2
97 二四	瓦器 小皿	8.0 1.6	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	灰色	やや粗	良好	第3層 ほぼ完形
98 二四	瓦器 小皿	9.7 2.1	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部外面弱いナデ。見込み平行線状ヘラミガキ。体部内面ヘラミガキ。	淡灰色	やや粗	良好	第3層 1/2以上
99 二四	土師器 土釜	31.8 — 鍔径 39.2	マキアゲ成形。口縁部内外面から鍔部裏面までヨコナデ。頸部内面板状工具によるケズリの後ナデ。	茶褐色	粗 長石・石英 (1～2㎜) を多量に含む	良好	第3層 1/6
100 二四	須恵器 甕	29.4 —	マキアゲ成形。口縁部内外面ヨコナデ。頸部内面ナデ。頸部外面右上がりのタタキの後弱いナデ。	黒灰色	やや粗	良好	第7層 1/4
101	白磁 碗	— — 高台径 5.7 高台高 0.8	ロクロ成形。内面ロクロナデ。外面カンナ削り。	磁胎 灰白色 釉 乳白色	緻密	堅緻	第3層 1/4

SE－12

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存率
102	土師器 小皿	8.4 1.2	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡茶色	やや粗 長石 (0.5㎜) を散見する	良好	1/2

遺物番号 図版番号	器　種	(cm)　口径 法量　器高	成　形　・　調　整　技　法	色　調	胎　土	焼　成	備　考 遺存率
103	土師器 小皿	8.9 1.4	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡茶色	密	良好	 ¼
104	土師器 小皿	10.2 1.5	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡茶色	密	良好	 ¼
105	土師器 小皿	10.0 1.1	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰色	やや粗 長石 (0.2~1㎜) を含む	良好	 ¼
106	土師器 中皿	14.9 －	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。	乳灰色	密	良好	 ⅙
107	土師器 中皿	14.5 2.4	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡茶色	やや粗 長石 (0.1~0.5㎜) を多量に含む	良好	 ¼
108	瓦器 椀	14.3 －	口縁部外面二段ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面単位幅の広いヘラミガキ。	灰色	密	良好	 ¼
109	瓦器 椀	14.2 －	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面単位幅の細いヘラミガキを圏線状に施す。	淡灰色	やや粗	良好	 ¼
110	瓦器 椀	－ － 高台径 5.5 高台高 0.5	高台部ナデ。見込み格子状ヘラミガキ。全体に風化。	淡灰色	密	良好	 ½

ＳＥ－13

遺物番号 図版番号	器　種	(cm)　口径 法量　器高	成　形　・　調　整　技　法	色　調	胎　土	焼　成	備　考 遺存率
111	土師器 小皿	8.0 1.7	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	乳灰色	密	良好	井戸側内 ¼
112	土師器 小皿	9.4 1.5	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡茶色	密	良好	井戸側内 ½
113	土師器 小皿	8.6 1.4	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面未調整。	淡茶色	密	良好	井戸側内 完形
114 二四	土師器 小皿	8.7 1.6	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面指頭痕遺存。	淡灰色	やや粗	良好	井戸側内 ½
115 二四	土師器 小皿	9.0 1.7	手づくね成形。口縁部内外面逆時計回りのヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡茶色	密	良好	井戸側内 完形

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存率
116 二四	土師器 小皿	10.4 1.3	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面指頭圧痕。粘土接合痕遺存。	淡灰色	密	良好	井戸側内 ¼
117	土師器 小皿	8.8 1.4	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。	淡茶色	やや粗 長石 (0.5～1㎜) を散見する	良好	井戸側内 ほぼ完形
118 二四	土師器 小皿	8.8 1.4	手づくね成形。口縁部内外面逆時計回りのヨコナデ。底部内外面ナデ。底部外面粘土結合痕遺存。	淡灰色	密	良好	井戸側内 ほぼ完形
119	土師器 小皿	8.5 1.4	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。	淡茶色	密	良好	井戸側内 ほぼ完形
120 二四	土師器 小皿	9.0 1.4	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。	淡茶色	精良	良好	井戸側内 完形
121 二四	土師器 小皿	8.3 1.6	手づくね成形。口縁部内外面逆時計回りのヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡茶色	密	良好	井戸側内 完形
122	土師器 小皿	10.2 1.1	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底面は一部に凹凸あり。底部内外面ナデ。	淡茶色	密	良好	井戸側内 ½
123	土師器 中皿	13.7 2.5	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。他はナデ。	淡茶色	密	良好	井戸側内 ⅙
124	土師器 中皿	14.9 3.1	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。外面未調整。	淡灰色	密	良好	井戸側内 ¼
125	土師器 小皿	13.9 2.3	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面未調整。	淡茶色	密	良好	井戸側内 ⅙
126	瓦器 椀	14.0 － － －	体部外面上半粗いヘラミガキ。体部内面密なヘラミガキ。見込み格子状ヘラミガキ。	淡灰色～黒灰色	やや粗	良好	井戸側内 ⅙
127	瓦器 椀	14.6 － － －	体部外面粗いヘラミガキ。体部内面密なヘラミガキ。	灰色	やや粗	良好	井戸側内 ¼
128	瓦器 椀	16.0 4.9 高台径 5.9 高台高 0.6	体部外面上位粗いヘラミガキ。他は弱いナデ。体部内面密なヘラミガキ。見込み単位の大きい格子状ヘラミガキ。高台部ヨコナデ。	灰色	やや粗	良好	井戸側内 内外面に 油煙 ¼
129	瓦器 椀	－ － 高台径 5.2 高台高 0.4	見込み格子状ヘラミガキ。高台部ヨコナデ。	灰色～黒灰色	やや粗	良好	井戸側内 ½

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存率
130	瓦器 椀	－ － － －	体部外面ナデ。高台部ヨコナデ。見込み格子状ヘラミガキ。	淡灰～暗灰色	やや粗	良好	井戸側内 ½
131	瓦器 椀	－ － 高台径 5.2 高台高 0.6	体部外面ナデ。高台部ヨコナデ。見込み格子状ヘラミガキ。	暗灰色	密	良好	井戸側内 ½
132	瓦器 椀	－ － 高台径 6.1 高台高 0.6	体部外面弱いナデ。高台部ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。	灰色～暗灰色	密	良好	井戸側内 ½
133 二四	瓦器 小皿	8.2 2.5	手づくね成形。口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧成形後ナデ。体部内面密なヘラミガキ。見込み単位の細い格子状ヘラミガキ。	暗灰色	密	良好	井戸側内 完形
134 二四	瓦器 小皿	9.9 2.2	手づくね成形。口縁部外面ヨコナデ。体部および底部外面指頭圧成形後弱いナデ。体部内面密なヘラミガキ。見込み単位の細い格子状ヘラミガキ。	灰色～暗灰色	やや粗	良好	井戸側内 ½
135	瓦器 小皿	9.4 2.7	手づくね成形。口縁部外面ヨコナデ。体部および底部外面弱いナデ。体部内面密なヘラミガキ。見込み単位の細い格子状ヘラミガキ。	灰色～暗灰色	密	良好	井戸側内 外面に重ね焼痕 ¼
136	瓦器 小皿	10.0 －	手づくね成形。口縁部外面ヨコナデ。体部外面ナデ。体部内面密なヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。	灰色	やや粗	良好	井戸側内 ¼
137	瓦器 小皿	8.7 1.9	手づくね成形。口縁部外面ヨコナデ。口縁部内面粗いヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。底部外面弱いナデ。体部内面密なヘラミガキ。見込み格子状ヘラミガキ。	暗灰色	やや粗	良好	井戸側内 ¼
138 二五	土師器 土釜	32.0 － 鍔径 39.5	マキアゲ成形。口縁部内外面ヨコナデ。頸部内外面ナデ。鍔部上面裏面ナデ。	明橙色	やや粗 長石・石英 (0.5～1㎜) を多量に含む	良好	井戸側内 鍔部裏面 煤付着 ⅙
139 二五	須恵器 甕	28.4 －	マキアゲ成形。口縁部内外面ナデ。体部外面タタキ。体部内面ヘラナデ。	淡灰～灰色	やや粗	堅緻	井戸側内 ⅙
140 二五	須恵器 鉢	28.4 －	マキアゲ・ミズビキ成形。口縁部内外面ナデ。体部内外面回転ナデ。	暗灰色	やや粗	堅緻	井戸側内 ⅙
141 二五	須恵器 鉢	29.5 11.3 底径 8.1	マキアゲ・ミズビキ成形。口縁部および体部内外面回転ナデ。底部内外面ナデ。	灰色～灰青色	やや粗 砂粒 (0.1～0.5㎜) を多量に含む	堅緻	井戸側内 内面に炭化物付着 ほぼ完形
142 二五	陶器 壺	－ － 胴部最大径18.8	マキアゲ・ミズビキ成形。頸部および体部内外面回転ナデ。頸部から体部上半に自然釉。	乳灰色	やや粗 黒色の砂粒 (0.1～0.5㎜) を多量に含む	堅緻	井戸側内 ¼(体部)

SK－2

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存率
143	土師器 小皿	8.0 1.6	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡茶色	密	良好	第1層 ¼
144 二五	土師器 小皿	9.9 1.7	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰茶色	密	良好	第1層 ½
145	土師器 小皿	9.3 2.0	手づくね成形。口縁部外面ヨコナデ。底部外面弱いナデ。内面風化のため調整不明。	淡灰色～黒灰色	やや粗	良好	第1層 底部に重ね焼痕 ½

SK－4

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存率
146 二五	瓦器 椀	16.1 5.1 高台径 4.5 高台高 0.6	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧成形後ナデ。体部内面粗い圏線状ヘラミガキ。見込み単位幅の大きい格子状ヘラミガキ。	灰色～暗灰色	やや粗	良好	第4層 完形
147	瓦器 椀	15.4 － － －	体部外面密なヘラミガキ。体部内面密なヘラミガキ。	灰色	やや粗	良好	第2層 ⅙
148	瓦器 椀	－ － 高台径 4.6 高台高 0.5	高台部内外面ヨコナデ。見込み施文原体が細いヘラ先による格子状ヘラミガキ。	灰色	やや粗	良好	第4層 ½
149 二五	瓦器 小皿	9.0 2.3	手づくね成形。口縁部外面ヨコナデ。底部外面弱いナデ。体部内面粗いヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。	灰色	やや粗	良好	第4層 完形

SK－5

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存率
150	土師器 小皿	9.6 1.2	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	乳茶色	密	良好	第3・4層 ¼
151	土師器 小皿	9.6 0.9	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面指頭痕遺存。	乳白色～乳茶色	密	良好	第3・4層 ⅙
152	土師器 小皿	9.4 1.3	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	乳灰色	密	良好	第3・4層 ⅙
153	土師器 小皿	11.4 －	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡茶色	密	良好	第3・4層 ¼
154	土師器 小皿	9.4 1.7	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。	乳茶色	密	良好	第3・4層 ¼

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存率
155 二六	土師器 小皿	9.4 1.7	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面指頭圧調整。	淡茶色	密	良好	第3・4層 ほぼ完形
156 二六	土師器 小皿	10.2 1.1	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面指頭圧調整。	明橙色	密	良好	第3・4層 ½
157 二六	土師器 中皿	14.2 2.6	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡茶色	密	良好	第3・4層 ½
158 二六	土師器 中皿	15.0 2.8	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	乳灰色	密	良好	第3・4層 ½
159 二六	土師器 中皿	14.9 2.9	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰色	密	良好	第3・4層 ½
160 二六	土師器 中皿	14.4 3.1	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	乳白色	密	良好	第3・4層 ½
161	土師器 中皿	14.6 —	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡茶色	密	良好	第3・4層 ½
162 二六	土師器 台付小皿	8.8 4.3 高台径 4.9 高台高 2.3	手づくね成形。口縁部および高台部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。	乳灰色	密	良好	第3・4層 ほぼ完形
163	土師器 台付小皿	— — 高台径 4.0 高台高 1.3	手づくね成形。高台部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。	淡灰色	やや粗	良好	第3・4層 高台部½
164	瓦器 椀	16.2	体部外面密なヘラミガキ。体部内面乱方向の密なヘラミガキ。	黒灰色	やや粗	良好	第3・4層 ¼
165	瓦器 椀	15.7 —	体部外面密なヘラミガキ。体部内面単位幅の細いヘラミガキを密に施す。	黒漆色	やや粗	良好	第3・4層 ⅙
166 二六	瓦器 椀	15.5 5.8 高台径 5.8 高台高 0.7	体部外面四分割の密なヘラミガキ。体部内面圏線状の密なヘラミガキ。見込み格子状ヘラミガキ。高台部ヨコナデ。	淡灰色～暗灰色	やや粗	良好	第5層 外面に重ね焼痕 完形
167 二六	瓦器 椀	15.4 5.9 高台径 6.2 高台高 0.9	体部外面四分割の密なヘラミガキ。体部内面密なヘラミガキ。見込み一方向の密なヘラミガキ。高台部ヨコナデ。	灰色	やや粗	良好	第5層 見込みに×印あり ほぼ完形
168 二七	瓦器 椀	— — 高台径 5.5 高台高 0.7	高台部ヨコナデ。見込み一方向の密なヘラミガキ。	灰色	やや粗	良好	第3・4層

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存率
169 二七	瓦器 椀	－ － 高台径 5.2 高台高 0.8	高台部ヨコナデ。見込み一方向の密なヘラミガキ。	灰色	やや粗	良好	第3・4層
170 二七	瓦器 小皿	9.7 2.0	手づくね成形。口縁部外面ヨコナデ。底部外面ナデ。体部内面粗いヘラミガキ。見込み一方向の粗いヘラミガキ。	灰色	やや粗	良好	第3・4層 ほぼ完形
171 二七	土師器 土釜	25.0 － 鍔径 31.4	マキアゲ成形。口縁部外面および鍔部裏面ヨコナデ。体部および底部外面板ナデ。内面ナデ。	淡茶色	やや粗 長石・石英 (0.5～1mm) を多量に含む	良好	第3・4層 底部欠損
172 二七	白磁 碗	17.4 －	ロクロ成形。体部外面回転ケズリ。体部内面回転ナゲ。	灰白色の釉	緻密	堅緻	第3・4層 ¼

SK－7

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存率
173	土師器 小皿	7.8 1.6	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡茶色	密	良好	第1層 ¼
174	土師器 小皿	7.2 1.3	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡茶色	密	良好	第1層 ¼
175	土師器 小皿	7.8 1.4	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡赤茶色	やや粗	良好	第1層 ¼
176 二八	土師器 小皿	7.4 1.4	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面指頭圧調整。	淡茶色	やや粗	良好	第1層 ほぼ完形
177	土師器 小皿	8.0 1.5	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。口縁部と底部の境に明瞭な段を有する。底部内外面ナデ。	淡茶灰色	やや粗	良好	第1層 ½
178 二八	土師器 小皿	8.2 1.3	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰色	やや粗	良好	第1層 ½
179 二八	土師器 小皿	7.8 1.4	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。底部外面に粘土結合痕。	淡茶色	やや粗	良好	第1層 ほぼ完形
180 二八	土師器 小皿	8.2 1.3	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡茶色	やや粗	良好	第1層 ½
181 二八	土師器 小皿	8.1 1.3	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰色	密	良好	第1層 ½以上

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存率
182 二八	土師器 小皿	8.4 1.2	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡茶色	やや粗	良好	第1層 ほぼ完形
183 二八	土師器 小皿	8.3 1.5	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡茶灰色	密	良好	第1層 ½以上
184	土師器 小皿	8.4 1.2	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡茶色	やや粗	良好	第1層 ½
185	土師器 小皿	9.9 1.8	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡茶灰色	やや粗 長石 (0.1～0.5mm) を多量に含む	良好	第1層 ¼
186 二八	土師器 中皿	11.0 2.0	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡茶灰色	やや粗	良好	第1層 ¼
187 二八	土師器 中皿	13.0 2.0	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡茶色	やや粗	良好	第1層 ¼
188	土師器 中皿	12.7 －	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面指頭圧調整。	明茶色	精良	良好	第1層 ¼
189	土師器 中皿	13.4 2.1	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡茶色	密	良好	第1層 ⅙
190 二八	土師器 中皿	12.2 3.3	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡茶色	密	良好	第1層 ½
191	瓦器 小皿	7.2 1.6	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。底部外面粘土結合痕。	灰青色	やや粗	良好	第1層 完形
192 二八	瓦器 椀	14.0 3.3 高台径 2.3 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面および高台部ナデ。体部内面粗いヘラミガキ。指頭圧痕遺存。見込み平行線状ヘラミガキ。	灰色	やや粗	良好	第1層 ½以上
193 二八	瓦器 椀	14.4 3.4 高台径 3.0 高台高 0.3	口縁部外面ヨコナデ。体部外面および高台部ナデ。体部内面粗いヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキで端にヘラ先による圧痕あり。	灰色	やや粗	良好	第1層 ½以上
194	白磁 碗	15.0 －	ロクロ成形。体部外面ロクロケズリ。体部内面ロクロナデ。	乳灰色の釉	密	堅緻	第1層 ⅙
195	白磁 碗	17.3 －	ロクロ成形。体部外面ロクロケズリ。体部内面ロクロナデ。体部中位以下露胎。	白色の釉	緻密	堅緻	第1層 1/12

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存率
196 二八	陶器 甕	－ － 底径 13.5	マキアゲ・ミズビキ成形。体部外面下位ナデ。体部内面ロクロナデ。底部内面ナデ。底部外面は未調整で、5㎜程度の小石が表面に散見している。	淡茶灰色	密	堅緻	第1層 底部¼
197 二八	軒丸瓦		右巻きの三巴文。巴は頭部が大きく約4分の3周して終る。珠文は隆起が大きく16個（推定）廻っている。外縁は直立縁で高い。	灰色	粗 長石・石英 (0.1～1㎜) 多量に含む	良好	第1層 三巴文

池状遺構

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存率
198 二九	土師器 小皿	8.2 1.6	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。底部外面に粘土給合痕遺存。	淡灰色	やや粗	良好	第2層 完形
199	土師器 小皿	9.4 －	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰茶色	やや粗 雲母を含む	良好	第2層 ⅙
200	土師器 小皿	10.1 －	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰色	密	良好	第2層 ¼
201	土師器 小皿	7.9 －	手づくね成形。全体に風化のため調整不明。底部外面粘土結合痕遺存。	淡灰色	やや粗 雲母を多量に 含む	良好	第2層 ⅙
202	土師器 小皿	9.2 －	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。	淡灰色	やや粗 雲母を含む	良好	第2層 ⅙
203	土師器 小皿	8.2 －	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰色	やや粗	良好	第2層 ⅙
204	土師器 中皿	13.2 －	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデと思われる。	淡灰茶色	密	良好	第2層 ⅙
205	土師器 中皿	13.6 －	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデと思われる。	淡灰茶色	やや粗 クサリ礫を 含む	良好	第2層 ⅙
206	土師器 中皿	14.9 －	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。	乳茶色	やや粗 クサリ礫を 含む	良好	第2層 ⅙
207	瓦器 椀	14.2 －	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧成形後ナデ。体部内面粗いヘラミガキを圏線状に施す。	暗灰色	密	良好	第2層 ⅙
208	瓦器 椀	13.8 －	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧成形後ナデ。体部内面粗いヘラミガキを圏線状に施す。	暗灰色	密	良好	第2層 ⅙

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存率
209	瓦器 椀	13.0 －	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面粗いヘラミガキを圏線状に施す。見込みは平行線状ヘラミガキと思われる。	暗灰色	密	良好	第2層 ¼
210	瓦器 椀	14.4 －	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面ナデの後粗いヘラミガキを圏線状に施す。	暗灰色	密	良好	第2層 ¼
211	瓦器 椀	15.1 4.3 高台径 3.8 高台高 0.4	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面および見込みナデ。体部内面数条のヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺ナデ。	暗灰色	密	良好	第2層 ¼
212 二九	瓦器 椀	13.7 4.1 高台径 4.0 高台高 0.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面および見込みナデ。体部内面粗いヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺ナデ。	灰白色～暗灰色	密	良好	第2層 外重に重ね焼痕 ½以上
213	瓦器 椀	14.9 3.7 高台径 4.0 高台高 0.3	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧成形後ナデ。体部内面および見込みナデ。体部内面数条のヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺ナデ。	暗灰色	密	良好	第2層 ⅙
214 二九	瓦器 椀	13.4 3.7 高台径 3.3 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面および見込みナデ。体部内面粗いヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺弱いナデ。	灰色～暗灰色	密	良好	第3層 外面に重ね焼痕・油煙あり。
215	瓦器 小皿	9.2 －	手づくね成形。口縁部外面ヨコナデ。底部外面指頭圧成形の後ナデ。体部内面数条のヘラミガキ。見込み格子状ヘラミガキ。	灰黒色	密	良好	第2層 ¼
216	瓦器 小皿	10.2 1.7	手づくね成形。口縁部外面ヨコナデ。底部外面指頭圧痕遺存。体部内面密なヘラミガキを施すが、一部はナデによって消されている。見込み格子状ヘラミガキ。	灰黒色	密	良好	第2層 ¼
217	瓦器 小皿	9.1 1.6	手づくね成形。口縁部外面ヨコナデ。底部外面指頭圧成形後ナデ。体部内面粗いヘラミガキ。見込は乱方向のヘラミガキ。	灰色～暗灰色	密	良好	第2層 ¼
218 二九	瓦器 小皿	9.1 2.2	手づくね成形。口縁部外面ヨコナデ。体部および底部内外面ナデ。体部内面密なヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。	暗灰色	密	良好	第3層 ½以上

SD－1

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存率
219	弥生土器 壺	8.1 －	マキアゲ成形。口縁部内外面ヨコナデ。体部上位内面指頭圧成形後ナデ。口縁部下位および体部上位外面ヘラミガキ。口縁端部外面に沈線が廻る。	淡茶灰色～淡灰色	やや粗	良好	口縁部および体部上位⅙のみ遺存
220	弥生土器 壺	20.2 －	マキアゲ成形。口縁部外面および口縁部内面上位ヨコナデ。口縁部内面中位および頸部内外面ヘラミガキ。口縁端部および外面、口縁部と頸部外面の境にヘラによるキザミ目。	淡茶色～淡灰茶色	やや粗	良好	口頸部のみ¼以上遺存
221	弥生土器 壺	20.3 －	マキアゲ成形。口縁部内外面ナデ。頸部内外面ハケナデ後ナデ。	淡赤茶色～乳赤茶色	やや粗 クサリ礫を多量に含む	良好	口頸部のみ¼遺存

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 法量	口径 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存率
222	弥生土器 甕		13.7 —	マキアゲ成形。口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面タタキ(4条/1.9cm)。	内面 灰茶色 外面 赤茶色	粗 長石・石英 (0.5～1mm) を多量に含む	良好	口縁部および体部上位 1/6のみ
223 二九	弥生土器 甕		15.4 25.3 底径 5.0	マキアゲ成形。口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。下位の一部にハケナデが認められる。体部外面右上りのタタキ(5条/2.1cm)。底部側面指頭圧成形後ナデ。底部外面ナデ。	内面 淡灰色 外面 淡茶色	やや粗 長石・石英・チャート (0.1～1mm) を多量に含む	良好	1/2以上
224 二九	弥生土器 高杯		25.5 14.8 裾径 17.4	マキアゲ成形。杯部外面の一部にヘラミガキが遺存。杯部外面ナデ。柱状部内面シボリメが遺存。裾部内面ナデ。柱状部および裾部外面ヘラミガキ。裾部上位の四方に円孔を穿つ。	淡茶色	粗 長石・石英 (0.5～2mm) を多量に含む	良好	1/2
225	弥生土器 高杯		— —	マキアゲ成形。柱状部内面シボリメ。裾部内面ナデ。柱状部および裾部上位外面ヘラミガキ。裾部上位の四方に円孔を穿つ。	淡茶色	やや粗	良好	柱状部のみ 遺存。
226 二九	弥生土器 鉢		13.6 6.0 底径 3.3	マキアゲ成形。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ。体部内面ハケナデ。底部側面指頭圧成形後ナデ。底部外面ナデ。	赤茶色	やや粗 長石・石英 (0.5～2mm) を多量に含む	良好	1/2以上
227 二九	弥生土器 鉢		8.7 6.7 底径 3.8	マキアゲ成形。口縁部および体部外面ナデ。体部内面ナデ。底部内面に板状工具による圧痕が遺存。底部側面指頭圧成形後ナデ。底部外面ナデ。	内面 灰黒色～淡赤茶色 外面 淡赤茶色	密	良好	1/2以上
228	弥生土器 底部有孔 土器		— — 底径 4.3	マキアゲ成形。体部外面右上がりのタタキ(5条/1.5cm)。体部内面下半ナデ。一部に板状工具による圧痕。底部外面ナデ。底面中央に焼成前の円孔(0.8cm)が穿かれている。	内面 灰黒色～灰白色 外面 淡赤茶色～乳灰色	やや粗 長石・石英 (0.5～2mm) を含む	良好	底部のみ 遺存
229	土師器 甕		14.2 —	マキアゲ成形。口縁部内外面ヨコナデ。体部上位内面ヘラケズリ。体部上位外面ナデ。	淡茶色	粗 長石・石英 (0.5～1.5mm) を多量に含む	良好	口縁部のみ 1/4
230	土師器 甕		16.4 —	マキアデ成形。口縁部内外面ヨコナデ。口縁部および体部上位外面ハケナデ。体部上位内面ヘラケズリ。	淡褐色	やや粗 長石・石英・角閃石 (0.1～0.5mm) を多量に含む	良好	口縁部 1/6のみ遺存
231	土師器 甕		17.5 —	マキアゲ成形。口縁部外面ヨコナデ。口縁部内面ハケナデ後ヨコナデ。口縁部および体部上位外面右上りの細筋のタタキ。体部上位内面ヘラケズリ。	淡灰茶色～淡灰色	やや粗	良好	口縁部 1/4のみ遺存
232	土師器 甕		14.7 —	マキアゲ成形。口縁部内外面ヨコナデ。体部上位内面ヘラケズリ。体部上位外面ナデ。	淡灰褐色～淡灰茶色	やや粗	良好	口縁部 1/4のみ遺存
233 二九	土錘	長さ 最大径 孔径 重量	6.6 2.5 1.6 50g	手づくね成形。管状形。内外面指頭圧成形後ナデ。	淡灰色	やや粗	良好	ほぼ完形
234	土錘	長さ 最大径 孔径 重量	6.7 2.7 1.4 70g	手づくね成形。管状形。内外面指頭圧成形後ナデ。	淡茶灰色	やや粗	良好	完形

ＳＤ－２

遺物番号 図版番号	器　種	(cm)　口径 法量　器高	成　形　・　調　整　技　法	色　調	胎　土	焼　成	備　考 遺存率
235 三〇	弥生土器 甕	14.1 －	マキアゲ成形。口縁部内面ヨコナデ。口縁部外面タタキ後ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面タタキ（６条/2.0cm）。	内面 淡赤茶色 外面 黒褐色～赤茶色	やや粗	良好	口縁部および体部¼のみ体部外面に煤付着
236	土師器 甕	11.5 10.9	マキアゲ成形。口縁部内外面ヨコナデ。体部内面中位までヘラケズリ。下位は指頭圧成形。体部外面の一部にハケナデが遺存。	内面 淡灰褐色 外面 暗灰褐色～淡灰褐色	やや粗 長石・石英・角閃石 (0.1～２㎜) を多量に含む	良好	½以上 体部外面下位に煤付着。
237	土師器 土釜	18.1 －	マキアゲ成形。口縁部内面および外面全体ヨコナデ。体部内面の一部にハケナデ(14本/cm)が遺存。	内面 暗灰茶色～淡灰褐色 外面 淡灰褐色	やや粗 長石・石英・角閃石 ・雲母 (0.1～１㎜) を多量に含む	良好	口縁部および鍔部のみ⅛遺存。
238 三〇	土師器 器台	10.8 －	マキアゲ成形。受部内面調整不明。受部外面および裾部内外面密なヘラミガキ。裾部中位の三方に円孔を穿つ。裾部下位は欠損。	淡灰茶色～乳灰色	密	良好	½
239 三〇	土師器 高杯	－ － 裾径　10.1	マキアゲ成形。杯部内外面および柱状部外面ナデ。柱状部内面シボリメ。裾部外面ナデ。裾部内面指頭圧痕遺存。	淡灰茶色～淡赤茶色	密	良好	½
240	須恵器 壺	7.4 －	マキアゲ・ミズビキ成形。内外面ともに回転ナデ。	灰色～淡灰色	密	堅緻	口縁部のみ¼ 口縁部内外面に灰かぶり
241 三〇	須恵器 有蓋高杯	12.0 － 受部径13.8	マキアゲ・ミズビキ成形。受部端から1.6cm以下は回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	灰色	密	堅緻	杯部 ½のみ
242	須恵器 杯身	11.8 － 受部径14.4	マキアゲ・ミズビキ成形。外面受部端から1.2cm以下は回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	灰青色	やや粗	堅緻	¼
243 三〇	須恵器 鉢	－ － 底径　7.7	マキアゲ・ミズビキ成形。体部内外面および底部側面回転ナデ。底部外面ナデ。	内面 灰色 外面 暗灰色	やや粗	堅緻	底部のみ遺存
244 三〇	土師器 鍋	40.5 21.9	マキアゲ成形。口縁部内外面ヨコナデ。体部内面板状工具によるナデ後ナデ。体部外面上位から中位にかけてハケナデ後ナデ。下位ヘラケズリ。把手部ナデ。	淡茶色～淡明茶色	密	良好	ほぼ完形

ＳＤ－３

遺物番号 図版番号	器　種	(cm)　口径 法量　器高	成　形　・　調　整　技　法	色　調	胎　土	焼　成	備　考 遺存率
245	土師器 小皿	7.3 －	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。	淡灰茶色	やや粗	良好	⅙
246 三〇	土師器 小皿	7.3 1.5	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰色	密	良好	½
247	土師器 小皿	8.2 1.2	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰色	密	良好	⅙

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存率
248 三〇	土師器 中皿	12.6 2.0	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部外面弱いナデ。体部内面ナデ。	淡茶色～淡明茶色	やや粗	良好	½ 内面燈心油痕あり
249	土師器 中皿	13.3 1.8	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。	淡茶色	密	良好	⅛
250	瓦器 椀	13.7 —	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面粗いヘラミガキ。	暗灰色	密	良好	¼
251	瓦器 椀	15.6 3.9 高台径 3.4 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面粗いヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺ナデ。	灰白色	やや粗 長石・石英 (0.1～3㎜) を含む	良好	½ 炭素付着不良
252	瓦器 椀	14.7 4.2 高台径 3.9 高台高 0.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面粗いヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺ナデ。	灰黒色	密	良好	¼以上
253 三〇	瓦器 椀	14.4 4.1 高台径 3.5 高台高 0.3	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面および見込みナデ。体部内面粗いヘラミガキ。見込みジグザグ状ヘラミガキ。高台部周辺ナデ。	暗灰色～灰黒色	密	良好	¼以上 内外面に油煙あり

SD－14

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存率
255 三一	土師器 小皿	7.6 1.3	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	乳灰色～明茶色	密	良好	完形
256 三一	土師器 小皿	7.7 1.6	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	明茶色	密	良好	完形
257 三一	土師器 小皿	7.8 1.6	手づくね成形。口縁部内外面逆時計回りのヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。	淡灰茶色	密	良好	完形
258 三一	土師器 小皿	7.9 1.5	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。口縁部内外面粘土接合痕遺存。	淡灰茶色	密	良好	完形
259 三一	土師器 小皿	8.2 1.5	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰色	密	良好	完形
260 三一	土師器 小皿	8.1 1.5	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰茶色	密	良好	完形
261	土師器 小皿	7.4 1.3	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰色	密	良好	½以上

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存率
262 三一	土師器 小皿	7.8 1.4	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰茶色	やや粗	良好	完形
263 三一	土師器 小皿	8.0 1.6	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	乳灰色～淡灰茶色	密	良好	完形
264	土師器 小皿	7.9 1.5	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。	淡灰茶色	密	良好	ほぼ完形
265 三一	土師器 小皿	8.0 1.3	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰茶色	密	良好	完形
266	土師器 小皿	8.3 1.5	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡茶色～淡灰色	やや粗	良好	ほぼ完形
267 三一	土師器 小皿	8.3 1.4	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰茶色	やや粗	良好	完形
268 三一	土師器 小皿	7.8 1.4	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰色	密	良好	完形
269 三一	土師器 小皿	7.7 1.3	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。	乳灰色	密	良好	完形
270 三一	土師器 小皿	8.0 1.5	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰色	密	良好	完形
271	土師器 小皿	8.2 1.4	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。	乳灰色	密	良好	½以上
272	土師器 小皿	8.2 1,4	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰茶色	密	良好	½以上
273	土師器 小皿	8.3 1.5	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	乳灰色	密	良好	完形
274 三一	土師器 小皿	8.0 1.8	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰色	やや粗	良好	ほぼ完形
275 三一	土師器 小皿	7.8 1.8	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰茶色	密	良好	ほぼ完形

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存率
276 三一	土師器 小皿	8.1 1.6	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰茶色	やや粗	良好	ほぼ完形
277 三一	土師器 小皿	8.0 1.4	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。	乳灰色～淡灰茶色	密	良好	完形
278	土師器 小皿	8.5 1.3	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰色	密	良好	½
279	土師器 小皿	8.2 1.2	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。	淡灰色	密	良好	ほぼ完形
280 三一	土師器 小皿	7.8 1.2	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面逆時計回りのナデ。底部外面ナデ。	淡明茶色～乳灰茶色	密	良好	完形
281 三一	土師器 小皿	8.1 1.4	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰茶色	密	良好	完形
282 三二	土師器 小皿	8.4 1.5	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰色	密	良好	完形
283	土師器 小皿	7.9 1.2	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰茶色	密	良好	ほぼ完形
284 三二	土師器 小皿	8.2 1.5	手づくね成形。全体に風化しており調整不明。	淡茶灰色	やや粗 長石・石英 (0.1～0.5mm) 多量に含む	良好	½以上
285	土師器 小皿	7.9 1.1	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰茶色	やや粗	良好	ほぼ完形
286 三二	土師器 小皿	8.4 1.3	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰茶色	密	良好	完形
287	土師器 小皿	8.4 1.4	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰茶色	密	良好	ほぼ完形
288 三二	土師器 小皿	8.0 1.5	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰色	密	良好	完形
289 三二	土師器 小皿	8.2 1.3	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰色	密	良好	完形

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存率
290 三二	土師器 小皿	8.1 1.3	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。	淡灰茶色	密	良好	完形
291 三二	土師器 小皿	8.2 1.4	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。	淡茶色～淡灰色	やや粗 長石 (0.1～0.5㎜) を多量に含む	良好	完形
292 三二	土師器 小皿	8.4 1.3	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。底部内面に粘土結合痕遺存。	明茶色	やや粗	良好	完形
293 三二	土師器 小皿	8.0 1.3	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。	淡灰色	密	良好	完形
294 三二	土師器 小皿	8.2 1.1	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰色	やや粗 長石 (0.1～0.5㎜) を含む	良好	完形
295 三二	土師器 小皿	8.6 1.2	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰色	やや粗 長石 (0.1～0.5㎜) を含む	良好	ほぼ完形
296 三二	土師器 小皿	8.4 1.2	手づくね成形。全体に風化しており調整不明。	明茶色	密	良好	ほぼ完形
297	土師器 小皿	8.2 1.3	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰茶色	やや粗 長石 (0.1～0.5㎜) を含む	良好	ほぼ完形
298	土師器 小皿	8.3 1.3	手づくね成形。全体に風化しており調整不明。	乳灰色	密	良好	½以上
299 三二	土師器 小皿	7.6 1.3	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	乳灰茶色	やや粗 長石・石英 (0.1～0.5㎜) を含む	良好	完形
300 三二	土師器 小皿	8.1 1.3	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰色	密	良好	ほぼ完形
301 三二	土師器 小皿	8.3 1.2	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。底部外面に粘土結合痕遺存。	淡灰色	密	良好	ほぼ完形
302	土師器 小皿	8.0 1.3	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。口縁部外面に粘土結合痕遺存。	乳灰色	密	良好	ほぼ完形
303 三二	土師器 小皿	7.9 1.0	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。底部外面弱いナデ。	淡明茶色	やや粗	良好	ほぼ完形

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存率
304 三二	土師器 小皿	8.0 1.2	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰茶色	やや粗 長石 (0.1～0.5mm) を多量に含む	良好	完形
305 三二	土師器 小皿	8.3 1.2	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。	淡灰色	密	良好	完形
306	土師器 小皿	7.8 1.1	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰色	やや粗	良好	完形
307 三二	土師器 小皿	8.0 1.4	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。	乳灰色	密	良好	ほぼ完形
308 三二	土師器 小皿	8.2 1.2	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。	淡灰茶色	密	良好	ほぼ完形
309 三三	土師器 小皿	8.3 1.1	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰茶色	やや粗	良好	ほぼ完形
310 三三	土師器 小皿	8.7 1.5	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰茶色	やや粗	良好	完形
311 三三	土師器 小皿	7.9 1.5	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。	淡灰茶色	やや粗	良好	完形
312 三三	土師器 小皿	8.1 1.6	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	乳灰色	密	良好	完形
313 三三	土師器 小皿	8.2 1.3	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰茶色	密	良好	完形
314 三三	土師器 小皿	8.0 1.1	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰色	密	良好	完形
315 三三	土師器 小皿	8.1 1.2	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。	淡灰茶色	やや粗	良好	完形
316 三三	土師器 小皿	7.8 1.1	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰色	密	良好	½以上
317 三三	土師器 小皿	8.1 1.4	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰茶色	やや粗	良好	ほぼ完形

遺物番号 図版番号	器　種	(cm)　口径 法量　器高	成　形　・　調　整　技　法	色　調	胎　土	焼　成	備　考 遺存率
318 三三	土師器 小皿	7.7 1.2	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰色	やや粗	良好	完形
319 三三	土師器 小皿	8.4 1.4	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。	淡灰色	やや粗 長石 (1～0.5mm) を含む	良好	完形
320 三三	土師器 小皿	8.0 1.3	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰茶色	密	良好	完形
321 三三	土師器 小皿	7.8 1.3	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。	淡灰色	密	良好	完形
322 三三	土師器 小皿	8.0 1.3	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰色	密	良好	ほぼ完形
323 三三	土師器 小皿	8.4 1.3	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰茶色	やや粗	良好	完形
324 三三	土師器 小皿	7.8 1.2	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。口縁部と底部の境に明瞭な段を有する。	淡明茶色	やや粗 くさり礫が 散見される	良好	完形
325 三三	土師器 小皿	7.7 1.4	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。口縁部と底部の境に明瞭な陵を有する。	淡茶色	やや粗 長石 (0.5～0.1mm) を多量に含む	良好	完形
326 三三	土師器 小皿	7.6 1.5	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。口縁部と底部の境に明瞭な陵を有する。	淡灰色	密	良好	完形
327 三三	土師器 小皿	7.7 0.9	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰色	密	良好	ほぼ完形
328 三三	土師器 小皿	8.1 1.0	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰色～淡灰茶色	密	良好	完形
329 三四	土師器 中皿	11.9 1.9	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。	乳灰色	やや粗 くさり礫が 散見される	良好	ほぼ完形
330 三四	土師器 中皿	11.7 2.0	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡明茶色	やや粗	良好	完形
331 三四	土師器 中皿	12.7 2.0	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰色	やや粗	良好	ほぼ完形

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存率
332	土師器 中皿	11.9 2.1	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。底部外面に粘土結合痕が遺存。	淡明茶色	やや粗 長石・くさり礫 を含む	良好	½以上
333 三四	土師器 中皿	12.5 2.2	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰色	やや粗	良好	½以上
334 三四	土師器 中皿	12.2 2.2	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。底部外面に粘土結合痕が遺存。	淡灰茶色	密	良好	ほぼ完形
335 三四	土師器 中皿	12.8 2.2	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	明茶色	密	良好	ほぼ完形
336 三四	土師器 中皿	12.4 2.3	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡明茶色	密	良好	½以上
337 三四	土師器 中皿	12.5 2.3	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。底部外面に粘土結合痕が遺存。	淡灰色～淡明茶色	密	良好	完形
338 三四	土師器 中皿	12.1 2.4	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。口縁部外面に粘土結合痕が遺存。	淡灰色	密	良好	½以上
339	土師器 中皿	12.8 2.5	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。底部外面に粘土結合痕遺存。	淡灰色～淡明茶色	密	良好	½以上
340 三四	土師器 中皿	12.4 2.9	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。	淡灰色	やや粗 長石 (0.5～0.1mm) を多量に含む	良好	完形
341 三四	土師器 中皿	12.2 1.7	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰茶色	密	良好	完形
342 三四	土師器 中皿	12.0 1.9	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。	淡灰茶色	密	良好	½以上
343 三四	土師器 中皿	12.1 2.0	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰色	密	良好	ほぼ完形
344 三四	土師器 中皿	12.0 2.0	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰茶色～淡明茶色	やや粗	良好	完形
345 三四	土師器 中皿	12.2 2.2	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。	淡灰茶色	やや粗	良好	ほぼ完形

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存率
346 三四	土師器 中皿	12.5 2.3	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ヨコナデ。	乳灰色	密	良好	ほぼ完形
347	土師器 中皿	12.5 2.3	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。	淡明茶色	やや粗 長石 (0.5～0.1mm) を多量に含む	良好	完形
348 三四	土師器 中皿	12.2 2.4	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡明茶色	やや粗	良好	½以上
349 三四	土師器 中皿	12.2 2.4	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰色	密	良好	½
350 三四	土師器 中皿	11.8 2.3	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡茶色	密	良好	½
351 三四	土師器 中皿	12.0 2.9	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰茶色	やや粗	良好	½以上
352 三五	土師器 中皿	11.9 1.9	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。底部外面に粘土結合痕遺存。	淡灰茶色	密	良好	完形
353 三五	土師器 中皿	11.6 2.5	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。底部外面に粘土結合痕が遺存。	淡灰色	やや粗	良好	完形
354 三五	土師器 中皿	12.1 1.8	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰色	やや粗	良好	½以上
355 三五	土師器 中皿	12.0 2.2	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	明茶色	密	良好	½以上
356 三五	土師器 中皿	12.2 2.8	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。底部外面に粘土結合痕遺存。	淡灰色	やや粗 長石 (1～0.5mm) を多量に含む	良好	完形
357 三五	土師器 中皿	12.2 2.9	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。底部外面に粘土結合痕遺存。	淡明茶色	やや粗 長石 (1～0.5mm) を多量に含む	良好	完形
358 三五	土師器 中皿	12.7 1.9	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。	淡明茶色	密	良好	ほぼ完形
359 三五	瓦器 小皿	7.8 1.3	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。底部外面に粘土結合痕が遺存。	灰色～灰黒色	密	良好	½以上 外面に重ね焼痕

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存率
360	瓦器 小皿	8.3 —	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。	暗灰色	密	良好	1/6
361	瓦器 小皿	9.0 —	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部外面指頭圧成形後ナデ。体部内面および見込み粗いヘラミガキ。	暗灰色	密	良好	1/6
362 三五	須恵器 鉢	20.2 5.4 底径 7.6	マキアゲ・ミズビキ成形。口縁部および体部内外面回転ナデ。底部内面ナデ。底部外面回転糸切り痕が遺存。	灰色	やや粗	堅緻	1/2
363 三五	青磁 小皿	10.5 2.2 底径 4.6	ロクロ成形。口縁部内外面および体部内面ロクロナデ。体部外面下半ロクロヘラケズリ。内面見込みに櫛によるジグザグ文を施す。外面体部下半および底部外面は露胎。	磁胎 灰白色 釉 淡灰緑色	緻密	堅緻	1/2以上
364 三六	瓦器 椀	13.8 3.8 高台径 3.0 高台高 0.3	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面粗いヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。体部内外面に粘土結合痕遺存。	灰白色～暗灰色	密	良好	完形 外面に重ね焼痕
365 三六	瓦器 椀	14.5 3.8 高台径 2.9 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧成形後ナデ。体部内面数条のヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	灰白色～灰黒色	やや粗 長石・石英 (0.1～0.5mm) を含む	良好	ほぼ完形 外面に重ね焼痕
366	瓦器 椀	14.6 4.1 高台径 2.9 高台高 0.1	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧成形後ナデ。体部内面粗いヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。見込みのヘラミガキの起点にヘラ先による圧痕あり。高台部周辺ナデ。	灰白色～灰黒色	やや粗	良好	ほぼ完形 内外面に 重ね焼痕
367 三六	瓦器 椀	14.4 3.7 高台径 3.5 高台高 0.3	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面粗いヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	灰白色～暗灰色	やや粗	良好	完形 内外面に 重ね焼痕
368 三六	瓦器 椀	14.7 4.1 高台径 3.9 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面粗いヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。体部外面に粘土結合痕遺存。	灰白色～暗灰色	やや粗	良好	完形 内外面に 重ね焼痕
369	瓦器 椀	14.9 4.3 高台径 3.7 高台高 0.3	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面および見込みナデ。体部内面数条のヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	灰白色～灰黒色	やや粗	良好	完形 内外面に 重ね焼痕
370 三六	瓦器 椀	14.0 4.1 高台径 2.9 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面粗いヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。体部外面粘土結合痕遺存。	灰白色～灰黒色	密	良好	完形 内外面に 重ね焼痕
371 三六	瓦器 椀	14.0 3.5 高台径 3.2 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面数条のヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。体部内外面に粘土結合痕遺存。	灰黒色	密	良好	ほぼ完形
372	瓦器 椀	13.9 3.9 高台径 3.5 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧成形後ナデ。体部内面および見込みナデ。体部内面数条のヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺弱いナデ。	淡灰色～暗灰色	密	良好	ほぼ完形 外面に重ね焼痕
373	瓦器 椀	13.0 3.5 高台径 4.0 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面数条のヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	灰黒色	密	良好	1/4以上

遺物番号 図版番号	器　種	(cm)　口径 法量　器高	成　形　・　調　整　技　法	色　調	胎　土	焼　成	備　考 遺存率
374	瓦器 椀	14.3 3.5 高台径 3.3 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧成形後ナデ。体部内面粗いヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	暗灰色	密	良好	¼
375	瓦器 椀	13.8 3.9 高台径 3.3 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面粗いヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	暗灰色	密	良好	¼以上
376 三七	瓦器 椀	14.1 3.4 高台径 4.4 高台高 0.1	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧成形後ナデ。体部内面粗いヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺弱いナデ。	暗灰色	密	良好	完形
377	瓦器 椀	14.2 4.2 高台径 3.7 高台高 0.3	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面数条のヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺弱いナデ。体部外面粘土結合痕遺存。	灰色～灰黒色	密	良好	ほぼ完形 外面に重ね焼痕
378 三七	瓦器 椀	14.4 4.2 高台径 3.3 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧成形後ナデ。体部内面数条のヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	淡灰色～暗灰色	やや粗	良好	完形 内外面に重ね焼痕
379	瓦器 椀	13.6 3.6 高台径 3.3 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面数条のヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺弱いナデ。外面体部粘土結合痕遺存。	灰白色～灰色	やや粗	良好	ほぼ完形 炭素付着不良
380 三七	瓦器 椀	13.7 3.9 高台径 3.3 高台高 0.3	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面粗いヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺弱いナデ。	灰色～暗灰色	密	良好	ほぼ完形 外面に重ね焼痕
381 三七	瓦器 椀	14.3 4.1 高台径 3.2 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧成形後ナデ。体部内面および見込みナデ。体部内面数条のヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺弱いナデ。	灰色～暗灰色	密	良好	完形 外面に重ね焼痕
382 三七	瓦器 椀	14.0 3.5 高台径 2.8 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面数条のヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	暗灰色	密	良好	½以上
383	瓦器 椀	14.2 3.9 高台径 4.6 高台高 0.3	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧成形後ナデ。体部内面粗いヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	暗灰色	密	良好	½
384	瓦器 椀	12.7 3.8 高台径 3.1 高台高 0.3	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面粗いヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。見込みのヘラミガキの起点にヘラ先による圧痕遺存。高台部周辺ヨコナデ。	灰色～暗灰色	密	良好	¼以上 外面に重ね焼痕
385 三七	瓦器 椀	14.2 3.5 高台径 2.8 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧成形後ナデ。体部内面および見込みナデ。体部内面粗いヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	灰白色～暗灰色	密	良好	½以上 内外面に重ね焼痕
386 三八	瓦器 椀	13.4 3.6 高台径 3.0 高台高 0.3	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧成形後ナデ。体部内面粗いヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。見込みのヘラミガキの起点にヘラ先による圧痕あり。高台部周辺ナデ。	灰色～暗灰色	密	良好	½以上
387	瓦器 椀	14.4 3.8 高台径 3.9 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面粗いヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺弱いナデ。	灰白色～灰黒色	密	良好	½以上 内外面に重ね焼痕

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存率
388	瓦器 椀	13.5 3.5 高台径 2.7 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面および見込みナデ。体部内面粗いヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	灰白色～暗灰色	やや粗	良好	½以上 外面に重ね焼痕
389 三八	瓦器 椀	14.1 3.7 高台径 3.2 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面粗いヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	灰白色～暗灰色	密	良好	ほぼ完形 外面に重ね焼痕
390 三八	瓦器 椀	14.0 3.9 高台径 3.5 高台高 0.3	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面粗いヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	灰黒色	やや粗	良好	ほぼ完形
391 三八	瓦器 椀	13.5 3.5 高台径 3.8 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面粗いヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺弱いナデ。	灰白色～灰黒色	密	良好	完形 外面に重ね焼痕
392 三八	瓦器 椀	14.2 3.2 高台径 2.6 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧成形後ナデ。体部内面粗いヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	灰色～灰黒色	やや粗	良好	完形 外面に重ね焼痕
393 三八	瓦器 椀	14.2 3.6 高台径 3.3 高台高 0.3	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧成形後ナデ。体部内面粗いヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	灰黒色	密	良好	ほぼ完形
394 三九	瓦器 椀	13.9 3.6 高台径 3.3 高台高 0.3	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧成形後ナデ。体部内面粗いヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	灰白色～暗灰色	密	良好	ほぼ完形 内外面に重ね焼痕
395 三九	瓦器 椀	14.2 3.6 高台径 3.7 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧成形後ナデ。体部内面粗いヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	灰白色～暗灰色	密	良好	½ 内外面に重ね焼痕
396	瓦器 椀	14.1 3.5 高台径 3.4 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面粗いヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	灰黒色	密	良好	½ 外面に重ね焼痕
397	瓦器 椀	14.6 4.1 高台径 3.5 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面粗いヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。体部外面に粘土結合痕遺存。	灰白色～暗灰色	密	良好	完形 外面に重ね焼痕
398	瓦器 椀	13.7 3.7 高台径 3.6 高台高 0.1	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面数条のヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	乳白色	密	良好	完形 炭素付着不良
399	瓦器 椀	13.6 4.0 高台径 3.2 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面粗いヘラミガキ。見込みジグザグ状ヘラミガキ。高台部周辺弱いナデ。	灰白色～灰色	密	良好	¼以上 炭素付着不良
400 三九	瓦器 椀	13.5 3.6 高台径 3.5 高台高 0.3	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧成形後ナデ。体部内面粗いヘラミガキ。見込みジグザグ状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	灰色～灰黒色	やや粗	良好	完形 外面に重ね焼痕
401	瓦器 椀	14.3 3.7 高台径 3.1 高台高 0.4	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面数条のヘラミガキ。見込みジグザグ状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	灰色～灰黒色	やや粗	良好	½

遺物番号 図版番号	器　種	(cm)　口径 法量　器高	成　形　・　調　整　技　法	色　調	胎　土	焼　成	備　考 遺存率
402	瓦器 椀	14.8 3.9 高台径 3.5 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面および見込みナデ。体部内面粗いヘラミガキ。見込みジグザグ状ヘラミガキ。高台部周辺弱いナデ。	灰白色～灰黒色	密	良好	½以上 内外面に重ね焼痕
403 三九	瓦器 椀	13.8 3.1 高台径 3.2 高台高 0.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面指頭圧成形後ナデ。体部内面ナデ。体部内面数条のヘラミガキ。見込みジグザグ状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	灰白色～灰黒色	密	良好	ほぼ完形 内外面に重ね焼痕
404	瓦器 椀	13.8 3.8 高台径 4.0 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧成形後ナデ。体部内面粗いヘラミガキ。見込み連結輪状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	灰白色～暗灰色	密	良好	ほぼ完形 外面に重ね焼痕
405	瓦器 椀	14.3 3.6 高台径 3.6 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。内面体部粗いヘラミガキ。見込み連結輪状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	灰白色～灰黒色	密	良好	ほぼ完形 内外面に重ね焼痕
406	瓦器 椀	14.4 3.8 高台径 3.6 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧成形後ナデ。体部内面粗いヘラミガキ。見込み連結輪状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	灰白色～暗灰色	密	良好	ほぼ完形 内外面に重ね焼痕
407	瓦器 椀	14.1 3.8 高台径 4.0 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧成形後ナデ。体部内面粗いヘラミガキ。見込み連結輪状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	灰白色～暗灰色	密	良好	½以上 内外面に重ね焼痕
408 三九	瓦器 椀	13.9 3.8 高台部 2.8 高台高 0.3	口縁部外面ヨコナデ。外面体部指頭圧痕遺存。内面体部から見込みにかけてナデ。内面体部数条のヘラミガキ。見込み連結輪状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	灰白色～黒色	密	良好	ほぼ完形 内外面に重ね焼痕
409	瓦器 椀	14.6 3.5 高台径 3.8 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧成形後ナデ。体部内面粗いヘラミガキ。見込み連結輪状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。体部外面粘土結合痕遺存。	灰白色～暗灰色	やや粗	良好	½以上 内外面に重ね焼痕
410	瓦器 椀	14.8 3.3 高台径 3.6 高台高 0.3	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧成形後ナデ。体部内面および見込みナデ。体部内面粗いヘラミガキ。見込み連結輪状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	灰白色～暗灰色	やや粗	良好	½以上 内外面に重ね焼痕
411 三九	瓦器 椀	14.2 3.7 高台径 3.7 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面および見込みナデ。体部内面数条のヘラミガキ。見込み連結輪状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	暗灰色	やや粗	良好	½以上
412 四〇	瓦器 椀	14.4 3.8 高台径 4.2 高台高 0.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面指頭圧成形後ナデ。体部内面粗いヘラミガキ。見込み連結輪状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	灰白色～灰黒色	密	良好	½以上 内外面に重ね焼痕
413 四〇	瓦器 椀	14.5 3.5 高台径 3.3 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧成形後ナデ。体部内面および見込みナデ。体部内面数条のヘラミガキ。見込み連結輪状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	灰黒色	密	良好	½以上
414	瓦器 椀	14.2 4.1 高台径 3.9 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧成形後ナデ。内面見込みから体部にかけて渦巻き状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	淡灰色～暗灰色	密	良好	½以上 外面に重ね焼痕
415	瓦器 椀	14.3 3.7 高台径 3.2 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧成形後ナデ。内面見込みから体部にかけて渦巻き状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	灰色～暗灰色	密	良好	½ 内外面に重ね焼痕

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存率
416	瓦器 椀	14.0 3.7 高台径 4.4 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。内面見込みから体部にかけて渦巻き状ヘラミガキ。高台部周辺弱いナデ。	灰白色～暗灰色	密	良好	ほぼ完形 外面に重ね焼痕
417 四〇	瓦器 椀	13.9 4.1 高台径 3.2 高台高 0.3	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧成形後ナデ。内面体部および見込みナデ。内面見込みから体部にかけて渦巻き状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	灰白色～灰黒色	密	良好	ほぼ完形 外面に重ね焼痕
418 四〇	瓦器 椀	13.5 3.8 高台径 3.6 高台高 0.3	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。内面体部および見込みナデ。体部内面見込みから体部にかけて渦巻き状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	暗灰色	密	良好	完形
419 四〇	瓦器 椀	13.9 3.6 高台径 3.2 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧成形後ナデ。内面見込みから体部にかけて渦巻き状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	灰白色～灰黒色	密	良好	完形 内外面に重ね焼痕
420 四〇	瓦器 椀	14.0 3.9 高台径 3.6 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。内面見込みから体部にかけて渦巻き状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	灰黒色	やや粗	良好	½以上
421	瓦器 椀	14.5 3.7 高台径 3.4 高台高 0.3	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧成形後ナデ。内面見込みから体部にかけて渦巻き状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	淡灰色～暗灰色	密	良好	½以上 外面に重ね焼痕
422	瓦器 椀	14.0 3.6 高台径 3.1 高台高 0.3	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧成形後ナデ。内面見込みから体部にかけて渦巻き状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。内外面に粘土結合痕遺存。	灰黒色	密	良好	ほぼ完形

SP－16

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存率
423	土師器 小皿	8.4 1.3	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰茶色	密	良好	完形
424	瓦器 椀	14.9 －	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面粗いヘラミガキ。	暗灰色	密	良好	⅛
425 三〇	瓦器 足釜	口径 19.6 － 鍔径 24.7	マキアゲ成形。口縁部および体部外面ナデ。鍔部外面ヨコナデ。内面ナデ。体部外面に脚部の貼付け痕遺存。	内面 灰白色 外面 灰白色～暗灰色	やや粗	良好	口縁部および体部上位¼のみ
426 三〇	土師器 土釜	口径 33.1 鍔径 41.3	マキアゲ成形。口縁部内外面、頸部外面および鍔部外面上下ヨコナデ。体部外面ナデ。頸部および体部内面ナデ。	内面 暗灰茶色～淡茶色 外面 淡茶色	やや粗	良好	口縁部および体部上位¼のみ

包含層

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存率
427 四一	弥生土器 壺	14.4 20.0 底径 4.1	マキアゲ成形。口縁部内外面ヨコナデ。頸部および体部外面上位ハケナデ（7条/cm）。体部外面中位風化のため調整不明。下位の一部にハケナデが遺存。体部内面ナデ。下位に板状工具による圧痕が遺存。底部側面指頭圧成形後ナデ。底部外面ナデ。	淡灰褐色～淡灰茶色	粗 石英・長石・角閃石 (0.1～2㎜) を多量に含む	良好	4G～Ⅰ区 Ⅳ層 口縁部 ½欠損
428 四一	弥生土器 壺	15.2 24.0 底径 5.0	マキアゲ成形。口縁部内外面ヨコナデ。頸部外面ナデ。頸部内面の一部にハケナデが遺存。体部外面ヘラミガキ。体部内面中位までナデ。底部側面指頭圧成形後ナデ。底部外面ナデ。	淡灰褐色	やや粗 石英・長石・角閃石 (0.1～2㎜) を多量に含む	良好	4G～Ⅰ区 Ⅳ層 ほぼ完形
429 四一	弥生土器 壺	－ － 体部最大径13.9 底径 4.3	マキアゲ成形。体部外面上位ハケナデ。中位以下はナデ。体部内面上位ナデ。中位以下は板状工具によるナデ。底部内面に板状工具による圧痕遺存。底部側面指頭圧成形後ナデ。底部外面ナデ。体部外面上位にヘラによる蕨手文を施す。	内面 暗褐色 外面 淡褐色	やや粗 長石・石英・角閃石 (0.1～0.5㎜) を多量に含む	良好	4G～Ⅰ区 Ⅳ層 体部½
430 四一	弥生土器 壺	－ － 体部最大径29.2	マキアゲ成形。頸部および体部内外面ナデ。体部上位に3条の櫛描き直線文を施し、各直線文間に櫛描き波状文を2条施す。直線文は上位より6本/1.0㎝、6本/0.8㎝、6本/1.1㎝、を数え、波状文はともに6本/0.8㎝を数える。	内面 灰褐色～淡褐色 外面 淡褐色	やや粗 石英・長石・角閃石 (0.1～1㎜) を多量に含む	良好	6E区Ⅲ層 体部下半部 ¼
431	弥生土器 壺	－ － 底径 5.5	マキアゲ成形。体部内面ナデ。底部内面板状工具による圧痕が遺存。体部外面ヘラミガキ。底部側面指頭圧成形後ナデ。底径外面ナデ。	内面 暗褐色 外面 淡褐色	やや粗 長石・石英 (0.1～1㎜) を多量に含む	良好	5F区Ⅲ層 体部下半部 ¼
432	弥生土器 壺	－ － 底径 4.4	マキアゲ成形。底部内面板状工具による圧痕が遺存。底部側面指頭圧成形後ナデ。底部外面ナデ。	内面 乳灰茶色 外面 淡明茶色	密	良好	3J区Ⅲ層 底部のみ
433	弥生土器 壺	－ － 底径 4.5	マキアゲ成形。底部内面ナデ。底部側面指頭圧成形後ナデ。底部外面ナデ。	内面 淡茶色 外面 淡赤茶色	やや粗 長石・石英 (0.1～0.5㎜) を含む	良好	3J区Ⅲ層 底部のみ
434	弥生土器 壺	－ － 底径 4.9	マキアゲ成形。底部側面指頭圧成形後ナデ。底部内面板状工具による圧痕が遺存。底部外面ナデ。	淡灰茶色	やや粗 長石・石英 を含む	良好	4G～Ⅰ区 Ⅳ層 底部のみ
435	弥生土器 壺	－ － 底径 4.5	マキアゲ成形。体部外面下位ヘラミガキ。底部側面指頭圧成形後ナデ。底部内面に板状工具による圧痕が遺存。底部外面ナデ。	淡茶色	やや粗 長石・石英 を含む	良好	4G～Ⅰ区 Ⅳ層 底部のみ
436 四一	弥生土器 甕	15.3 －	マキアゲ成形。内外面ともに風化のため調整不明。	淡灰茶色～淡明茶色	粗 長石・石英 (0.5～2㎜) を多量に含む	良好	3K区Ⅲ層 上半部¼
437	弥生土器 甕	－ － 底径 3.9	マキアゲ成形。底部内面ナデ。底部側面指頭圧成形後一部にタタキメを残す。底部外面ナデ。	淡灰茶色	やや粗 長石・石英 (0.5～1㎜) を含む	良好	3J区Ⅲ層 底部のみ
438	弥生土器 甕	－ － 底径 4.3	マキアゲ成形。底部内面板状工具による圧痕が遺存。体部外面および底部側面タタキ。底部外面ナデ。	内面 暗灰色 外面 淡茶色	やや粗 長石 (0.1～0.5㎜) を含む	良好	3J区Ⅲ層 底部のみ

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存率
439	弥生土器 鉢	15.3 7.1 底径 4.4	マキアゲ成形。内面ハケナデ（11本/cm）。外面ナデ。底部側面指頭圧成形後ナデ。底部外面ナデ。	淡明茶色～ 淡灰茶色	やや粗 長石・石英 (0.5～2㎜) を多量に含む	良好	5F区Ⅲ層 ¼
440 四一	弥生土器 底部有孔 土器	－ － 底径 5.3	マキアゲ成形。体部および底部内面ハケナデ（6本/cm）。体部外面ナデ。底部外面指頭圧成形後ナデ。底部外面ナデ。底部に焼成後の円孔(0.9cm)が内から外へ向って穿たれている。	内面 灰黒色 外面 灰茶色	やや粗 石英・角閃石 (0.1～1㎜) を多量に含む	良好	5E区Ⅲ層 ½
441	弥生土器 高杯	21.4 －	マキアゲ成形。口縁部内外面ナデ。他は風化のため調整不明。	淡明茶色～ 乳灰色	やや粗 石英・長石 (0.5～2㎜) を多量に含む	良好	3I区Ⅲ層 杯部⅙
442 四一	弥生土器 高杯	－ － 裾径 8.1	マキアゲ成形。杯部内面ナデ。杯部外面および柱状部外面ヘラミガキ。裾部外面上位ヘラミガキ。下位ヨコナデ。柱状部および裾部内面ナデ。裾部上位の四方に透孔を穿つ。	淡灰茶色	やや粗	良好	3I区Ⅲ層 脚部のみ
443 四一	弥生土器 高杯	－ －	マキアゲ成形。杯部内面不明。柱状部内面シボリメ。裾部内面ハケナデ。外面ヘラミガキ。裾部上位に透孔が一個のみ遺存。	淡灰褐色	やや粗	良好	4G～I区 Ⅳ層 脚部のみ
444 四一	弥生土器 高杯	－ － 裾径 11.8	マキアデ成形。柱状部内面シボリメ。柱状部外面および裾部内外面ナデ。裾部上位の三方に透孔を穿つ。	赤茶色	やや粗	良好	4G～I区 Ⅳ層 脚部のみ
445	弥生土器 高杯	－ －	マキアゲ成形。外面はナデ。裾部内面に板状工具による圧痕が遺存。裾部上位の四方に透孔を穿つ。	淡茶色	やや粗 長石・石英 (0.1～1㎜) を多量に含む	良好	5F区Ⅲ層 柱状部のみ
446 四二	弥生土器 高杯	－ － 裾径 14.2	マキアゲ成形。杯部内外面および柱状部・裾部外面中位ヘラミガキ。裾部外面下位ナデ。柱状部および裾部内面ナデ。裾部上位の四方に透孔を穿つ。	淡灰褐色～ 淡茶色	やや粗 石英・角閃石 (0.1～1㎜) を含む	良好	4G～I区 Ⅳ層 杯部欠損
447 四二	弥生土器 高杯	－ －	マキアゲ成形。内外面ともにナデ。裾部中位の四方に透孔を穿つ。	淡灰褐色	やや粗 長石・石英・角閃石 (0.1～1㎜) を含む	良好	4G～I区 Ⅳ層 体部のみ
448 四二	弥生土器 器台	29.1 －	マキアゲ成形。口縁部内外面ヨコナデ。口縁端部内面に円形竹管文を12個（推定）を施す。口縁端部外面に凹線文を施した後に円形竹管文を施す44個（推定）	淡灰褐色	やや粗 石英・長石・角閃石 を含む	良好	4G～I区 Ⅳ層 口縁部⅙
449 四二	弥生土器 器台		マキアゲ成形。口縁部内面上位ヘラミガキ。下位ヨコナデ。口縁部外面上位ヨコナデ。下位ハケナデ(10本/cm)。口縁端部外面に凹線文を施す。	淡灰褐色	やや粗 石英・長石・角閃石 を含む	良好	4G～I区 Ⅳ層 口縁部¼
450 四二	弥生土器 器台	22.0 －	マキアゲ成形。口縁部および体部内面ナデ。口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラミガキ。口縁端部外面に円形浮文と円形竹管文を二個一対で七組(推定)配す。体部の五方に透孔を穿つ。	淡茶灰色	やや粗 石英・長石 (0.5～3㎜) を含む	良好	3I区Ⅲ層 ½
451 四二	弥生土器 器台	18.8 －	マキアゲ成形。口縁部および体部内面ハケナデ。口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラミガキ。	淡茶色	やや粗	良好	3K区Ⅲ層 ½
452 四二	弥生土器 器台	－ － 裾径 16.4	マキアゲ成形。体部および裾部内面ナデ。体部外面ヘラミガキ。裾部外面ナデ。体部上位の四方に透孔を穿つ。	淡茶色	やや粗 石英・長石 を含む	良好	4G～I区 Ⅳ層 ½

遺物番号 図版番号	器　種	(cm)　口径 法量　器高	成　形　・　調　整　技　法	色　調	胎　土	焼　成	備　考 遺存率
453 四二	弥生土器 器台	－ － 裾径　23.5	マキアゲ成形。体部および裾部内面ナデ。体部外面下半および裾部外面ヘラミガキ。裾端部内外面ヨコナデの後外面にキザミメ。体部下位の五方と中位の三方に透孔を穿つ。	淡茶色	やや粗 石英・長石 (0.5～1㎜) を含む	良好	3Ⅰ区Ⅲ層 ½
454	石包丁	長さ　6.8 幅　4.6 厚さ　0.6 重量　30ｇ	緑泥片岩。半月型直線刀。紐孔は一孔のみ遺存。 法量は全て現存量大値である。	灰緑色	－	－	4G区Ⅲ層 ½
455	須恵器 杯身	12.9 － 受部径15.0	マキアゲ・ミズビキ成形。杯部内底面ナデ。受部内外面および杯部内面回転ナデ。外面全体に自然釉付着のため調整不明。	内面 淡灰色 外面 暗灰色	やや粗	堅緻	3K区Ⅲ層 ¼以上 陶片付着
456	須恵器 杯身	14.4 － 受部径17.2	マキアゲ・ミズビキ成形。外面受部端より2.3㎝以下回転ヘラケズリ。その他回転ナデ。	内面 灰青色 外面 暗灰色	密	堅緻	4D区Ⅲ層 ¼ 外面に灰 かぶり
457	須恵器 杯身	11.2 4.1 高台径 7.8 高台高 0.5	マキアゲ・ミズビキ成形。内外面ともに回転ナデ。高台部貼り付け。	灰色	密	堅緻	2E区Ⅲ層 ¼
458	円筒埴輪	－ －	マキアゲ成形。体部外面ヨコハケ(8本/㎝)。タガ外面ヨコナデ。体部内面タテハケ(8本/㎝)。	乳灰色～明茶色	やや粗 長石・石英 を含む	良好	5B区Ⅲ層
459	土錘	長さ　5.8 最大径 2.4 孔径　0.9 重量36(ｇ)	手づくね成形。管状形。内外面指頭圧成形後ナデ。	淡灰茶色～淡灰色	やや粗 長石・石英 (0.5～1㎜) を多量に含む	良好	5B区Ⅲ層 ½以上
460	瓦器 椀	13.5 4.0 高台径 2.3 高台高 0.1	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面および見込みナデ。内面体部数条のヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺ナデ。体部外面粘土結合痕遺存。	灰白色～灰黒色	密	良好	1G・2H 区Ⅲ層 ¼ 内外面に 重ね焼痕
461 四三	瓦器 椀	13.3 3.6 高台径 3.9 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧成形後ナデ。体部内面粗いヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺ナデ。	灰白色～暗灰色	密	良好	1G・2H 区Ⅲ層 ½以上 内外面に 重ね焼痕
462 四三	瓦器 椀	14.0 3.6 高台径 2.8 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧成形後ナデ。体部内面および見込みナデ。体部内面数条のヘラミガキ。見込み平行線状ヘラミガキ。高台部周辺ナデ。	灰白色～灰黒色	密	良好	1G・2H 区Ⅲ層 ½ 外面に重ね 焼痕
463 四三	瓦器 椀	14.0 3.9 高台径 3.9 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。内面は渦巻き状ヘラミガキ。高台部周辺ナデ。体部外面粘土結合痕遺存。	灰色～灰黒色	密	良好	1G・2H 区Ⅲ層 ほぼ完形。 外面に重ね 焼痕
464 四三	瓦器 椀	14.2 3.8 高台径 3.5 高台高 0.3	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。内面は渦巻き状ヘラミガキ。高台部周辺ナデ。体部外面粘土結合痕遺存。	灰白色～灰黒色	密	良好	1G・2H 区Ⅲ層 ½以上 外面に重ね 焼痕
465	瓦器 椀	14.6 －	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。内面見込みから体部にかけて渦巻き状ヘラミガキ。	暗灰色	密	良好	1G・2H 区Ⅲ層 ¼
466	瓦器 椀	14.0 4.3 高台径 2.7 高台高 0.3	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。内面見込みから体部にかけて渦巻き状ヘラミガキ。高台部周辺ナデ。	暗灰色～灰黒色	密	良好	1G・2H 区Ⅲ層 ¼ 内面に油煙

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存率
467	瓦器 椀	13.8 3.8 高台径 2.7 高台高 0.3	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。内面見込みから体部にかけて渦巻き状ヘラミガキ。高台部周辺ナデ。	灰白色～暗灰色	やや粗	良好	1G・2H区Ⅲ層 ½以上 内外面に重ね焼痕
468 四三	瓦器 椀	13.0 3.2 高台径 3.8 高台高 0.2	口縁部外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕遺存。体部内面粗いヘラミガキ。見込み連結輪状ヘラミガキ。高台部周辺ナデ。	灰白色～灰黒色	密	良好	1G・2H区Ⅲ層 ½
469	瓦器 小皿	10.7 2.5	手づくね成形。口縁部外面ヨコナデ。底部外面ナデ。体部内面密なヘラミガキ。見込み格子状＋平行線状ヘラミガキ。	暗灰色	やや粗	良好	3K区Ⅲ層 ¼
470 四三	白磁 碗	12.9 —	ロクロ成形。玉縁状口縁部。口縁内外面および体部内面ロクロナデ。体部外面カンナケズリ。体部外面下半は露胎。	釉色 乳灰色 磁胎 白色	密	堅緻	4B・C区Ⅲ層 口縁部⅛ 貫入あり
471	白磁 碗	12.9 —	ロクロ成形。玉縁状口縁部。口縁内外面および体部内面ロクロナデ。体部外面カンナケズリ。	釉色 灰白色 磁胎 白色	密	堅緻	4B・C区Ⅲ層 口縁部⅙
472 四三	白磁 碗	14.2 —	ロクロ成形。内外面ロクロナデ。	釉色 灰白色 磁胎 白色	密	堅緻	3B区Ⅲ層 口縁部⅛
473	陶器 碗	— — 高台径 6.0 高台高 0.7	ロクロ成形。体部内外面ロクロナデ。高台部カンナ削り。高台部内面端部に段状の沈線が廻る。	釉色 緑灰色 素地 灰色	密	堅緻	3B区Ⅲ層 底部½
474	土師器 小皿	8.2 1.6	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡明茶色	やや粗 長石・石英 (0.1～0.5mm) を含む	良好	4D区Ⅲ層 ½
475	土師器 小皿	7.8 1.5	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰色	密	良好	2E区Ⅲ層 ¼以上
476 四四	土師器 小皿	7.6 1.6	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。口縁部外面粘土結合痕遺存。	淡茶灰色～淡灰茶色	密	良好	1G・2H区Ⅲ層 完形
477	土師器 小皿	8.2 1.4	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。	淡灰色	やや粗	良好	1G・2H区Ⅲ層 ½
478 四四	土師器 小皿	8.2 1.4	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰色	密	良好	1G・2H区Ⅲ層 ほぼ完形
479 四四	土師器 小皿	7.8 1.4	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰茶色	やや粗 長石・雲母 (0.1～1mm) を含む	良好	1G・2H区Ⅲ層 ほぼ完形
480 四四	土師器 小皿	8.0 1.3	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡茶灰色～淡灰色	密	良好	1G・2H区Ⅲ層 ほぼ完形

遺物番号 図版番号	器　種	(cm)　口径 法量　器高	成　形　・　調　整　技　法	色　調	胎　土	焼　成	備　考 遺存率
481	土師器 小皿	7.9 1.4	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。	淡灰色	密	良好	1G・2H 区Ⅲ層 ¼
482 四四	土師器 小皿	7.8 1.2	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。	淡明茶色	密	良好	1G・2H 区Ⅲ層 ほぼ完形
483 四四	土師器 小皿	7.8 1.4	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。	淡明茶色～ 淡灰茶色	やや粗 長石・雲母 (0.1～0.5㎜) を含む	良好	1G・2H 区Ⅲ層 ½以上
484 四四	土師器 小皿	8.1 1.4	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰色	密	良好	1G・2H 区Ⅲ層 ½
485 四四	土師器 小皿	8.4 1.5	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。	淡灰茶色～ 乳灰色	やや粗	良好	1G・2H 区Ⅲ層 完形
486 四四	土師器 小皿	8.0 1.3	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。底部外面に粘土結合痕遺存。	淡灰色	密	良好	2E区Ⅲ層 ½
487 四四	土師器 小皿	7.6 1.0	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡明茶色	密	良好	1・2F区 Ⅲ層 完形
488	土師器 中皿	12.6 2.0	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。底部外面に粘土結合痕遺存。	淡茶灰色	やや粗 長石 (0.1～0.5㎜) を含む	良好	1G・2H 区Ⅲ層 ½以上
489	土師器 中皿	11.4 2.5	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面板状工具によるナデ。	淡明茶色	やや粗 長石・石英 (0.5～2㎜) を含む	良好	1G・2H 区Ⅲ層 ¼以上
490 四四	土師器 中皿	12.7 2.0	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。	淡灰茶色	やや粗	良好	1G・2H 区Ⅲ層 ½以上
491	土師器 中皿	12.4 1.8	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。	乳灰色	やや粗	良好	1G・2H 区Ⅲ層 ¼
492 四四	土師器 中皿	11.6 2.2	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ハケナデ。底部外面ナデ。底部外面粘土結合痕遺存。	淡明茶色	やや粗	良好	1G・2H 区Ⅲ層 完形
493 四四	土師器 中皿	12.3 2.0	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。底部外面粘土結合痕遺存。	淡灰茶色	やや粗 長石・クサリ礫 (0.1～0.5㎜) を含む	良好	1G・2H 区Ⅲ層 完形
494	土師器 中皿	11.5 1.9	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰色	密	良好	1G・2H 区Ⅲ層 ¼以上

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存率
495 四四	土師器 中皿	12.5 2.1	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡明茶色	やや粗	良好	1・2F区 Ⅲ層 ¼
496	土師器 中皿	12.0 2.8	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。底部外面に粘土結合痕遺存。	淡灰色	やや粗 長石・雲母 (0.1～0.5mm) を含む	良好	1G・2H Ⅲ層 ½
497	土師器 中皿	12.7 —	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰茶色	やや粗 長石・石英 (0.1～0.5mm) を含む	良好	3F区Ⅲ層 ¼
498 四四	土師器 中皿	12.5 2.1	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰茶色	やや粗	良好	1G・2H 区Ⅲ層 完形
499	土師器 中皿	11.6 2.3	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡灰色	やや粗 長石 (0.1～0.5mm) を含む	良好	1G・2H 区Ⅲ層 ¼
500	土師器 中皿	12.8 1.9	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面弱いナデ。底部外面に粘土結合痕遺存。	淡灰茶色	やや粗	良好	1G・2H 区Ⅲ層 ½
501 四四	土師器 中皿	13.7 2.9	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	淡茶灰色	やや粗	良好	2B区 Ⅲ層 ½
502 四四	軒丸瓦	— —	複弁八葉の蓮華文。蓮子は1個のみ遺存。外縁は欠損。裏面はナデ。	暗灰色～灰白色	やや粗	良好	2B区 Ⅲ層 瓦当部⅙
503	軒平瓦	幅 4.6 内区幅 2.2 顎幅 1.7	瓦当面に対して左端部のみ遺存。唐草文。外縁は直立縁。内区と外区の境に界線が廻る。裏面には、板状工具による圧痕が遺存。 法量は全て現存最大値である。	暗灰色～灰白色	やや粗	良好	2B区Ⅲ層 瓦当部⅙

第5章　まとめ

今回の調査では、弥生時代後期・古墳時代後期・平安時代後期～鎌倉時代末期に比定される遺構・遺物を検出した。当遺跡内では、昭和56年以降八尾市教育委員会の試掘調査および発掘調査が断続的に実施されており、調査成果が畜積されつつある。ここでは、これらの既往調査や当調査以後に実施された調査成果を含めて、各時期の推移を考えてみたい。

Ⅰ　弥生時代後期

この時期に比定される遺構としては、溝1条（ＳＤ－1）を検出したのみであるが、遺構検出土層（第Ⅳ層）および包含層からは遺物が多数出土している。特に、遺構検出土層（第Ⅳ層）からは遺構に伴なわないものの、比較的良好な資料が多数出土しており、近隣に同時期の遺構が存在する可能性が高い。

Ⅱ　古墳時代後期

溝1条（ＳＤ－2）を検出したのみで、包含層からも同時期の遺物は極少量であった。なお、本調査地の北西約200ｍの高見町３－64で、八尾市教育委員会が昭和61年に実施した調査では、同時期に比定される掘立住建物３棟と溝が検出されており、同時期の集落の中心を調査地の北方に推定することが可能である。

Ⅲ　平安時代後～鎌倉時代末

11世紀末～12世紀初頭に比定される遺構は、ＳＢ－３・ＳＫ－５・ＳＥ－10で、調査区中央の南部で検出したのみで、ＳＢ－３を中心とした集落構成が考えられる。12世紀中葉においてはＳＥ－13・ＳＫ－３が認められ、遺構がやや西方へ広がったことが窺える。12世紀後～13世紀初頭にかけては、調査区の中央部から東側一帯にＳＢ－２・ＳＥ－１・ＳＥ－３・ＳＫ－２・ＳＫ－４が認められＳＢ－２を中心とした集落構成が考えられる。13世紀中葉にはＳＥ－11が認められる程度であるが、後葉にはＳＢ－１・ＳＥ－２・ＳＥ－８・ＳＫ－７・ＳＤ－14の他**池状遺構**があり集落がやや拡大傾向にあるが、この時期に比定できる掘立柱建物はＳＢ－１の１棟のみである。一方、**池状遺構**については、底面に樹皮を貼る丁寧な作りで、一般的な遺構に比して異彩を放つものである。また、**池状遺構**の底面に樹皮を貼りつける前段階に粘土で床を作っていることから、水を絶えず湛えておくことに重点が置かれた遺構であるものと推定できる。さらに、底面に樹皮が貼られている点からすれば、池浚いが容易であったものと考えられる。従って、これらの点から推測すれば、絶えず清水を湛えておく機能を示したものと考えられる。なお、ＳＥ－８は上面に玉石を貼りつける等、この時期の一般的な集落の井戸に比して構築方法が丁寧であることを考慮すれば、ＳＥ－８・**池状遺構**ともに共通した性格が指

摘できる。また、ＳＥ－８と池状遺構の間が１ｍ程度であることから、ＳＥ－８で汲み上げた水を池状遺構に入れた可能性が高い。以上、これらのことからこの時期の集落の性格を推定すれば、池状遺構を必要とする職掌の集団、ないしは、ＳＥ－８、池状遺構の特殊性を考えれば、祭祀等に関わりをもつ集団等が考えられよう。仮に、後者と考えた場合、同時期の土師器小皿・中皿・瓦器椀を多量に出土したＳＤ－14の存在にも注目されるとともに、調査区の南西150ｍに位置する矢作神社との関連にも注意を払う必要があろう。一方、13世紀末葉には、調査区の南東部を中心として池状遺構を切る形で、ＳＤ－３・ＳＤ－４が存在しており、この時期大規模な土木工事が実施されたことが窺え、調査区の東部一帯で検出した整地もこの時期に実施されたものと推定できよう。

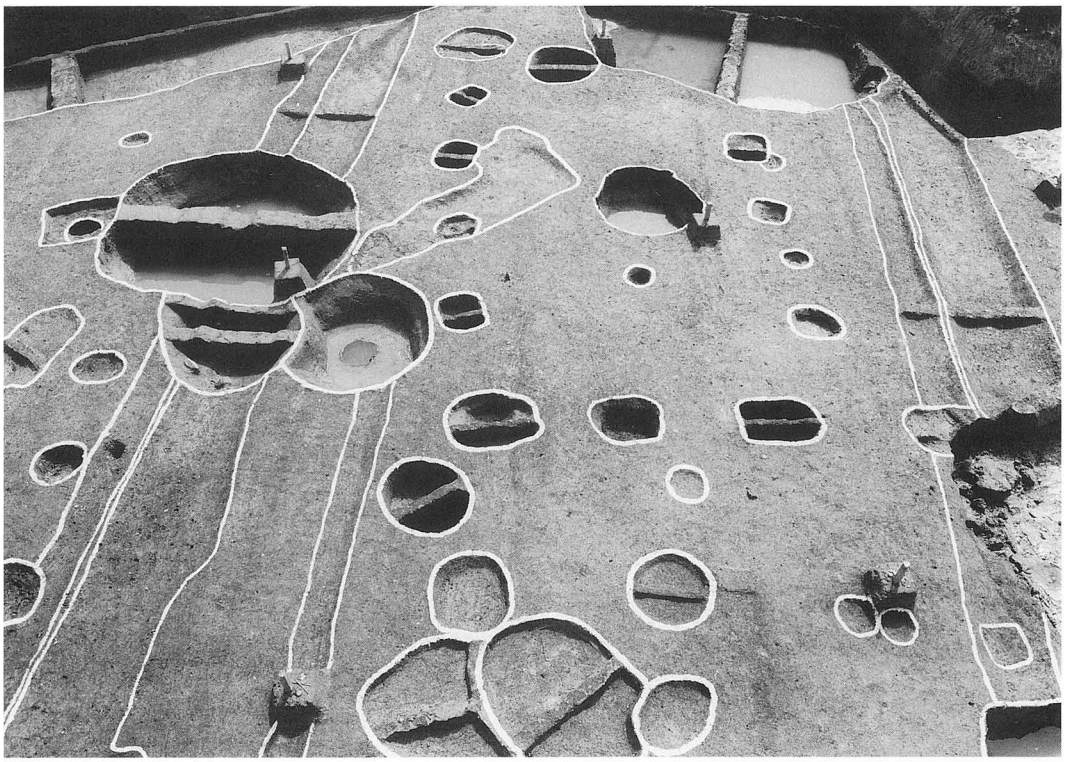
以上の結果から見れば、11世紀末葉～13世紀末葉に至るまで、掘立柱建物１棟を中心とした集落内での推移が認められた。ただ、調査区の南側約50ｍ地点でも13世紀後半の遺構が検出されていることから、今回検出した資料から、この集落の動向がどの程度把握できたかについては問題を残す結果となった。今後、調査例の増加を持ってこれらの諸問題を明確にする必要があろう。

図　　版

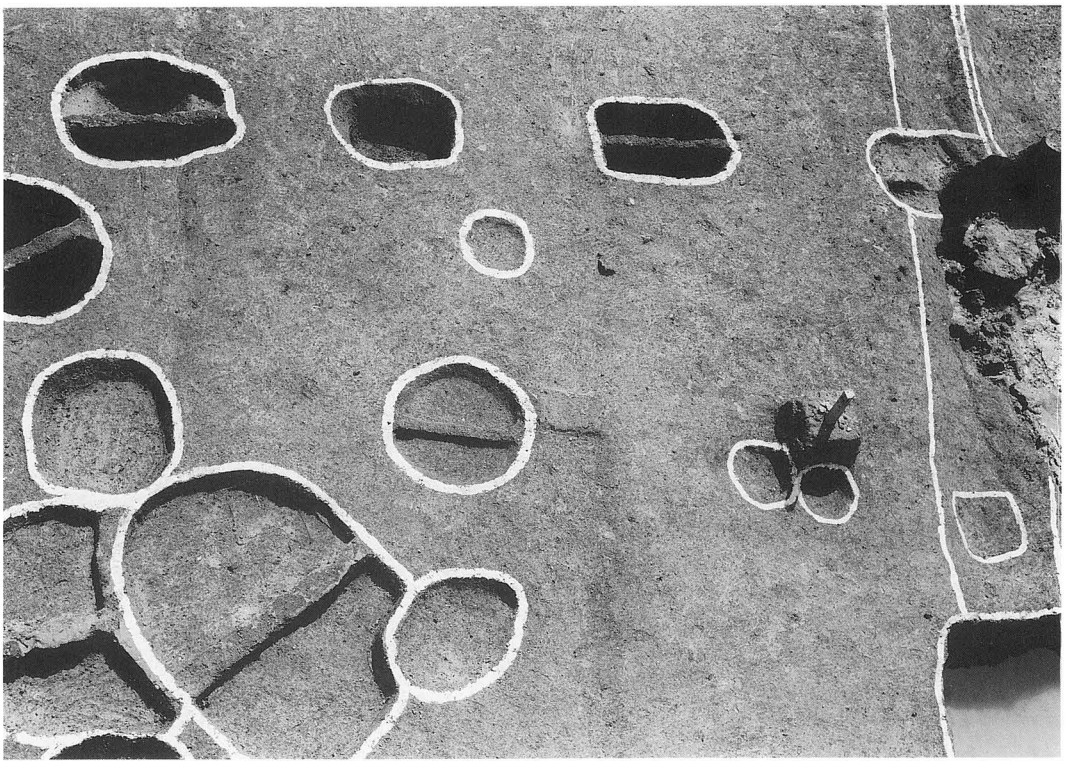
図版一

調査区全景（東から）

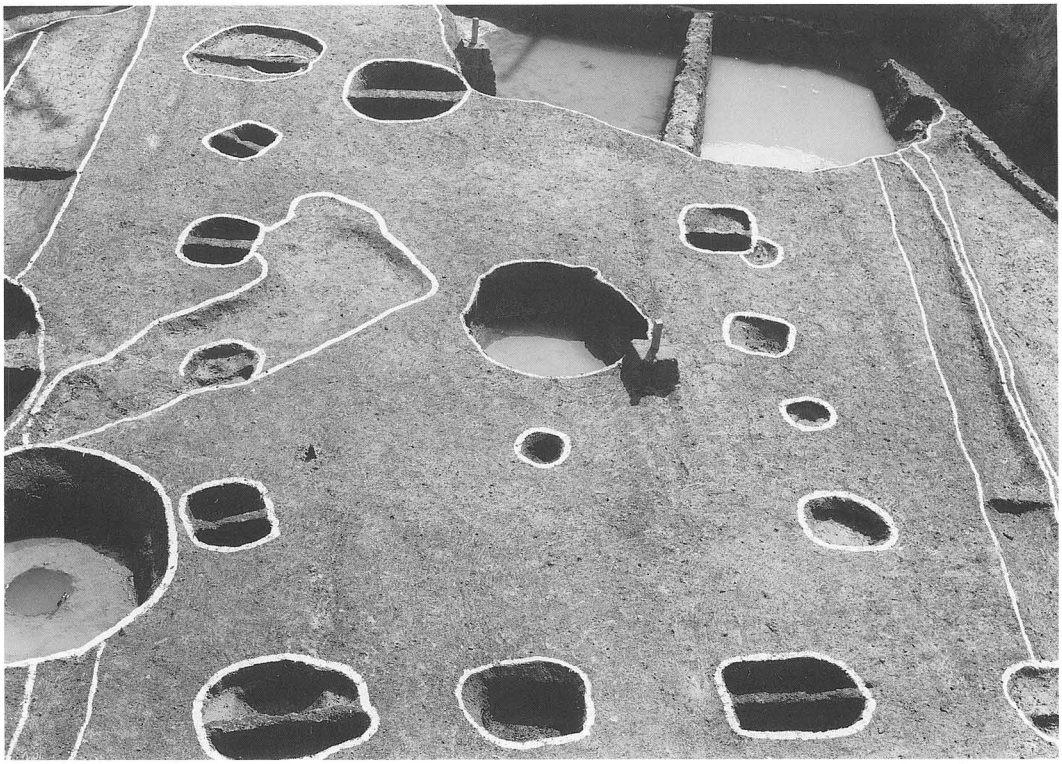
図版二



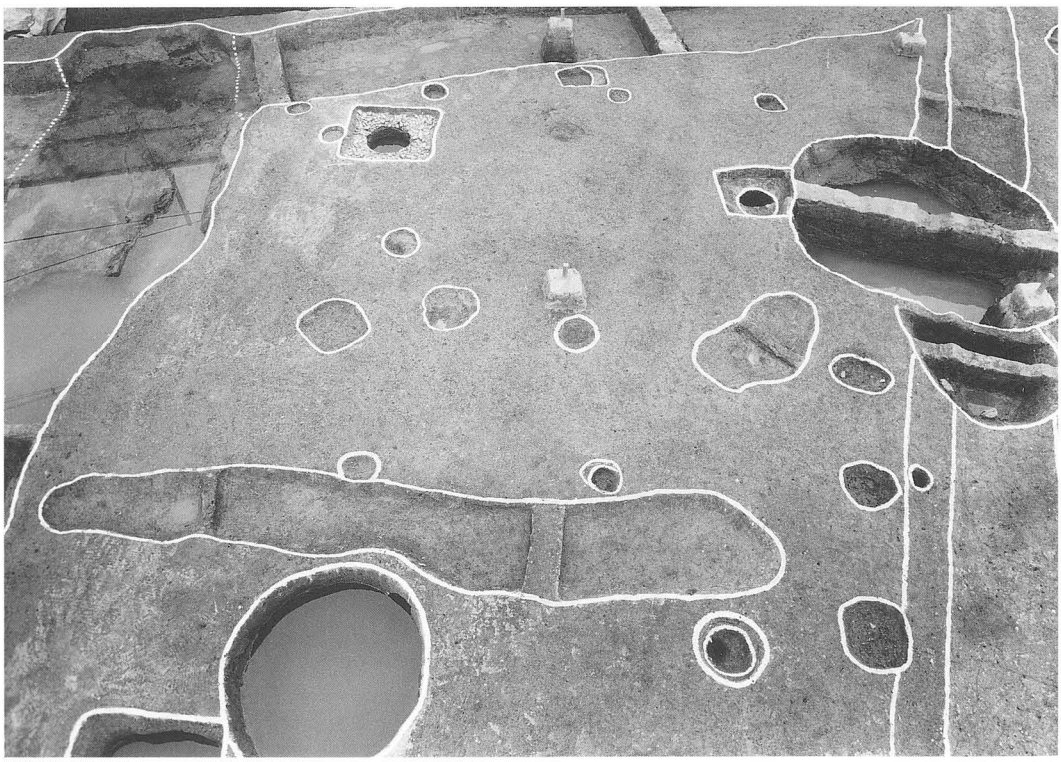
SB-1・SB-2（北から）



SB-1（北から）



SB-2（北から）

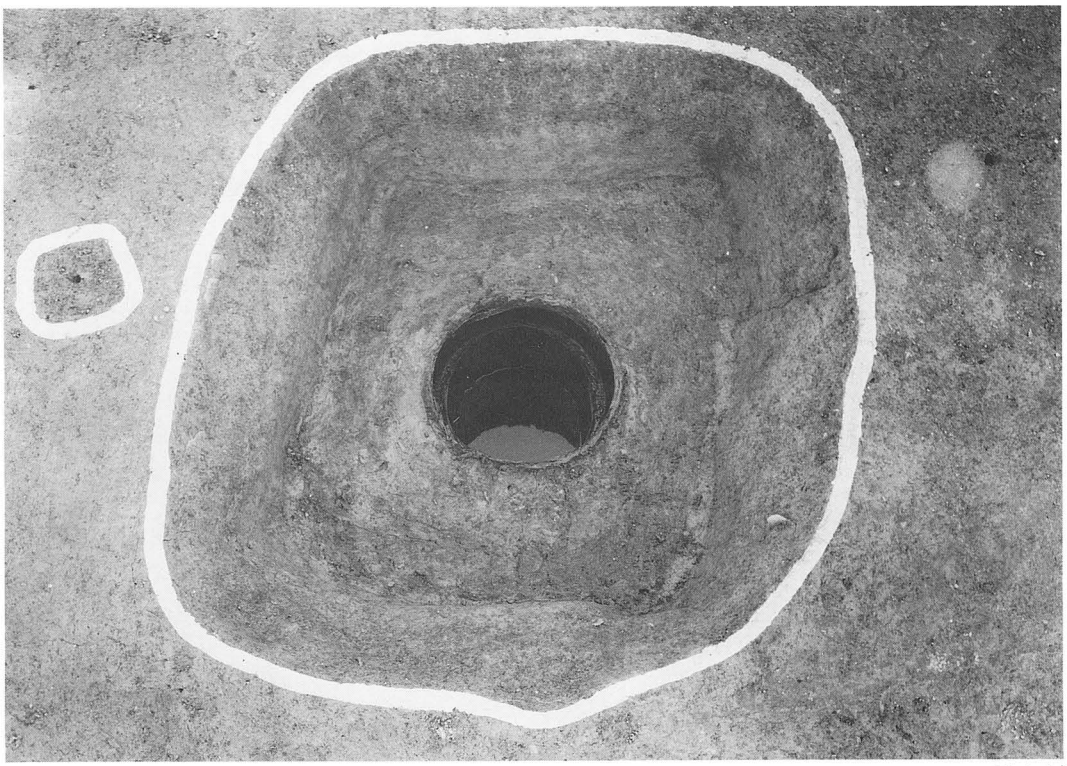


SB-3（北から）

図版四

SE-2（北から）

同上 断面（南から）

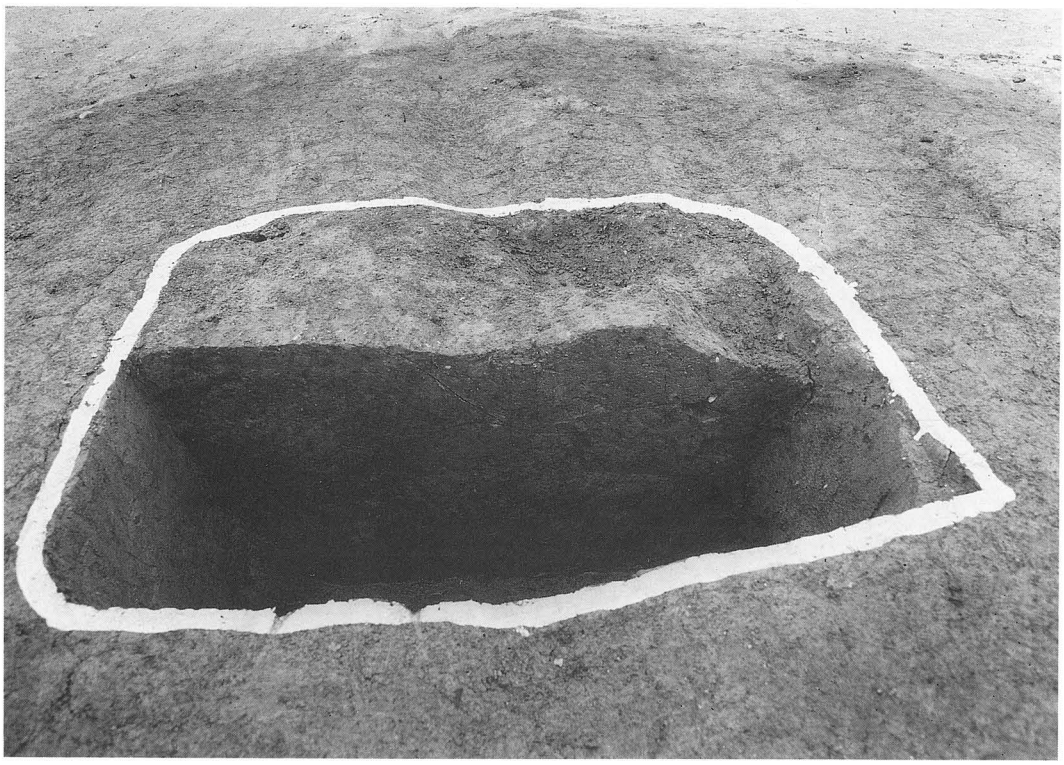


SE-3（北から）

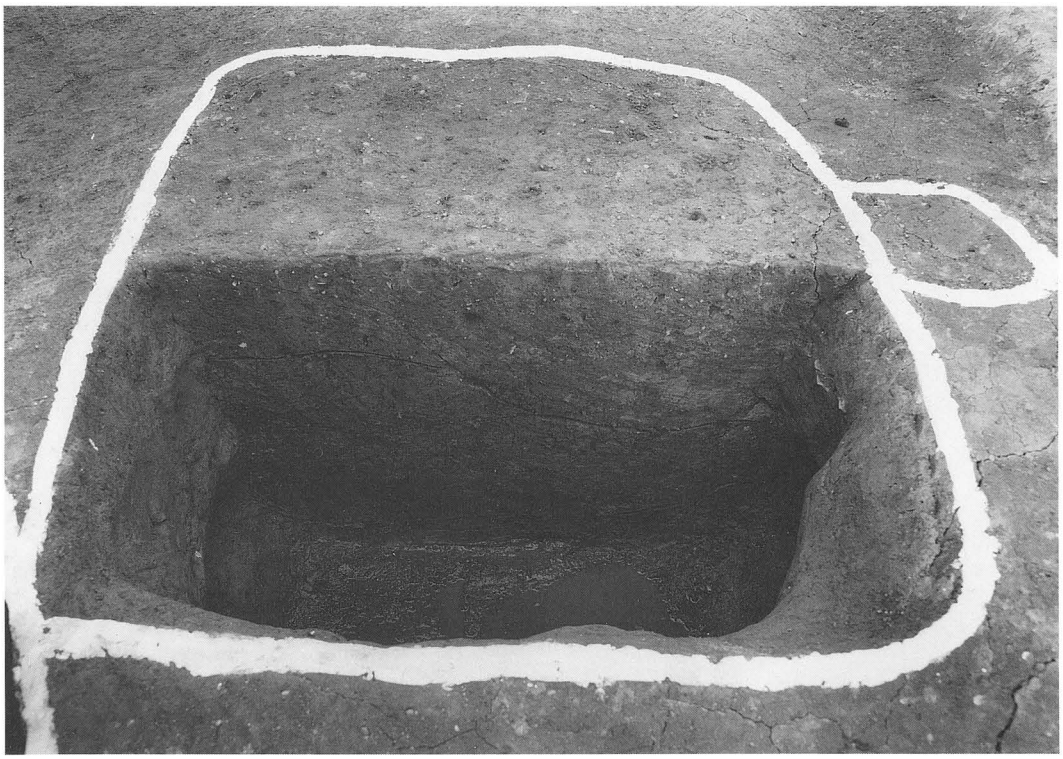
同上 断面（南から）

図版六

SE-4（南から）



SE-5（南から）



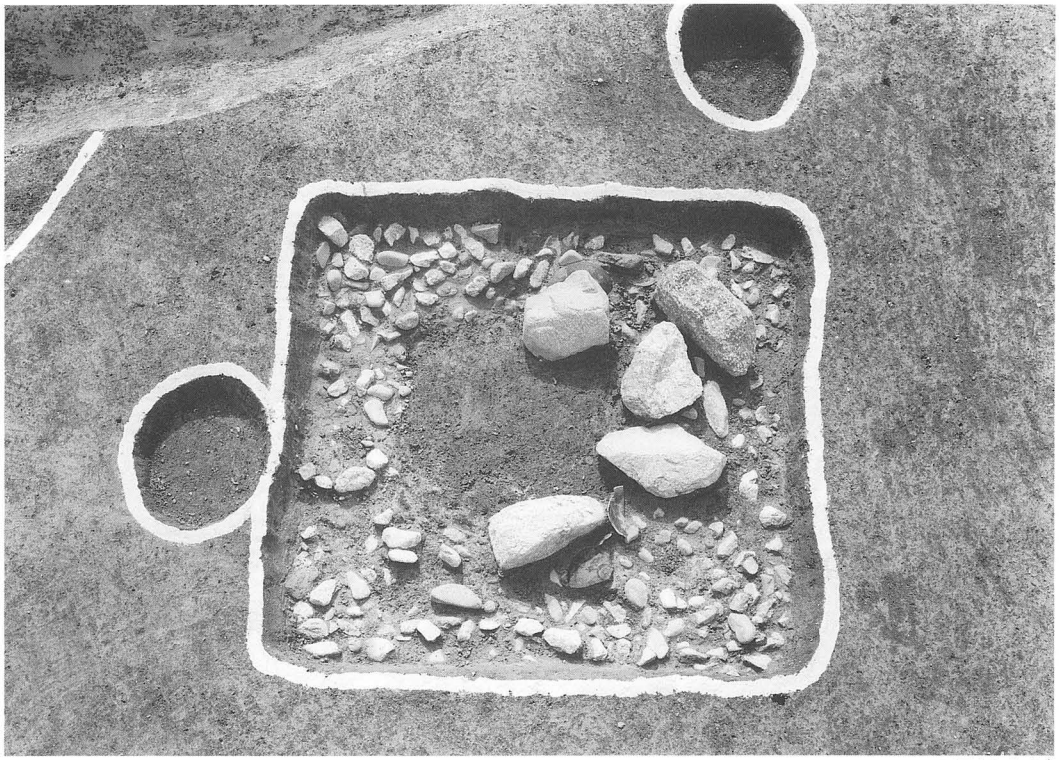
SE-6（南から）

SE-7（西から）

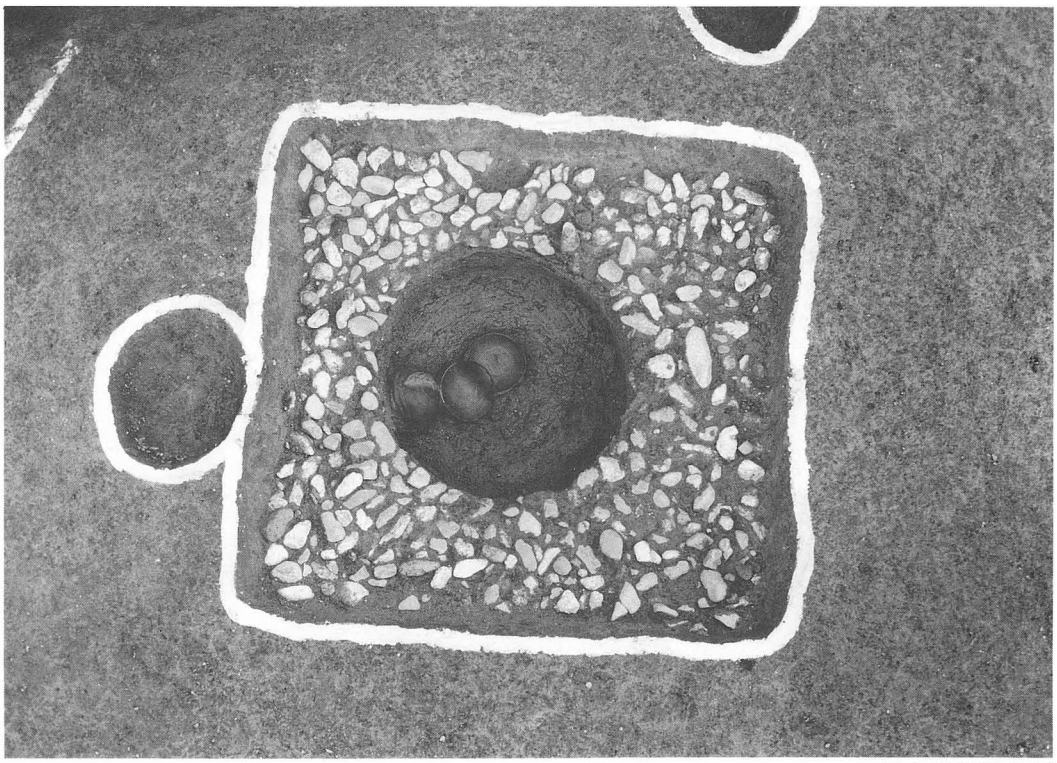
図版八

SE-7（南から）

同上 下駄・毬出土状況（東から）

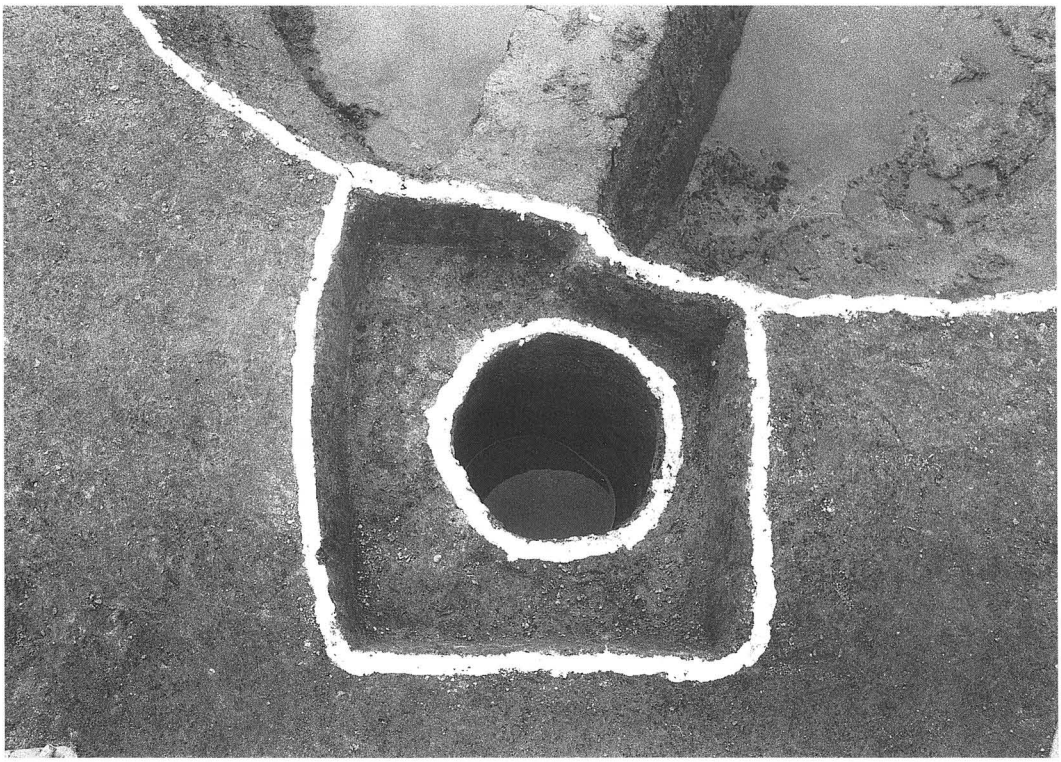


SE-8上面(北から)



同上 完掘(北から)

図版一〇



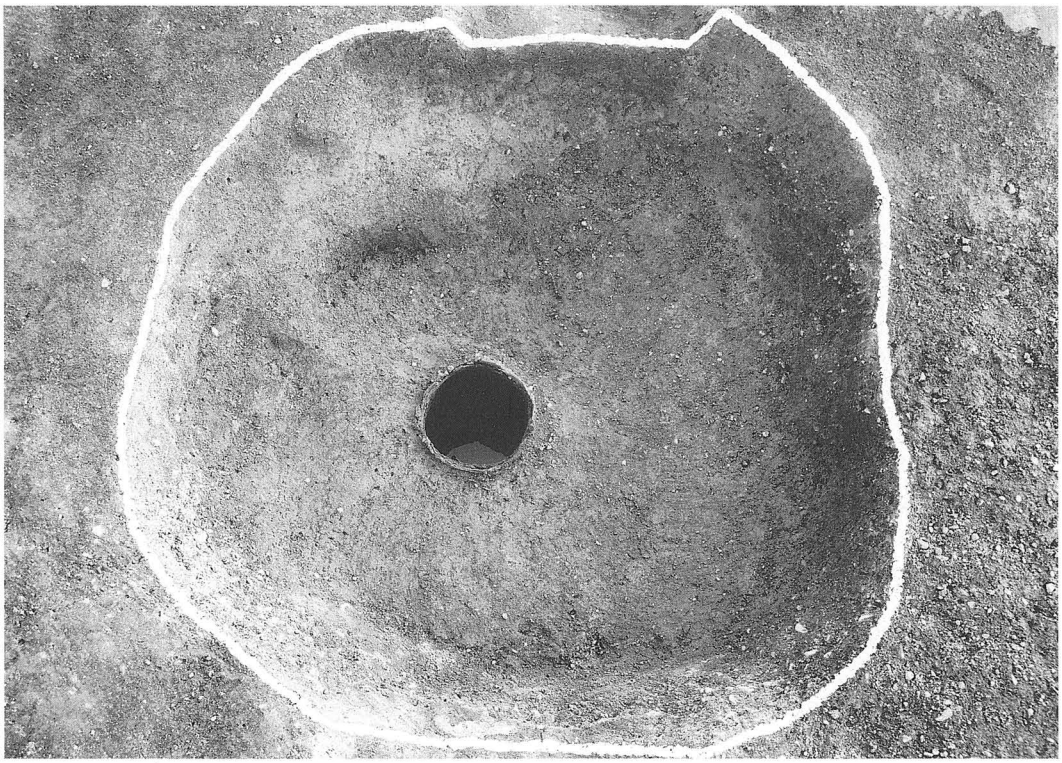
SE-9（東から）

同上 断面（南から）

SE-10（西から）

同上 断面（南から）

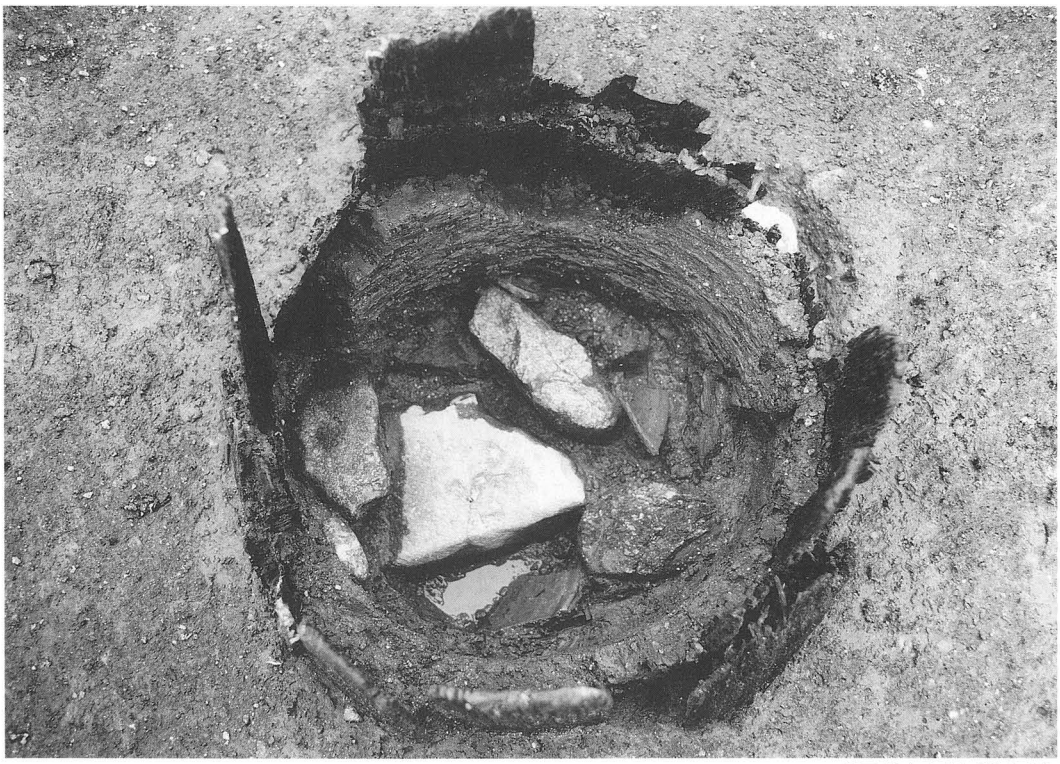
図版一二



SE-11（北から）

同上 断面（北から）

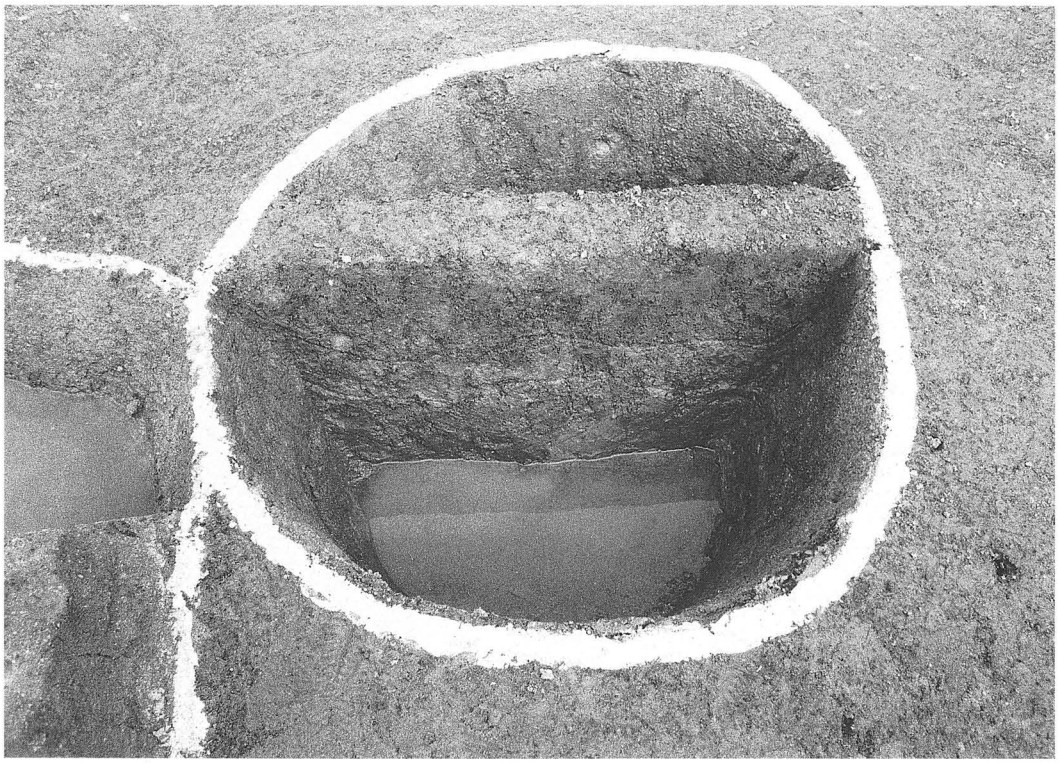
SE-13（北から）



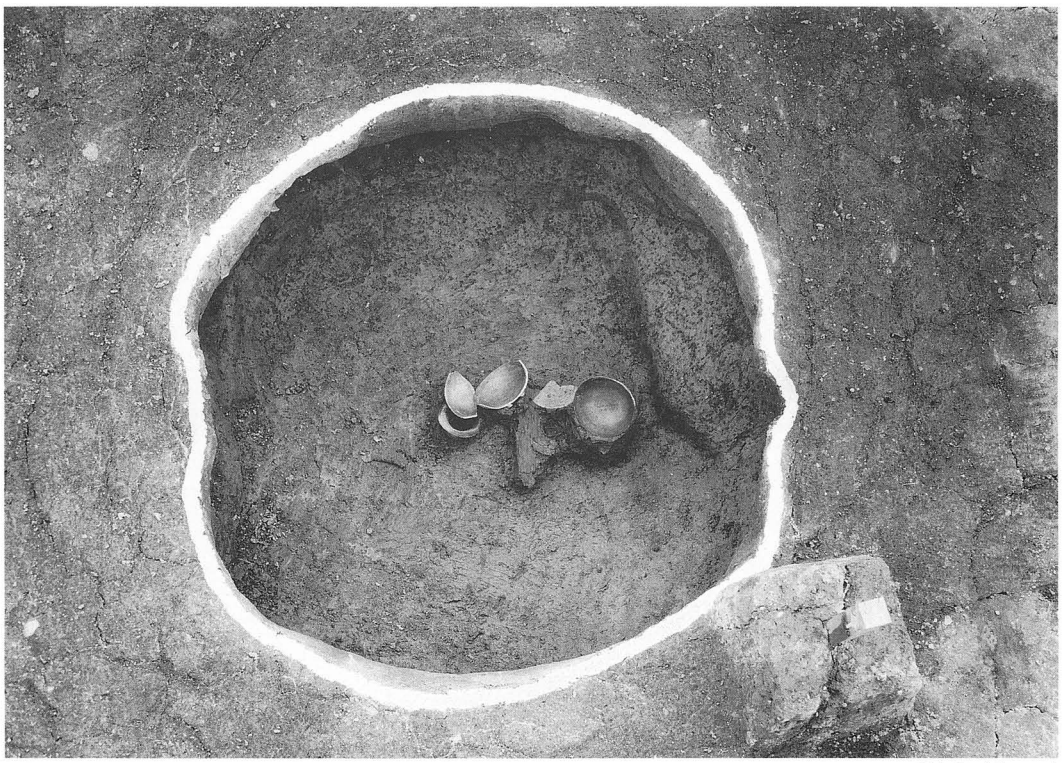
同上 井戸側内上部（北から）

図版一四

SK-4（南から）



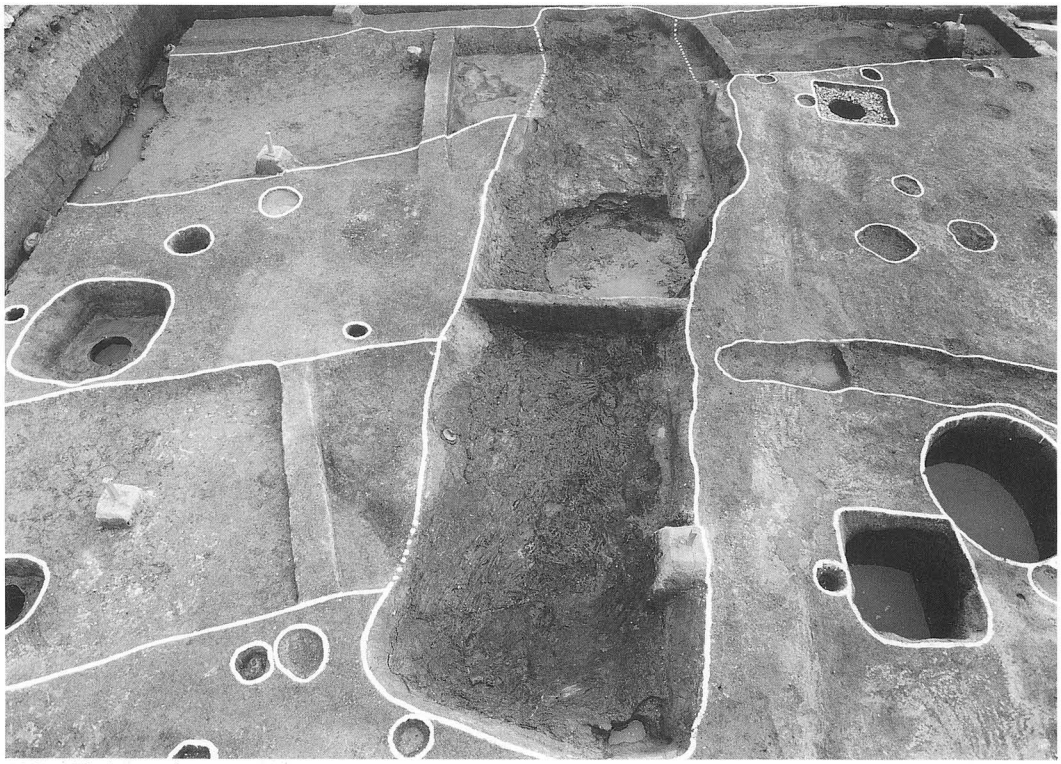
SK-6（南から）



SK-5（北から）

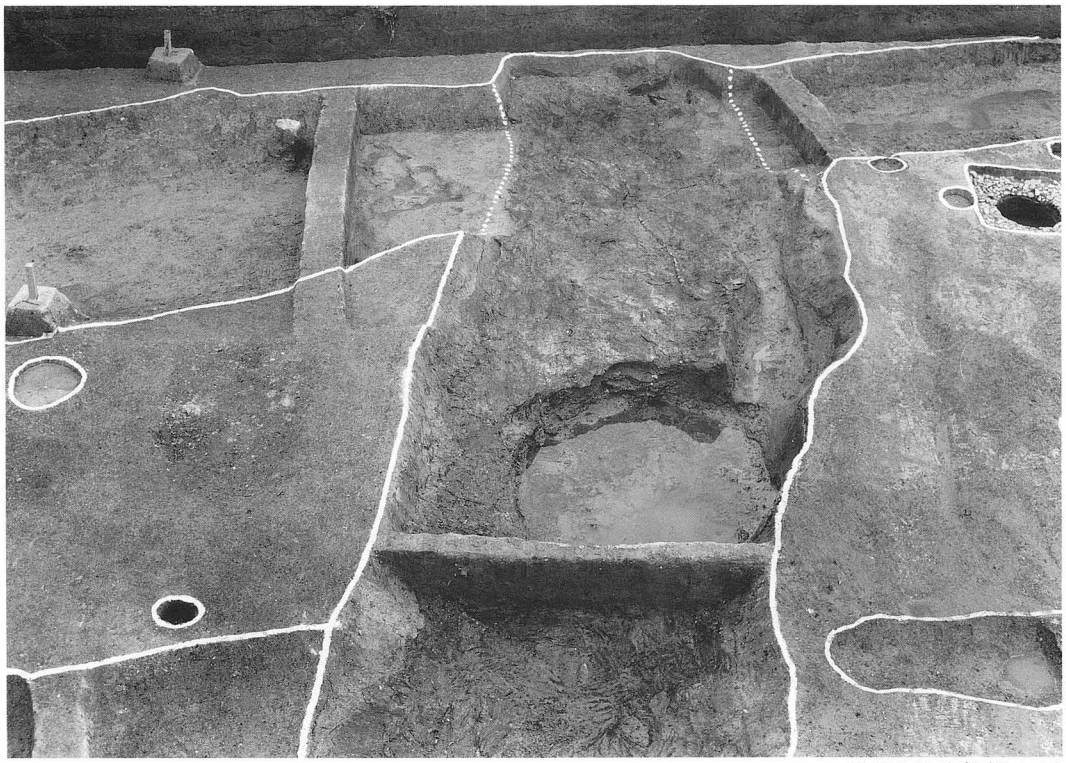
同上 断面（南から）

図版一六



池状遺構（北から）

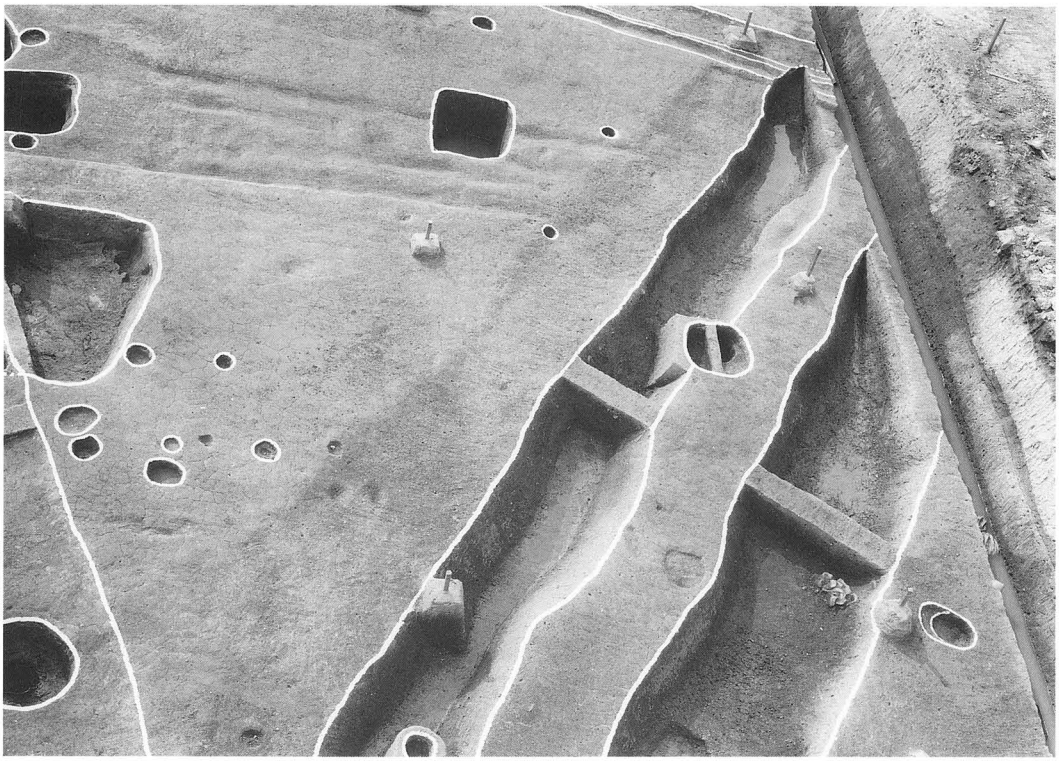
同上 断面（南から）



池状遺構 南部（北から）

同上 北部（北から）

池状遺構遺物出土状況（西から）



SD-1・SD-2（東から）